

特223

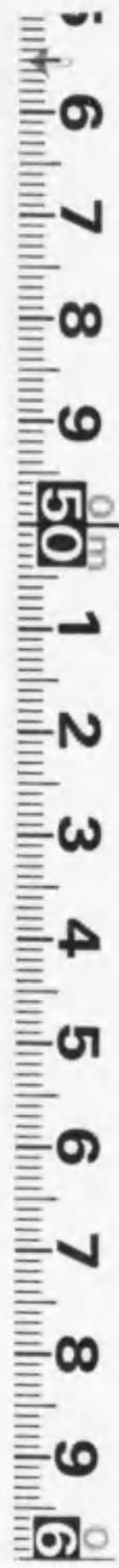
628

文學士 神山五黃先生著

實用占筮
易學講義錄

(第七卷)

東京 神山易學會藏版



始



特 223
628

文學士 神山五黃先生著

實用
適用

易學講義錄 (第七卷)

東京 神山易學會藏版



實用 易學講義錄第七卷目次

經文講義

(澤火革)

九三	一一五九
九四	一一六二
九五	一一六四
上六	一一六七
火風鼎	一一六九
初六	一一七一
九二	一一七五
九三	一一七八
九四	一一八一
六五	一一八四
上九	一一八七
震爲雷	一一八九
初九	一一九二

六二	一一九四
六三	一一九七
九四	一二〇一
六五	一二〇三
上六	一二〇五
艮爲山	一二〇八
初六	一二一一
六二	一二一四
九三	一二一七
六四	一二二〇
六五	一二二二
上九	一二二五
風山漸	一二二七
初六	一二三〇
六二	一二三三
九三	一二三六
六四	一二三九
九五	一二四二

雷澤歸妹	上九	一二四五	巽爲風	九三	一二九七
初九	一二四八	九四	一二九九		
九二	一二五一	六五	一二九二		
六三	一二五四	上九	一二八四		
九四	一二五七	初六	一二八〇		
六五	一二五九	九二	一二七一		
上六	一二六二	九三	一二七四		
雷火豐	初九	一二六八	六四	一二六一	
初九	一二七一	九五	一二五九		
六二	一二七四	上九	一二五二		
九三	一二七八	初九	一二四四		
九四	一二八一	九二	一二三六		
六五	一二八五	六三	一二二八		
上六	一二八七	九四	一二二〇		
火山旅	初六	一二九〇	九五	一二一三	
初六	一二九三	上六	一二〇五		
六二	一二九五	兌爲澤	初九	一一九七	
		初九	一一八九		
		九二	一一九二		
		六三	一一八四		
		九四	一一七六		
		九五	一一六八		
		上九	一一六〇		
		初九	一一五二		
		九二	一一四四		
		九三	一一三七		
		六四	一一二九		
		九五	一一二二		
		上六	一一一四		
		初九	一一〇六		
		九二	一一〇〇		
		六三	一一〇二		
		九四	一一〇四		
		九五	一一〇六		
		上六	一一〇八		

風水渙	初六	一三四七	雷山小過	初六	一四〇五
九二	一三五一	上九	一四〇二		
六三	一三五七	初九	一三九九		
六四	一三五九	九二	一三九二		
九五	一三六一	六三	一三八四		
上九	一三六三	九四	一三八七		
水澤節	初九	一三六六	九五	一三八〇	
初九	一三七〇	上六	一三七二		
九二	一三七二	水火既濟	初九	一四二六	
六三	一三七五	初九	一四三〇		
六四	一三七八	六二	一四三三		
九五	一三八一	九三	一四三六		
上六	一三八三	六四	一四三九		
風澤中孚	初九	一三八八	九五	一四四二	
初九	一三八八	上六	一四四五		
九二	一三九一	火水未濟	初九	一四四七	
六三	一三九四	初九	一四四二		
		九二	一四三九		
		六三	一四三六		
		九四	一四三三		
		九五	一四三〇		
		上六	一四二七		
		初九	一四二四		
		九二	一四二一		
		六三	一四一八		
		九四	一四一五		
		九五	一四一二		
		上六	一四〇九		
		初六	一四〇六		
		九二	一四〇三		
		六三	一四〇〇		
		九四	一三九七		
		九五	一三九四		
		上九	一三九一		

經文講義

(續)

初六	一四五〇
九二	一四五二
六三	一四五五
九四	一四五八
六五	一四六一
上九	一四六三
占筮法講義補追	一四六七
實例一爻のみが變じたる場合	一四六七
實例二數爻又は全爻の變じたる場合	一四六八
實例三全爻不變の場合	一四六九

(目次をばり)

九三 征凶。貞厲。革言三就，有孚。

(爻辭讀方) 征くときは凶なり。貞ならば厲し。革言三たびして就り、孚あり。

(象 義) ◎「革言」改革に關する論議のこと、革は卦名の象、言は上卦兌の象なり。◎「三就」熟慮審議して後に成就する意にて、三より四と五とを歴て革道始めて成り、上交に至れば則ち三爻を闕す。三就の象なり。◎「有孚」三爻より上交迄にて坎の體を成し、三陽中實なる象を取りて云ふ。

(意 義) 九三が内外變動の危地に在りて、過剛不中にして離の極に居り、變ずれば震となりて躁動の象あるは、革に當りて、輕躁妄斷に走る懼れあるものである。故にこれを「征凶」と云つて妄進を戒しめたのであるが、さりとて今革の時に處するものであるから、偏固に流れて舊常を拘守し、時機を失ふことがあれば、乃ち危険に陥るに至るものである。故に亦これを「貞厲」と云つて戒しめたのである。これ九三が正を得るも中徳を失し、且その處る所の時と地の如何に因るが爲である。それ革の道たる、事理を審にし、緩急宜しきを得て、始めてその全きを得るもので、よく此道を順守し進めば、改革を遂げて人の信を得るに至るものである。即ちこれを「革言三就、有孚」と云つたのであつて、「革言三就」とは改革の可否失得を充分論議し、反復詳明してこれを斷行せば成就することを得る意であり、「有孚」とは斯くの如く慎重の態度を取れば、人がその誠意を認めこれに信從するに至ると云ふ意味である。要するに此爻改革を行ふに當りては、時と位とを悟りて輕躁妄斷に走らず、又偏固に失せず、徳を以て熟慮審議し、而して後これを斷行して、始

めて他の信従を得てこれを全うし得べきことを教へ諭したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻過剛不中を以て内外變動の際に處し、「征凶。貞厲」の象あるもの、即ち此爻を得たる時、一身上氣運變轉の象があり、輕躁妄動に流れて凶災を招き、又偏狹頑固に流れて危難に陥る憂ひあることを示すものなれば、宜しく「革言三就、有孚」とある如く物事に當りて慎重の態度を守り、改むべきことはこれを一新し、誠實を以て人の信を結ぶ心掛けが肝要である。然らばよく此の氣運に處して災厄危難を免れ、人の信用を得て身を全うし得るものである。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「征凶」とある如く、爻意爻象より見て、何れも躁進妄動して凶を招く象あれば「革言三就、有孚」とある如く、慎重の態度を守りて先づ人の信用を得る様心掛け、然る後に進むべし。

◎相場 此爻重剛を以て離火の極に居るは、今相場高き象なるも、内外變動の際に處し、變卦隨は剛、柔に下り従ふ象なれば、先行き浮動して結局下る象なり。

◎縁 談 爻辭に「征凶」とあるは、縁談輕進して凶を招く象なり。宜しく「革言三就、有孚」とある如く慎重の態度を以て縁談を運ぶ心掛け肝要なり。

◎子 實 此爻過剛不中を以て離の極に居り、輕躁妄進して凶を招く憂ひあるは、強剛にして順徳を欠き、身を過つ憂ひある兒女を持つ象なれば、「革言三就」とある如く、養育上慎重の方針を守ること大切なり。姪娠此爻剛正にして變體震長男となすは、男兒の象なり。

◎縁 運 此爻輕躁妄進して凶を招く象あるは、男女共に輕卒に縁を定めて凶運を招く憂ひあることを示せば「革言三就」とある如く、慎重の態度を以て縁を定むる心掛け肝要なり。尙此爻過剛不中を以て離の極に居るは男は、氣性烈しき女を妻とし、女子は短慮強剛の夫に添ふ象あり。

◎家庭運 此爻革の時に當り、内外變動の際に處するは、家運變動の重大時に生る象なり。宜しく「征凶貞厲。革言三就有孚」とある如く、慎重の態度を以て輕躁に流れず、偏固に失せず、進退宜しきを得て、これに善處すること肝要なり。

◎壽 命 此爻剛正なるは體質強き象なるも、輕躁妄進して凶を招く象あるは不攝生に流れて健康を損じ、壽を縮むる象あることを示せば、「革言三就、有孚」とある如く、攝生を嚴守して天壽を保つ心掛け肝要なり。

◎病 氣 此爻内外變動の危地にあるは、病氣重態危険にして特に病勢變轉の象あることを示すものなり。宜しく「革言三就」とある如く、養生に落ちなき様充分に注意すること大切なり。

◎待 人 爻辭に「革言三就、有孚」とあるは、今直に來らず、再三催足して漸く來る象なり。

◎走人、失物 此爻内外變動の際に在るは、走人未だ遠方に走らず、失物外に出てざる象なり。而して「革言三就、有孚」とあるは、何れも急に判明せざるも、手を盡して尋ねれば判明するに至る象なり。下離は南變震は東、その方角を尋ねべし。

◎旅立、争事 爻辭に「征凶」とある如く、此爻輕躁妄進し凶て災を招く象あるもの、何れも進むは凶なり。

◎就職、試験 爻辭に「征凶。貞厲」とあるは、就職成就せず。試験不成績の象なり。宜しく「革言三就」

とある如く、慎重を守り努力して時を待つべし。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「征凶」とあるは、何れも進むべき時機にあらざる象なり。然し又「貞厲」とあるは、現狀を固守することも亦不利の象なれば、「革言三就」とある如く、慎重の態度を以て方針を考究し、時機を計りて進む様心掛くべし。

◎天 候 此爻陽を以て正に居り、離明に體するは、今天氣良好の象なるも、革の時に當りて内外變動の際に處し、變卦隨となるは、天候變じて不良となる象なり。

九 四 悔亡。有孚。改命吉。

(爻辭讀方) 悔亡。孚とすること有り。命を改めて吉なり。

(象 義) ◎「有孚」衆人これを信するの義、孚は三爻より上交迄に積坎中實の象あるより取る。◎「命」天命の命に同じく、祖先の遺命にして、現代の憲法の如きものなり。互體巽の象。

(意 義) 此爻不中不正にして下に應交なきは、本來悔いあるべきものであるが、今革の時に於いて、下體を離れて上體に進めるは、離の夏を過ぎて兌の秋に移れるもので、革の時を得たるものであり、且陽を以て陰に居り、剛柔宜しきを得て、近君宰相の地位に在るは、革道を行ふべき地位と才力を備ふるものである。故にこれを「悔亡」と云つたのである。それ九四が斯くの如く、時と位と才とを具備して改革を行ふ時は、必ず上下皆これを孚として疑を挾まず、民心を得て革命の志を遂げ、吉を得るものである。故にこれを「有

孚。改命吉」と云つたのである。

(占 斷)

◎運 勢 爻辭に「悔亡。有孚。改命吉」とある如く、爻意爻象より見て、時勢を得、且地位才力を備へて、境遇を革新し、物事を改めて人の信を受け、氣運を轉じて吉を得る象である。

◎願望、金談、賣買 亦爻辭に「悔亡。有孚。改命吉」とある如く、何れも進みて功を遂げ、吉利を得る象なり。

◎相 場 此爻時を得且、才力を備ふるは、相場高き象なるも變卦水火既濟は、初め吉にして終り亂るゝ象なれば、先行き上りて後下るべし。

◎縁 談 爻辭に「有孚。改命吉」とあるは、先方の信用を得て縁談纏り、又良縁の象なり。

◎子 實 此爻才力を備へて革道を遂げ、吉を得る象あるは、働きありて家運を興新する兒女を得て幸福の象なり。姪姪此爻陽剛を以て宰相の位に居り、變體坎を中男となすは、男兒の象なり。

◎縁 運 爻辭に「悔亡」とあり、又「改命吉」とあるは、男女共に初め苦勞ありて後幸福を得るか、或は縁變りて幸福を得る象なり。

◎家庭運 爻辭に「悔亡」とあり、又「改命吉」とある如く、爻意爻象より見て、才力を備へ、時を得て、よく家運を革新し、初め困難苦勞あるも、後には吉祥幸福を得る象なり。

◎壽命、病氣 爻辭に「悔亡。有孚。改命吉」とあるは、壽命上初め故障病難の象あるも、後體質改りて

健康長壽を得、病氣、病勢好轉して全快を得る象なり。

◎待人 爻辭に「有孚」とあるは、先方が當方を信頼し居る象にして、「改命吉」とある如く、來る象なり。

◎走人、失物 爻辭に「悔亡」とあるは、走人判明し、失物出づる象なり。而して「改命吉」とあるは、捜査の方針を變じて早く功を遂ぐる象なり。上兌は西、變坎は北、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事 此爻時と位を得、且才力を備へて「改命吉」とある如く、改革の志を遂ぐるもの、何れも進みて吉なり。

◎就職、試験 爻意爻象よ見てり、就職調ひ、試験好成绩を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「改命吉」とある如く、爻意爻象より見て、何れも進みて吉なること説明の要なし。

◎天 候 此爻陽にして「改命吉」の象あるは、天候改りて良好となる象なるも、變卦既濟初め吉にして終り亂るゝ象あれば、永續せずして再び悪化すべし。

九五 大人虎變。未占有孚。

(爻辭讀方) 大人は虎變す。未だ占はずして孚有り。

(象 義) ◎「大人」九五剛健中正を以て尊位に居るの象。◎「虎變」虎舊毛を脱して新毛を生ずれば、

斑明愈美となることを云へるものにて、これを改革の善美なることに喩へたるなり。虎は兌の象より取る。

(意 義) 九五は陽剛の才、中正の徳を備へて尊位に在り、革の主となりて、天意に従ひ人心に應じて、

舊制を一新して善美なる新制と爲すこと、恰も虎毛の更新して愈鮮美となるが如きものがある。故にこれを「大人虎變」と云つたのであつて、凡そ獸毛の變ずるのは夏秋の際で、此卦夏より秋に移る象があり、又變革の義を現すものであるから、これを虎毛變革の義を以て辭を係けたのである。それ九五が斯くの如き才徳ある大人にして、天下に君臨し、改革を行へば、その道全きを得て萬民これに悦服することは言を俟たぬ所であつて、これを占ひて鬼神にその可否吉凶を質す要のないものである。故にこれを「未占有孚」と云つたのである。要するに此爻、五九剛健中正の徳を以て、陽剛の才、中正の明德を有する君主が、改革の事を行へば、その道善美を得て萬民の悦服することを説き示し、これを嘆美したのであり、又此爻に於いて革道成就せるものである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛健中正を以て尊位に居り、革道の善美を得るもの、即ち此爻を得たる時、人の上に立ち、才力徳行を備へて時勢を得、物事功を遂げ、志を達して吉祥盛大を得る運勢である。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「大人虎變。未占有孚」とある如く爻意爻象より見て、願望金談意の如く成就し賣買願調に運びて大利を得る象なり。

◎相 場 此爻剛正を以て尊位に在るは、相場高き象にて、變卦震爲雷は震雷相踵ぎて動く象なれば、尙一

屑上るべし。

◎縁談 爻辭に「未_レ占有_レ孚」とあるは、縁吉にして纏ること疑ひなき象なり。

◎子實 此爻剛健中正にして尊位に居り、革道の善美を遂ぐるもの、才力徳行を備へて大いに成功する兒女を得て幸福の象なり。姪姪此爻剛健中正を以て君位に居り、變體震を長男となすは、男兒の象なり。

◎縁運 爻辭に「未_レ占有_レ孚」とある如く、此爻改革の志を遂げて善美なるもの、男女共に縁運吉祥幸福の象なり。而して剛健中正を以て尊位に居るは、特に女子は才徳を兼備し、身分高き夫に添ふ象なり。

◎家庭運 此爻剛健中正を以て尊位に居るは、才力徳行を備へて富貴の家に生れたる象にて、「未_レ占有_レ孚」とある如く、盛大幸福の運勢なり。

◎壽命、病氣 爻辭に「未_レ占有_レ孚」とある如く、爻意爻象より見て、健康長壽を得、病氣全快を見ること明かなり。

◎待人、走人、失物 爻意爻象より見て、待人來り、走人失物判明すること説明の要なし。上爻は西、變震は東、その方角を尋ねべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「未_レ占有_レ孚」とある如く、此爻剛健中正の徳を以て、改革の志を遂ぐる君主の象なるは、旅立吉、爭事勝利、就職成就、試験好成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 亦爻意爻象より見て、何れも進みて吉なること説明の要なし。

◎天候 此爻剛健中正を得るは、天氣良好の象なり。

上六 君子豹變。小人革_レ面。征凶。居_レ貞吉。

(爻辭讀方) 君子は豹變す。小人は面を革む。征くときは凶。貞に居らば吉なり。

(象義) ◎「君子」約象乾の象。◎「豹變」兌の象。◎「小人」上六陰爻の象。

(意義) 上六は革の終りに居り、革道既に成れる時であるから、上は聖賢君子より下は卑賤の小人に至る迄、一として舊態を革めぬものはないのである。故にこれを「君子豹變。小人革_レ面」と云つたのである。而して九五にては虎變と云ひ、上六にては豹變と云つたのは、九五は陽を以て君位に居り、上六は陰を以て無位に居るからで、乃ち虎變は文章の大なるもので、豹變は文章の小なるものである。さて上六は改革が終つたばかりの所であるから、又更に改革を行ふ様では、人民が奔命に疲れて適從する所がなく、その凶の道たることは云ふ迄もない。故に「征凶」と云つてこれを戒しめたのである。即ち一旦改革を行つた上では、當分これを固く守つて動變せずして、始めて吉なることを得るのである。故にこれを「居_レ貞吉」と云つたのである。要するに此爻、革道成れる後の戒しめを説き示したのである。

(占斷)

◎運勢 此爻卦の終りに居りて革道成れる象。即ち此爻を得たる時、物事治まり、功業成れる運勢を示すものである。宜しく斯くの如き際にありては「征凶。居_レ貞吉」と戒しめる如く、萬事進むを戒しめ、退き守りてその功を全うする心掛けが肝要で、若し足ることを知らずして妄進すれば、凶災に陥る憂ひがある。

◎願望、金談、賣買 此爻革道成れる象なるは、何れも功利を遂ぐる象なるも、調子に乗りて進む時は、「征凶」とある如く折角の功を破りて凶災不利を招く象あれば、「居貞吉」とある如く、自重退守の心掛けを守ること大切なり。

◎相場 此爻卦極の高きに居るは、今相場高き象なるも、柔正を以て毀折の象兌の主たるは、「豹變」とあり又「革面」とある如く、様變りを示して崩るゝ象なり。

◎縁談 爻辭に「征凶。居貞吉」とあるは、縁談見合せて時節を待つを吉とする象なり。

◎子實 此爻革道成りて運氣盛んなる象あれば、子供運吉祥幸福なることを示すも、「征凶。居貞吉」と戒しめあるは、慢心増長して運氣を破る憂ひあることを示せば、慎しみ肝要なり。妊娠此爻柔正にして少女の象兌の主たるは、女兒なり。

◎縁運 爻辭に「征凶。居貞吉」と戒しめある如く、男女共に我儘を慎しみ、貞止の心掛けを守らば、縁運吉祥幸福を得べし。

◎家庭運 此爻革道成りて運氣盛んなる象なるは、盛家に生れて幸福の運勢なるも、「征凶。居貞吉」と戒しめある如く、慢心増長して行ひを亂し、幸運を破らざるやう慎しみを守ること大切なり。

◎壽命、病氣 爻辭に「征凶。居貞吉」と戒しめあるは、健康長壽を得るも、病氣の全快を得るも、攝生養生の如何にあることを示すものなり。

◎待人、走人、失物 此爻革道成りて運氣盛んなる象なるは、待人來り、走人失物判明する象なり。上兌は西

變乾は西北、その方角を尋ぬべし。尙此爻卦極にあるは、失物高所にある象なり。

◎旅立、爭事 爻辭に「征凶。居貞吉」とあるは、何れも進みて凶の象なれば、中止すべし。

◎就職、試験 此爻革道成れる象なるは、就職調ひ、試験好成绩を得る象なるも、「征凶。居貞吉」と戒しめある如く、調子に乗りて慢心に流れざる注意肝要なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「征凶。居貞吉」と戒しめあるは、何れも進むは凶にして、現状を守るを吉とする象なり。

◎天候 此爻陰を以て正にあり、毀折の象兌に體するは、天氣不良の象なり。然し變卦同人は太陽天につく象なれば、後晴るべし。

☲☱ 火風鼎 鼎元吉亨。

(卦辭讀方) 鼎は元はじめに吉よきにして亨よまる。

(象義) ◎「鼎」鼎は饗燕祭祀に當り、食物を煮たきする三足兩耳の金屬製の器物なり。此卦初の陰爻は足に當り、二三四の陽爻は腹に當り、五の陰爻は左右の耳に當り、上の陽爻は鉉かたに當りて、鼎の形狀を成す。故にこれを鼎と名づけたのである。又下卦巽を木となし、上卦離を火となす。即ち巽木を離火に入れて煮にる象があるから、鼎と名づけたのである。而して此卦を革の次に置いた譯は、序卦傳にも「物を革む

るものは鼎に若くはなし」とある如く、鼎を以て物を煮ればその物が變革するからであつて、變革の後、當に鼎の端重を以てこれを守るべきことを示したのである。

(意 義) 鼎は物を烹飪して上帝を享り、聖賢を養ふものであり、又卦徳を以て云へば、内は巽順にして外は離明なるものである。それ斯くの如きを徳を以て行けば、即ち元に吉にして亨る所以である。又これを爻を以て見れば、五六の君主柔中の徳を以て、九二剛中の賢臣と相應じ、共に協力して天下を治むる象で、諸事大いに通達する所以である。故にこれを「鼎元吉亨」と云つたのである。要するに此卦、鼎の性徳を以て天下統治の道を説き示したのである。

因に云ふ。此卦の卦辭に於いて「吉」の辭を衍文となす説があるが、卦辭その儘にても解釋を下し得るのであるから、強ひてこれを衍文とするにも及ぶまいと考へるのである。

(占 斷)

◎運 勢 卦辭に「元吉亨」とある如く、卦意卦象より見て、運氣盛大にして諸事通達し、吉祥を見る運勢である。

◎願望、金談、賣買 亦爻辭に「元吉亨」とあるは、何れも順調に運びて功利を遂ぐる象なり。

◎相 場 此卦巽木を離に投じて物を烹飪する象。即ち相場上るべし。

◎縁 談 卦辭に「元吉亨」とあるは、良縁にして順調に纏る象なり。

◎子 寶 此卦尊位にある六五と、下位にある九二、共に中徳を備へて相應じ、「元吉亨」象あるは、親子和

合して諸事順調を得、幸福を得る象なり。姪姪此卦上離を中女となし、下巽を長女となすは、女兒の象なり。◎縁運、家庭運 卦辭に「元吉亨」とある如く、卦意卦象より見て、男女共に縁運吉祥幸福を得、家庭運亦順調に運びて盛大幸福を得る象なり。

◎壽命、病氣 卦意卦象より見て、「元吉亨」とある如く、健康長壽を得、病氣全快すること説明の要なし。

◎待人、走人、失物 此卦物事通達の象を示すは、待人來り走人失物直に判明する象なり。上離は南、下巽は東南、その方角を尋ねべし。

◎旅立、爭事 卦辭に「元吉亨」とある如く、此卦物事通達の象なるは、旅立出て吉にして、爭事勝利を得て悦びある象なり。

◎就職、試験 卦意卦象より見て、「元吉亨」とある如く、就職順調に運び、試験好成績を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 亦卦意卦象より見て、進んで吉なること説明の要なし。

◎天 候 此卦通達の象なるは、天氣良好なる象なり。

初 六 鼎顛趾。利出否。得妾以其子。无咎。

(爻辭讀方) 鼎趾を顛にす。否を出すに利し。妾を得て其の子を以てす。咎無し。

(象 義) ◎「趾」初爻鼎足の象。◎「否」汚穢なる洋のこと、初六陰濁の象。◎「妾」賤婦を云ふ。初六陰柔不中正の象。又下卦巽の象。◎「子」初爻の象。

(意 義) 初六は鼎を用ゐるの初めてである。而して鼎を用ゐるに當つては、先づその内部を清潔にして然る後に使はなければならぬものである。それで鼎の足は皆空虚になつて居つて、鼎中の渣滓濁れがその部分に沈澱するやうになつて居るものである。故に鼎を用ゐるに當つては、これを倒しまにして汚濁の沈澱せる物を出して清潔にしたものである。即ち初六は鼎の足であるから、これを倒さまにして汚濁の物を出して清潔にすることは、當然なすべきことである。故にこれを「鼎顛趾。利出否」と云つたのである。本來鼎と言ふものは、これを起して正位に置くのが當然であつて、これを倒さまにするのは當を得ないことであるが、今はこれを清潔にする爲に倒さまにするのであるから、咎なくして利しき所以である。即ちこれを人事に喩へて見ると、妾を置いて子を得るが如きもので、正妻がある上に卑賤な妾を置くと云ふことは、順道でなく醜きことではあるが、實子のない人が妾を置いて子供を得れば、その爲に世續が絶えず、祖先の祭祀を行ふことが出来るから、咎なきものである。即ちこれを「得妾以其子。无咎」と云つたのであつて、これは初六が九四に應じて相互にその志を遂ぐる象を取つて云つたので、初六は卑賤の小民であり、九四は近君の大臣であるが、初六は九四の大臣の力を借りねばその志を遂ぐる事が出来ぬが、九四と雖も亦初六の助けを要するのであつて、九四が大臣の高位にありながら、卑賤の小民たる初六の助けを受けるのは、妾を置くと同様に順道とは云はれないが、その大臣の任を盡す爲であるのは、妾を置いて相續者たる子を得るが如きものであつて、即ち鼎の足を倒さまにして否を出すに當るものである。此爻の要旨は意義の説明によつて自ら明かである。

(占 斷)

- ◎運 勢 此爻陰柔不正を以て最下に居るは、才力乏しく時を得ず、艱難辛勞を免れざる象あるも、鼎中の否を出し、又上九四と應じてその助けを得て志を遂ぐる象あるは、先づ自己の非を去り、身上の故障妨害を除きて、目上の有力なる人に親しみ、その力を借りて進まば、今直に望みを達し、物事功を遂ぐる能はざるも、「无咎」とある如く、遂に故障困難を排し、氣運を轉じて吉祥順調を得るに至るものである。
- ◎願望、金談 爻意爻象より見て、今直に功を遂げ難き象なるも、「利出否」とある如く、先づ自己の缺陷身邊の故障を排除し、應爻九四の如き目上の有力者の援助を求めて進まば、否を出して鼎の用を得、咎なきを得るが如く、遂に望みを遂げ得るに至るものである。
- ◎賈 買 爻辭に「鼎顛趾。利出否」とある如く、先づ賈買共に利を望む前に、その目的を達する爲に故障を除き、準備を完全にし、進むこと肝要なり。然らば「无咎」とある如く、功利を遂げ得べし。
- ◎相 場 此爻陰柔を以て最下に在るは、相場今安き象なるも、變卦火天大有となるより見て、先行上るべし。
- ◎縁 談 此爻陰柔不正にして最下に居り、汚濁を沈澱せしむる鼎足の象なるは、縁談吉ならざる象なれば見合すべし。
- ◎子 實 爻辭に「得妾以其子」とあるは、正妻に子なく、妾を置きて子を得る象なり。而して「无咎」とあるは子供運大體平穩の象なり。妊娠此爻陰柔を以て長女の象異に體するは、兒女なり。

◎夫運 此爻陰柔不中正にして最下に居るは、才力乏しく地位卑き夫に添ふ象なり。

◎妻運 爻辭に「得妻以_レ其子」とあるは、正妻に縁薄く、却て妾を得て満足を見る象なり。

◎家庭運 此爻陰柔不中正を以て最下に居り、鼎中の汚濁を受入る、鼎足の象なるは、卑賤微運の家に生れ才力乏しき象なり。宜しく「利_レ出_レ否」とある如く、努力して運氣を興新する覺悟肝要なり。然らば「无_レ咎」とある如く、氣運を轉じて大體無事安泰を得るに至る望みあり。

◎壽命 此爻陰柔不中正なるは、體質弱き象なり。宜しく「利_レ出_レ否」とある如く、惡質の改善に努力すべし。然らば「无_レ咎」とある如く、人並の壽を保ち得べし。

◎病氣 此爻鼎中の汚濁を沈澱せしむる鼎足の象なるは、體内に陰毒を藏する象なり。宜しく「利_レ出_レ否」とある如く、これを排出する方法を講ずべし。然らば「无_レ咎」とある如く、全快の望みあり。

◎待人 此爻鼎の足を倒さまにする象なるは、待人來らざる象なり。

◎走人、失物 此爻陰柔を以て、潜伏の象異の下にあるは、走人何所か近くに潜伏し居り、失物何かの下になり居る象なり。而して變卦大有となるより見て、何れも判明すべし。下巽は東南、變乾は西北、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 此爻陰柔不中正を以て最下に居るは、才力乏しくて財位を得ざるもの、旅立爭事凶にして、就職望みなく、試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 亦此爻時位を得ざるは、何れも進むの凶なる象なり。

◎天候 此爻陰柔不中正なるは、天氣不良の象なり。然し元來陽位にして變卦大有は太陽中天に上る象なれば、後晴るべし。

九 一一 鼎有_レ實。我仇有_レ疾。不_レ我能_レ即。吉。

(爻辭讀方) 鼎に實有り。我が仇疾有り。我れに即く能はず。吉なり。

(象義) ◎「有_レ實」九二鼎腹に居りて陽實の象あるを云ふ。◎「我」九二自身を指す。◎「仇」初六を指す。陰柔不中正なるを以てなり。◎「疾」又初六陰柔不中正の象。

(意義) 九二は鼎の腹に當り、陽爻にして中實であるから、これを「鼎有_レ實」と云つたのであつて、九二が剛中の徳を備へて、六五柔中の君に陰陽相應じて居るのは、鼎の功用を遂ぐるもので、よく君子の世を濟ふに當るものであると云ふ意味である。然るに初六が陰柔不中正を以てこれに近比して居るのは、九二を妬みてこれを害せんとするものである。故にこれを「我仇有_レ疾」と云つたのであるが、九二は剛中の徳を備ふる君子で、正しきを守りて六五に應じて、汚濁なる初六の親比し來るを退ける爲に、初六は隙の乘ずべき所なく、從つて九二はその害を免れて吉を得るものである。即ちこれを「不_レ我能_レ即。吉」と云つたのである。要するに此爻、九二が剛中の徳を以て正しきを守り、初六の害を退けて吉を得る象を取つて、有徳の君子が正固を守りて、小人の禍害を犯されざることを賞讃したのであるが、古來人爵高く祿厚き時は、凶禍を免れざるもの多き所以は、仇の我れに即くが爲である。宜しく此爻の義を悟りて戒しむべきである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛中を以て上柔中の六五に應じ、初六の邪比を退け、中實を正固にして吉なるもの、即ち此爻を得たる時、才力を備へ、心志剛毅正固にして、然も上に有力なる援助者を有し、己れに仇するものを退けて禍害を妨ぎ、功を遂げ吉祥を得る運勢である。尙爻意爻象より見て、謹慎を守りてこれに善處する心掛けが肝要である。

◎願望、金談、賣買 此爻剛中の徳を以て上六五の柔中に應じ、鼎の功用を遂げて吉なるもの、願望金談成就し、賣買功利を擧げ得る象なり。

◎相 場 此爻剛中を得、鼎に實ある象なるは、相場頑強の象にして、變卦火山旅となるより見て、先行き一時氣迷ふ象あるも、火山上に上る象なれば結局上るべし。

◎縁 談 此爻剛中の徳を以て、鼎の功用を遂ぐる象なるは縁談纏る象にて、吉とあれば縁としても良縁なり。

◎子 寶 此爻剛中を得て中實の象あるは、才力に富み心志剛毅なる兒女を得る象にて、上六五に應じ鼎の功用を遂げて吉なるは、親に仕へて從順にして、而も成功を克ち得ることを示し、子供運幸福の象なり。姪娠此爻剛中にして變體良を少男となすは、男兒の象なり。

◎夫 運 此爻剛中の徳を備へて鼎の功用を遂ぐるもの、才力を備へて成功し、而も信實ある夫に添ひて幸福の象なり。

◎妻 運 此爻剛中を以て上六五に應ずるは、目上の順徳なる女を妻として幸福の象なるも、初六の邪比する象あるは、女難の憂ひあることを示せば慎しみを要す。

◎家庭運 此爻鼎に實ある象にして、上に六五柔中の助けあるは、實實富有なる家に生れ、寛容にして慈愛に富む親を得て幸福の象なり。然し初六の仇疾あるは、目下のことにて勞苦ある象なれば注意を要す。

◎壽 命 此爻中實にして吉なるは、健康長壽の象なり。

◎病 氣 此爻初六の仇疾を退けて吉を得るは、病氣全快する象なり。

◎待 人 此爻剛中を以て上六五に應じ、鼎の功用を遂ぐるは、待人來る象なり。

◎走人、失物 爻辭に「鼎有實」とあるは、走人失物共に判明する象にて、失物は何かの中に紛れ込み居る象なり。下巽は東南、變良は東北、その方角を尋ねべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻意爻象より見て、旅立吉にして、爭事有利に運び、就職成就し、試験好成績を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 此爻剛中の徳を備へ、上六五の助けありて、鼎の功用を遂げて吉なる象なるは、何れも進みて吉利の象なり。

◎天 候 此爻剛中を得るは、天氣良き象なるも、本來陰位にして、變卦旅となり、旅は安定を得ざるものなれば、後不良となるべし。

九三 鼎耳革。其行塞。雉膏不食。方雨虧悔。終吉。

(爻辭讀方) 鼎の耳革まる。其の行くこと塞がる。雉の膏食はれず。方に雨ふらんとして悔を虧く。終に吉なり。

(象 義) ◎「耳」六五を指す。◎「其行塞」互體乾を進むとなし、約象兌を毀折となす。乃ち其の行塞がる象なり。◎「雉」此爻變すれば互體離となる。雉の象なり。◎「膏」此爻變すれば下體坎となる。膏の象なり。◎「不食」約象兌を口となす。九三その下にあるは食はれざる象なり。又下巽を倒兌となすも食はれざる象なり。◎「雨」九三變すれば下體坎となる。雨の象なり。

(意 義) 九三は陽を以て鼎腹の中に居るもので、鼎中の美實なるものである。然しながら過剛不中で上に應爻の援けがなく、鼎の耳である六五に應ぜんとしても、正應でないからこれに應ずる筈がない。即ちこれを「鼎耳革」と云つたのであつて、耳が革まるとはこれが變ずる意味である。そこで九三が鼎の鉉に當る上九に應を求めても、同剛て亦これに應ぜず、鼎の耳が變じて居るのでこれに鉉を施す能はざるが如きものである。それ鼎は他の物と違つて、足を以て行かずして耳を以て行くものであるのに、今耳が變じて鉉を施すことが出来ないのは、これを用ゐることが出来ぬ譯で、鼎の用を爲さず、九三の美實もこれを上出せしめて食養とする道が塞がる譯である。故にこれを「其行塞」と云つたのである。斯くの如く、鼎の耳が革まりその行が塞つて居つては、鼎の功用を失つて居るもので、假令鼎中に雉の膏の美味があつても、これを人に

食せしめることが出来ぬものである。故にこれを「雉膏不食」と云つたのである。斯くの如く、九三が過剛不中正で、六五の應與を得ず、上九と同剛相拒むは悔あるものであるが、今變じて陰となり、その順德を守る時は、陰陽相和して坎の雨となり、その悔を消滅することを得て、終には吉を得るに至るものである。即これを「方雨虧悔。終吉」と云つたのである。要するに此爻、九三美實なるも、過剛不中にしてこれが功用を遂げざる象を取り、才力あるも過激に過ぎて自らその行路を塞ぎ、功を立つる能はざるものを戒しめて、これに諭ふるに順德を守るべきことを以てしたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻鼎中の美實なるものなるは、才力を備ふる象なるも、過剛不中にして應爻の援けなく「其行塞」象あるは、過激に流れて德を缺き、他の援助を得ずしてその才力を用ゐられず、不遇を招く象である。宜しく順德を守らば悔を免れて終に吉を得るが如く、溫順の心掛けを守りてその缺點を補ひ、以て才力を發揮して吉運成功を克ち得るやう努むべきである。

◎願望、金談、賣買 此爻過剛不中にして應爻の援けなく、雉の膏食はれざる象あるは、順德を缺き、才力を恃みて功を焦躁り、他の同情援助を失ひて、何れも功利を遂げ得ざる象なり。宜しく「方雨虧悔。終吉」とある如く、和順の德を守りて進むべし。然らば志を遂げて功利を得るに至るべし。

◎相 場 此爻剛を以て陽に居るは、今相場高き象なるも、過剛不中にして「鼎耳革。其行塞」象あり。且變卦澤水困となるより見て、上げ過ぎて止り、先行き下落する象なり。

◎縁談 爻辭に「其行塞」とあるは、縁談纏らざる象なり。過剛を慎しみ順徳を守りて終に吉を得る如く急がずして良縁の至るを待つべし。

◎子實 此爻剛正にして鼎中の美實なる象あるは、才力ある兒女を得る象なるも、過剛不中にして「其行塞」象あるは、徳を欠きて強暴に流れ、成功を失ふ憂ひあることを示せば、爻意に戒しむる如く、順徳を養はしむるやう留意すべし。然らば「終吉」とある如く、成功を得て幸福を得べし。妊娠此爻剛正にして變體坎を中男となすは、男兒の象なり。

◎縁運 此爻「其行塞」象あるは、男女共に縁運に故障苦勞多き象なり。宜しく爻意に戒むる如く、順徳を守るやう心掛くべし。然らば「終吉」とある如く、末には幸福を得るに至るべし。尙此爻過剛不中なるは、溫情を缺き粗暴なる連合ひに添ふ憂ひあれば注意すべく、又「雉膏不食」とあるは女子は美人薄命の象あり。◎家庭運 此爻上に應爻の援けなきは、兩親又は長上に縁薄き象にて、「其行塞」とあるは家庭上辛勞困難多き象なり。然し「方雨虧悔終吉」とあれば、溫順の徳を守らば末には幸福を得るに至る望みあり。

◎壽命 此爻過剛不中にして「其行塞」象あるは、體質強健なるも不攝生の爲に病難を招き、天壽を保たざる象あり。爻辭に「方雨虧悔終吉」とある如く、身を慎しみて攝生を守らば、健康長壽を得べし。

◎病氣 爻辭に「其行塞」とあるは、病氣長引く象なり。然し「方雨虧悔終吉」とあれば養生次第にて全快の望みあり。

◎待人、走人、失物 爻辭に「其行塞」とあるは待人來らず、走人遠方に走らず、失物内にある象なり。而して

て「終吉」とあれば走人失物共に手を盡して尋ねれば判明すべし。下巽は東南、變坎は北、その方角を尋ねべし。

◎旅立、争事 爻辭に「其行塞」とあるは、旅立故障困難に遭遇し、争事意の如く運ばずして不利を招く象なり。何れも中止すべし。

◎就職、試験 亦爻辭に「其行塞」とあるは、就職調はず、試験不成績の象なり。宜しく爻意に戒しむる如く、順徳を守りて將來の成功を期すべし。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「其行塞」とある如く、爻意爻象より見て、何れも進むは凶なり。時節を待つべし。

◎天候 此爻陽を以て正に居るは、今天氣良き象なるも、變じて下體坎となり、方に雨ふらんとする象あるは、後天候不良となる象なり。

九 四 鼎折足、覆公餗。其形渥。凶。

(爻辭讀方) 鼎足を打り、公餗を覆す。其の形渥たり。凶なり。

(象義) ◎「折足」約象兌を毀折となし、九四變すれば又約象震となりて足の象となすより取りて云ふ◎「公餗」餗とは鼎中にある所の實のことにて、九三に云ふ所の雉の膏の如きものなり。而して鼎中の實はこれを以て上帝を祭り、聖賢を養ふ爲の物にて、公有物なれば、則ちこれを公餗と云へるなり。◎「覆」初

爻より五爻迄にて種撓む象なる大過の卦を成し、又約象兌を毀折となすより云ふ。◎「渥」沾し濡らす貌、互乾を面となし、下巽を股となし約象兌の澤流を被むる象あるより取りて云ふ。

(意、義) 此卦、二三四爻皆陽剛にして鼎の實の象であるが、四に至つて鼎實充滿せる象である。而して初爻は鼎足に當り、九四の應位であるが、一陰の微弱なもので、充滿せる鼎實の重きに堪へ切れずして足を折る象がある。故にこれを「鼎折足」と云つたのである。斯くの如く鼎の足が折れれば、その中にある實も鼎と共に顛覆し、鼎の外面を汚し濡らすに至るもので、即ちこれを「其形渥」と云つたのである。さて九四は近君宰相の位に居り、公餗のことを掌るものであるが、表面は陽爻で賢良の態度を示すも、不中不正でその重任に堪へず、公餗を覆して鼎を汚濁するもので、その凶なること云ふ迄もないのである。要するに此爻九四の不中不正にして公餗を覆す象を取つて、大臣の重職にありて才徳なく、小人を信用してその職を汚し、大事を破り、罪責を免れざる義に喩へ、これを戒しめたのである。

(占、斷)

◎運、勢 此爻宰相の位に居るも、不中正を以て初六に感じ、公餗を覆して凶を招くもの、即ち此爻を得たる時、人の上に立つも才徳なく、目下の小人を信用して事を謀り、大事を破り身を過ち、凶災に陥る象である。宜しく謹慎自重して此運氣に善處し、凶災を免かるゝやう心掛くべきである。尙爻意爻象より見て、目下に就いての辛勞事、任務己れの才力に堪へざる象がある。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「鼎折足。覆公餗」。其形渥。凶」とある如く、爻意爻象より見て、願望金談絶

望にして、賣買失敗損失を招く象なり。

◎相場 爻辭に「鼎折足。覆公餗」とあるは、相場挫折崩落する象なり。

◎縁談 爻意爻象より見て、縁談纏らずして凶縁なること説明の要なし。

◎子實 此爻不中不正にして、鼎足を折り、公餗を覆して凶の象あるは、兒女才徳なくして身を破り、その爲に辛勞困苦を招く象なり。妊娠此爻陽を以て宰相の位に居り、變體艮を少男となすは、男兒の象なり。

◎縁談 爻辭に「鼎折足。覆公餗」。其形渥。凶」とある如く、爻意爻象より見て、男女共に縁運凶惡にして辛勞故障多く、縁變るか死別する憂ひあり。

◎家庭運 此爻陽實を以て宰相の位に居るは、富貴の家に生るゝ象なるも、鼎足を折り、公餗を覆し、其形渥として凶の象なるは、家運轉落して困苦に陥る象なり。而して不中正なるは才徳を缺きてこれに善處する能力なく、應爻初六との關係より見て、目下の小人を頼りて益困苦に陥る象あることを示す。

◎壽命、病氣 爻辭に「鼎折足。覆公餗」。其形渥。凶」とあるは、短命にして、病氣絶望の象なり。

◎待人、走人、失物 爻意爻象より見て、待人來らず、走人判明せざるか又は身上危く、失物出てざる象なり。

◎旅立、争事、就職、試験 亦爻意爻象より見て、旅立出てて凶災を招き、争事破れて困苦に陥り、就職望みなく、試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも進みて凶なること説明の要なし。

◎天候 此爻陽を以て離明に體するは、今天氣良き象なるも、爻辭に「鼎折足。覆公餗」。其形渥」とあ

り、變卦惑亂の象巽となるは、天候悪化する象なり。

六五 鼎黃耳金鉉。利貞。

(爻辭讀方) 鼎黃耳金鉉。貞に利し。

(象 義) ◎「黃耳」黃は六五中爻の象、中色を黃となすを以てなり。耳は又六五鼎の耳の位に當る象。

◎「金鉉」上九陽剛を以て鼎の耳たる六五の上にある象を指して云ふ。金は陽剛の象を取り、鉉は鼎の耳に施してこれを動かすものにして、上九の位置より云ふ。

(意 義) 鼎は耳を以て最も主要の部所とするものであるが、耳があるばかりでこれに施す鉉がなければ擧げ用ゐることが出来ぬもので、耳と鉉とが兼ね備つて始めて鼎の功用を全うし得るものである。今六五が鼎の耳の位に在りて虚中で、上九の陽剛がその上に位するのは、鼎の耳と鉉とが完備するもので、鼎の耳の穴に鉉をさしてこれを擧げ用ゐることが出来、その功用を全うし得るものである。故にこれを「鼎黃耳金鉉」と云つたのであつて、これを人事に喩へて見れば、六五の君主が柔中寛容の徳を備へて位に居り、上に上九剛明の賢師傳が在つて、六五の君主は此賢師に聽き、上九の賢師はこれを誨へ導き、兩者合して明治を布き天下の安泰を得るが如きものである。然し六五は柔中を得て居るけれども、陰柔にして正を得て居らぬから或は柔弱に流れて貞正を失する惧れがないとは云へぬから、正固の心を守りて上九の賢師に聽き、己れを虚しくして威權を挾むが如きことなきやう、これを「利貞」と云つて戒しめたのである。要するに此爻、六

五の象を以て明君の賢師を得て治道宜しきを得る狀を説き、併せて貞正の道を以てこれを全うすべきことを示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻柔中を以て君位に居り、上九の剛明に近比し、よく鼎の功用を全うするもの、即ち此爻を得たる時、寛容の徳を備へて人の上に立ち、剛明なる人物の援けありてよくこれに従ひ、以て大事を遂げ、運氣の吉祥安泰を得る象である。然し「利貞」と戒しめある如く、調子に乗りて妄動に走らず、心志を堅固に持つ心掛けが肝要である。

◎願望、金談、賣賈 此爻柔中の徳を備へて上九に比し、鼎の耳鉉完備してその功用を遂ぐるもの、徳備り、加ふるに有力なる援助者ありて、何れも功利を遂ぐる象なり。然し「利貞」と戒しめある如く、調子に乗りて折角の功利を失はざるやう慎しむを守ること肝要なり。

◎相 場 此爻君位の高きに居るも、陰柔にして變じて天風姤となれば、一陰下に長じて五陽を消する象なれば、今高きも先行き下るべし。

◎縁 談 爻辭に「鼎黃耳金鉉」とある如く、爻意爻象より見て、良縁にして纏る象なり。

◎子 實 此爻柔中を以て上九に比し、よく鼎の功用を全うする象なるは、温順にして孝心深く、成功する兒女を得て幸福の象なり。姪姪此爻柔にして中女の象離の中に在るは、女兒なり。

◎縁 運 爻辭に「鼎黃耳金鉉」とある如く、爻意爻象より見て、男女共に縁運吉祥幸福の象にして、特に

六五が柔中を以て君位に居り、上九に親比するは、男子の温順にして富貴の女を妻とする象なり。然し「利貞」と戒しめあれば、貞正の心を守りて此幸運を全うする心掛け大切なり。

◎家庭運 此爻柔中を以て君位に居り、上九に親比して鼎の功用を全うするは、温順の資を以て富貴の家に生れ、よき指導者ありて幸福を得る象なり。宜しく「利貞」と戒しめある如く、謹慎自重して此幸運を確保すること大切なり。

◎壽命、病氣 爻辭に「鼎黃耳金鉉」とある如く、爻意爻象より見て、健康長壽を得、病氣全快する象なり。然し「利貞」と戒しめある如く、安心油断して攝生養生を怠らざる心掛け肝要なり。

◎待人 此爻柔中を以て上九に親比するは、待人來る象なり。

◎走人、失物 爻意爻象より見て、走人失物共に容易に判明する象なり。上離は南、變乾は西北、その方角を尋ねべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「鼎黃耳金鉉」とある如く、爻意爻象より見て、旅立吉、爭事有利、就職成就、成績優秀の象なり。然し「利貞」と戒しめあれば、何れも慢心油断に陥らざること大切なり。

◎開業、轉業、移轉 亦爻意爻象より見て、何れも進みて吉なるも、「利貞」と戒しめあれば、妄動に走らざるやう注意すべし。

◎天候 此爻陰柔不正にして、變卦姤は陰長じて陽を消する象なれば、天候不良となるべし。

上九 鼎玉鉉。大吉无不利

(爻辭讀方) 鼎玉鉉。大吉にして利しからざる無し。

(象義) ◎「玉鉉」玉は上九陽剛にして柔位に居る象より取り、又離の象より取る。鉉は上九の位の象。

(意義) 鼎は鉉を以てこれを動かすもので、鉉の完全なるものを得て、始めてこれが功用を遂ぐるものである。今上九が剛を以て柔に居り、剛柔その宜しきを得るは、鉉の全きもので鼎の功用茲に於いて現はるるものである。故にこれを「鼎玉鉉」と云つたのであつて、六五から上九を見れば堅剛で、金鉉の象であるが上九自身から云へば剛を以て柔に居り、剛柔宜しきを得て居るものであるから、これを玉に喩へて玉鉉と云つたのである。而してこれを人事に喩へて見れば、上九は賢師で、六五の君を教導して治道宜しきを得せしむるものである。それ斯くの如く、上九は鼎に取りてはその功用を全うする玉鉉であり、人事に取れば君主を教導する賢師である。故にこれを「大吉无不利」と云つて讚美したのである。要するに此爻、その象を以て、君主を教導する賢師を讚美したのである。

(占斷)

◎運勢 此爻鼎の玉鉉の象にして、大吉にして利しからざるなきもの、即ち此爻を得たる時、才徳を備へて人の信を受け、運氣和平吉祥を得て諸事順調に運び、功を遂げ利を得る象である。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「大吉无不利」とある如く、願望金談意の如く成就し、賣買順調に運びて成功

利益を得る象なり。

◎相場場 此爻陽剛を以て卦極の高きに居るは、相場高き象にて、變卦雷風恒となるは、先行き持合ふべし。

◎縁談 爻辭に「大吉无不利」とあるは、頗る良縁にして纏る象なり。

◎子寶 此爻君主を助くる賢師の象なるは、才德兼備の兒女を得、「大吉无不利」とある如く、吉運幸福の象なり。姪姪此爻陽剛にして賢師の象あり。又變體震を長男となすは、男兒なり。

◎縁運、家庭運 爻辭に「鼎玉鉉。大吉无不利」とあり、變卦恒となるより見て、男女共に縁運吉祥幸福にして、家庭運亦富貴の家に生れて、盛大幸福を得る象なり。

◎壽命、病氣 亦爻辭に「大吉无不利」とあり、變卦恒となるより見て、健康長壽にして、病氣全快疑ひなき象なり。

◎待人、走人、失物 爻意爻象より見て、待人來り、走人失物直に判明する象なり。上離は南、變體震は東、その方角を尋ねべし。

◎旅立、争事、就職、試験 亦「大吉无不利」とある如く、旅立大吉、争事勝利、就職成就、成績優秀を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「大吉无不利」とある如く、何れも進みて大吉の象なり。

◎天候 此爻陽剛を以て離明に體し、成卦の主たるは、天氣良候の象にして、變卦恒となるは永續する象なり。

震爲雷 震亨。震來虩々。笑言啞々。震驚百里。不喪匕鬯。

(卦辭讀方) 震は亨る。震の來るや虩々たり。笑言啞々たり。震百里を驚かせども、匕鬯を喪はず。

(象義) ◎「震」は奮ひ動く義である。元來陽の性は上り進むことを主とするものである。今此卦上下共に一陽二陰の下に抑へ止めらるゝ象あるは、忿激して動き出でんとするもので、即ち震の義である。又此卦上下震を重ねる象で、震を雷となし、雷は奮ひ動くもので亦震の義である。乃ち以上の義を取つてこの卦を震と名づけたのである。而して此卦を鼎の次に置いた譯は、序卦傳にも「器を主るものは長子に若くはなし」とある如く、鼎の寶器は長子がこれを保有すべきもので、震を長男となすが爲である。

◎「虩々」恐懼顧慮する貌。震の象。◎「啞々」笑ひ語る聲の形容、和樂の貌なり、震を音聲と爲すのハ、◎「匕鬯」は祭祀に用ゐる器具にて、鼎中の實を擧げて俎上に置く爲のものなり。震を竹木となす象より取る。鬯は芳香ある一種の草を混合せたる酒のことにて、神を降す爲に地に灌ぐ神酒なり。震を黍稷となし、約象坎を酒となす象より取る。

(意義) 震を雷となす。雷は陽氣の發するもので、よく鬱積せる氣を發散し、その奮ふに當つては金石をも透すものである。故に「震亨」と云つたのである。而して震雷一度來るや、人はその猛威に恐れ、恐懼顧慮して不安に滿つるものである。故にこれを「震來虩々」と云つたのであるが、迅雷一過その收まるや、

人皆安堵して笑ひ語りて安樂の狀を示すものである。即ちこれを「笑言啞々」と云つたのである。これを人事に見るも、突然襲來せる艱難災禍あるも、よく戒慎恐懼して自ら守るときは、禍ひを轉じ艱難を免れて福となすことが出来るやうなものである。又雷の奮ひ動くこと激昂なる時は、鳴りはためきて百里の遠きにも及ぶものであるが、恐懼敬慎して事に當らば、これを大にしては宗廟社稷の重事、これを小にしては祖先の祭祀を失ふが如きに至ることはないものである。即ちこれを「震驚百里、不喪匕鬯」と云つたのである要するに此爻、人の世に處するや、憂患災厄に遭遇することありとも、戒慎修省してこれに處すれば、禍ひを轉じて福となすに至る道あることを説き示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此卦震雷相重なる象である。それ雷は陽氣奮ひ動きて鬱結の氣を發散して亨通する象なれば、此卦を得たる時、氣運發動して將に盛大に向はんとする象あるも、雷の來るや人をして恐懼戰慄せしむるものなれば、不慮の災厄に遭遇する惧れあれば、戒慎自重して此氣運に善處し、運氣の發展を計る心掛けが肝要である。然らば「震亨」とある如く、物事順調に進みて功を遂げ、吉祥を見るに到るものである。

◎願望、全談、賈賈 此卦震雷襲來りて恐懼顧慮せしむる象あるも、亦收りて笑言啞々たる象あるは、何れも初めは故障困難を見る象なるも、謹慎自重して進まば、後には順調の運びを示して、功利を遂げ得べし。

◎相場 此卦震雷並び到る象なるは、相場高くして尙上る象なり。

◎縁 談 卦意卦象より見て、初め故障あるも終に纏る象なり。然し慎重に話を運ぶこと大切なり。

◎子 實 此卦「震來虩々」の象あるは、才力ある兒女を得るも、性質強剛にして辛勞を招く象なり。然し養育法宜しきを得ば「笑言啞々」とある如く、兒女の成功を見て悦びあるべし。妊娠此卦震を重ぬ。震を長男となせば男兒なり。

◎縁運、家庭運 卦辭に「震來虩々。笑言啞々」とある如く、卦意卦象より見て、縁運家庭運共に波瀾變化多き象なるも、大體に於いて初め故障苦勞ありて末に吉祥幸福を得べし。尙震を長男となせば、家督相續者たる象なり。

◎壽命、病氣 亦卦意卦象より見て、壽命上健康に變動多き象あるも、よく壽を保ち、病勢變化多きも終に全快を得る象なり。

◎待 人 此卦震雷並び到る象なるは、待人意外に早く來る象なり。

◎走人、失物 此卦震雷到りて恐懼顧慮の象あるは、走人の身上に危険の憂ひあり、失物容易に出て難き象なるも、「震亨」とあり、又「笑言啞々」とあるは、手を盡して尋ねれば走人無事に判明し、失物出づべし。震を東となす、その方角を尋ねべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 卦意卦象より見て、旅立爭事初め故障辛勞あるも、終に目的を遂げて悦びを得、就職初め順調に運ばざるも結局纏り、試験心配せる程のことなく、好成績を收め得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 卦意卦象より見て、何れも無理に流れざれば進みて吉なり。

◎天 候 此卦震雷襲來の象あるは、今天候暴れる象なるも、「震亨」とあり、又「笑言啞々」とある如く、

間もなく収りて好晴を見る象なり。

初九 震來虩々。後笑言啞々。吉

(爻辭讀方) 震來るや虩々たり。後に笑言啞々たり。吉なり。

(象 義) 卦辭の説明を参照すべし。

(意 義) 初九は剛を以て正に居り、内卦震動の主にして又成卦の主である。即ち剛正の才徳を備へて、震雷迫り撃つに當つて、よく恐懼戒慎するもので、後難の生ずることなく、安靜和樂を得て、その吉なること云ふ迄もないのである。故にこれを「震來虩々。笑言啞々。吉」と云つたのである。要するに此爻、剛正の君子よく事に當りて恐懼戒慎する爲、先憂後樂の吉を得ることを説き示し、人のこれを範とすべきことを教へたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛正の才徳を以て、よく恐懼戒慎せる爲に、「笑言啞々。吉」の象あるもの、即ち此爻を得たる時、事に當りてよく謹慎警戒する爲に、災厄憂苦を免れて吉祥幸福を得る象である。

◎願望、金談、實買 爻意爻象より見て、何れも初め故障困難あるも、これに處すること宜しきを得る爲に遂に功利を遂げて悦びを見る象なり。

◎相 場 此爻剛正を得て震動の主となり、變卦地雷豫となるより見て、相場高く尙先行き上る象なり。

◎縁 談 此爻先憂後樂の象なるは、初め故障あるも後纏り、且吉とある如く良縁なり。

◎子 寶 此爻剛正の君子の象なるは才徳ある兒女を得て、「後笑言啞々。吉」とある如く、末に幸福を得る象なり。妊娠此爻剛正にして長男の象震の主たるは、男兒なり。

◎縁 運 爻意爻象より見て、男女共に初めは幾分故障苦勞あるも、後には吉祥幸福を得る象にして、特に剛正の君子の象あるは、女子は才力徳行備はれる夫に添ふ象なり。

◎家庭運 此爻最下に居り、且「震來虩々」の象あるは、始め家運奮はず、辛苦あるも、剛正を得たるは才徳を備ふるものにて、「後笑言啞々。吉」とあり、變卦豫は雷地中を出でて奮ふ象なるが如く、後には身を立て家を興し、盛大幸福を得る象なり。

◎壽 命 爻辭に「震來虩々」とあるは、始めに病難を見る象なるも、剛正を得て戒慎の象あるより觀て、生れつき體質強健にして且攝生よき爲に、「後笑言啞々。吉」とある如く、後には病難を征服して健康長壽を得る象なり。

◎病 氣 爻辭に「震來虩々」とあるは、始め危険の症狀なるも、養生よき爲に、「後笑言啞々。吉」とある如く、全快の悦びを見る象なり。

◎待 人 爻辭に「震來虩々。後笑言啞々。吉」とある如く、待人意外に早く來り、悦びある象なり。

◎走人、失物 爻意爻象より見て、初めには辛勞なるも、手を盡して尋ねれば判明する象なり。下震は東、變坤は西南、その方角を尋ねべし。

◎旅立、争事、就職、試験 爻意爻象より見て、旅立争事初め故障辛苦あるも、後目的を遂げて悦びを得る象にして、就職亦初めに故障あるも結局纏り、試験心配なく好成绩を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「後笑言啞々。吉」とあるは、何れも進みて後に吉利を得る象なり。

◎天 候 此爻陽を以て正に居り、變卦豫となるより見て、天氣良好の象なり。

六 一一 震來厲。億喪貝。躋于九陵。勿逐。七日得。

(爻辭讀方) 震來りて厲し。億りて貝を喪ふ。九陵に躋る。逐ふこと勿れ。七日にして得。

(象 義) ◎「厲」六二柔を以て初九の剛に乗るの象。◎「貝」貨寶のこと、昔は貝を以て貨寶とせり。六二變ずれば互體離となり、貨寶の象あり。◎「九陵」高所のこと、互體艮山の象。◎「躋」登ると同義、震を足となし、動となす象。◎「逐」亦震の象。◎「七日得」時勢一變する意なり。震を動くとなし、變兌を悦ぶとなす。即ち動きて悦ぶ象あるより取りて云へるなり。

(意 義) 六二は陰柔を以て、震雷の主にしてその勢ひ猛烈なる、初九の剛に乗れるもので、即ち危難迫れる象である。故にこれを「震來厲」と云つたのである。凡そ危難切迫の時に際して、貨財に心を惹かれて惜むものは、必ずその危難を脱し得ざるのみならず、却て身命貨財共にこれを失ふに至るものである。然るに六二は柔順中正の徳を備へて居るから、震の來るや甚だ危ふく、その到底貨寶を守るべからざることを度り知りて貨財を惜しまずして、身を全うする爲に、九陵の高きに登りこれを避くるものである。即ちこれを

「億喪貝。躋于九陵」と云つたのである。六二は、自ら身を守ること斯くの如くなるが故に、敢へて逐ひ求むることがなくとも、その先に失へる寶を、久しからずして再び回復することが出来るものである。故にこれを「勿逐。七日得」と云つたのである。要するに此爻、柔順中正の徳を讚美したものであつて、この徳ありてよく變ひ慮るもの、危難を免れ、假令一時その所有する所の物を失ふことありとも、間もなくこれを回復し得べきことを説き示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻柔を以て剛に乗り、「震來厲」き象あるは、危難に遭遇する象あるも、柔順中正にしてよく慮り、これを避けて無事を得る象である。尙爻意より見て、一時失敗損失を招くことあるも、直にこれを回復し得る象がある。

◎願望、金談 爻辭に「震來厲」とあるは、何れも難關に遭遇する象にて、「億喪貝」とあるは、一時失敗挫折する象なり。然し「勿逐。七日得」とあれば、功を焦躁らずして時節を待たば、間もなく氣運到來して功を遂げ得る象なり。

◎賣 買 爻辭に「億喪貝。勿逐。七日得」とあるは、賣買共に一時失敗損失を招く象なるも、狼狽せずして時を待たば、間もなく氣運到來して回復し得る象なり。

◎相 場 此爻柔順中正にして、變體兌を毀折となし、貝を喪ふ象あるは、相場安く尙一段挫折する象なるも高陵に登る象あり、又「勿逐。七日得」とあるは、間もなく形勢を挽回する象なり。

◎縁談 爻辭に「億喪貝」とあるは、縁談纏らざる象なり。然し「勿逐。七日得」とあれば、斷念して氣運を待たば間もなく良縁を得る象なり。

◎子實 爻辭に「震來厲」とあるは、兒女に就きて辛勞ある象にて、又「喪貝」とあるは子供と死別する象なるも、「勿逐。七日得」とあれば、再び子供を得て後には幸福を得べし。妊娠此爻柔順中正にして、變體兌を少女となすは女兒の象なり。

◎縁運 爻辭に「震來厲」とあり、又「喪貝」とあるは、男女共に縁運上苦勞あり、又連合ひに死別する象なるも、「勿逐。七日得」とあれば、再縁を得て幸福を得べし。

◎家庭運 亦爻辭に「震來厲」とあるは、家庭上辛苦多き象にて、特に「喪貝」とあるは、財運挫折して困窮に陥る象なるも、「勿逐。七日得」とあれば、家運再び興隆して幸福を得るに至るべし。

◎壽命 此爻陰柔にして中に居るは、體質弱き象にて、「震來厲」とあるは病難に襲はれて壽命を保ち難く見ゆる象なるも、中正の徳を以てよく慮り、七日にして得る象あるは、攝生よき爲に健康を克ち得て壽を保つ象なり。

◎病氣 爻辭に「震來厲。億喪貝」とあるは、病狀危險にして恢復の望みなき象なるも、中正の徳ありてよく慮れば、一旦失ひし貨寶を回復し得るが如く、極力養生に手を盡さば、絶望と思はれしもの、或は恢復することあり。

◎待人、走人 爻辭に「勿逐。七日得」とあるは、焦躁らずして待たば、待人間もなく來り、走人亦近き中

に自ら判明する象なり。

◎失物 爻辭に「喪貝」とあるは、遺失せるか盗まれたる象なり。然し「勿逐。七日得」とあれば、間もなく自然に手に返るべし。

◎旅立、争事 此爻柔順中正の徳を以て、よく自ら守る爲に、危難を免れて無事を得るもの、何れも進むは凶なり。特に争事は「勿逐。七日得」とあれば、争はずして自然に任さば、却つて有利の結果を見るべし。

◎就職、試験 爻辭に「震來厲」とあり。又「億喪貝」とあるは、就職故障に會して望みを遂げず、試験難問に遭遇して不成績を見る象なり。然し「勿逐。七日得」とあれば、焦躁らずして時節を待たば、就職自然に成立の氣運到來し、試験悲觀絶望せずして勉強せば、次回は好成績を得べし。

◎開業、轉業、移轉 此爻柔順中正にして自ら守る爲に危難を免れて無事を得るもの、何れも進むは爻意に反して凶なり。「勿逐。七日得」とある如く、急がずして時節の到來を待つべし。

◎天候 此爻陰を以て柔に居り、變體兌を毀折となすは、天氣不良の象なり。然し「七日得」とあれば間もなく恢復に向ふべし。

六三 震蘇々。震行无青。

(爻辭讀方) 震蘇々たり。震行かば、青無し。

(象義) ◎「蘇々」昏絶して復生することなり。六三内外の際に居り、下震終りて上震復生するの時な

るを以て云ふ。◎「无青」青は約象坎の象。此爻變すれば正を得て、約象兌となり、坎の象見えず。即ち「无青」の象なり。

(意 義) 六三は陰柔不中正を以て二雷の間に介在し、下卦の震動將に盡きんとして、上卦の震動亦將に生ぜんとするの時、震にして復震、是を以て變起りて爲す所を知らず、驚愕して昏絶し、殆んど死せんとして復生するが如きものである。故にこれを「震蘇々」と云つたのである。六三は斯くの如く不中正を以て危地に居るものであるから、青災に遇ひ危難憂苦を見ること固よりであるが、人が斯くの如き恐懼の場合に遭遇したる時、その危難に遇ふことを患ひとせず、これに處して發奮修省し得ざることを患ひとするものである。乃ち震雷の奮激して行く所の象を見てこれに習ひ、自ら恐懼修省して不正を去りて正に就き、よく發奮勵勉せば、その青を免るゝことが出来るものである。故にこれを「震行无青」と云つたのである。要するに此爻、人の危難憂患に處するの道を説示したるもので、その道たるや徒に恐愕して爲す所を失ふが如きこととなく、發奮修省してよく奮勵努力するにあることを教へたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻陰柔不中正を以て二雷の間に介在し、昏絶して復生するもの、即ち運氣極めて危険艱難にして憂苦甚しき象であるが、「震行无青」とある如く、よくこれに處して失望落膽することなく、勇氣を奮ひて勉勵努力せば、これを免れて無事を得るに至るものである。

◎願望、金談、賣買 此爻死せんとして復生くるもの、願望金談一時挫折して再び成就し、賣買失敗損失に類

して形勢を挽回し、功利を遂げ得る象なり。然し「震行无青」とある如く、勇氣を奮ひて努力する心掛け肝要なり。

◎相 場 此爻下卦の震動盡きんとして、上卦の震動將に生ぜんとする時なるは、相場變動激しき象なり。而して變卦雷火豊となるより見て、結局高し。

◎縁 談 爻辭に「震蘇々」とある如く、昏絶して復生する象なるは、縁談一度破れて復活し、結局成就を見る象なり。縁としては爻意爻象より見て多少の波瀾を免れざるも、「震行无青」とある如く、慎しみを守りて進まばこれを免れて安泰を得べし。

◎子 實 爻辭に「震蘇々」とある如く、爻意爻象より見て、子供に就きて故障苦勞多き象なるも、「震行无青」とある如く、養育上に充分の注意を盡さば、末には安泰を得るに至るべし。妊娠此爻陰柔にして變體離を中女となすは、女兒の象なり。

◎縁 運 爻辭に「震蘇々。震行无青」とある如く、爻意爻象より見て、男女共に縁一度變りて後に納まり安泰を得る象なり。

◎家庭運 此爻下卦の震動盡きんとして、上卦の震動將に生ぜんとする象なるは、家運變動の際に生れ、艱難憂苦多き象なり。然し「震行无青」とある如く、これに處して發奮し、勉勵努力せば、よくこの危機を脱して安泰を得るに至るべし。

◎壽 命 此爻陰柔不中正にして、震蘇々たる象あるは、體質弱く、屢病難に犯されて危険の象あるも、「震

行无_レ言」とある如く、攝生を重んじ、身體を大切にせば、よく體質を改善し得て壽を保ち得べし。

◎病 氣 爻辭に「震蘇々」とあるは、病勢危険に陥るも、天祐を得て回復する象なり。

◎待 人 此爻「震蘇々」とある如く、復生の象あるは、最早來らずと思ひて斷念せるも後に來る象なり。

◎走 人 爻辭に「震蘇々」とある如く、危難甚しき地に在る象なるは、走人の身上に危険の憂ひある象なるも、「震行无_レ言」とあれば、手を盡して尋ねれば、危き所を救ひて悦びを得べし。下震は東、變離は南、その方角を尋ねべし。

◎失 物 此爻死せんとして復生する象あるは、絶望せるもの出て、悦びを得る象なり。方角走人に同じ。

◎旅立 爭事 爻意爻象より見て、何れも故障艱難に遭遇する象あるも、「震行无_レ言」とあれば、勇氣を奮ひ慎重の態度を持って進まば、何れもこれを排除して功を遂げ得べし。

◎就 職 此爻昏絶して復生する象あるは、一度破れて後再び道開け、成就する象なり。

◎試 驗 此爻危地に處するは、難問に遇ひて苦しむ象あるも、蘇々たる象あるは、よくこれを突破して成績を擧げ得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも進むに故障困難を見る象なるも、「震行无_レ言」とあれば、慎重の態度を以て進まば、よくこれを排除して、利を得べし。

◎天 候 此爻下卦の震雷已_レまんとして、上卦の震雷將_レに生ぜんとする象なるは、天候激變して定まらざる象なり。

九 四 震遂泥。

(爻辭讀方) 震遂_レに泥_レむ。

(象 義) ◎「泥」沈滞の意なり。約象坎を險陷となし、互體艮を止るとなすの合象。

(意 義) 九四は初九と同じく震の主爻であるが、初九が一陽を以て二陰の下に居り、剛正なるが故に震動の勢ひ猛烈にして、よく進み上ることを遂ぐるに反し、九四は剛を以て柔に居り、不中正にして上下四陰の間に陥つて居る爲に、震動すること沈滞してこれを發揚することが出來ぬものである。故にこれを「震遂泥」と云つたのである、要するに此爻、九四の不中正を以て群陰の間に陥り、震動沈滞の象を假りて、人の才徳を缺き、爲す所なきものを現したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻不中正を以て群陰の間に陥り、「震遂泥」象あるは、才徳氣力なくして氣運沈滞の時に處し、爲す所なく、物事功を遂ぐる能はざる象である。宜しく奮勵努力して時運の到來を待つべきである。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「震遂泥」とある如く、爻意爻象より見て、氣運沈滞し、加ふるに氣力才徳なく何れも功利を遂げ得ざる象なり。

◎相 場 此爻群陰の間に陥り、「震遂泥」象あるは、相場沈滞不勢の象なり。然し變卦地雷復となるより見て先行き回復漸騰の歩調を示すべし。

- ◎縁談 爻辭に「震遂泥」とある如く、此爻沈滞の象を示すは、縁談纏らず、又凶縁の象なり。
- ◎子實 此爻不中正にして群陰の間に陥り、沈滞爲す所なき象なるは、兒女才徳乏しくして、發展の望みなく、不幸の象なり。姪姪此爻陽剛を以て長男の象震の主たるは、男兒なり。
- ◎縁運 此爻爻辭に「震遂泥」とある如く、沈滞の象なるは、男女共に縁運悪しく、故障停滯を見る象なり。
- ◎家庭運 爻意爻象より見て「震遂泥」とある如く、家運沈滞して故障多く、憂苦不幸を見る象なり。
- ◎壽命、病氣 亦爻辭に「震遂泥」とある如く爻意爻象より見て、健康上障害多くして長壽を保ち難く、病氣長引きて全快の望み薄き象なり。
- ◎待人 此爻不中正を以て群陰の間に陥り、奮ひ動くこと能はざるもの、待人來らざる象なり。
- ◎走人、失物 爻辭に「震遂泥」とある如く、此爻震の時に當りて奮ひ動く力なきは、走人遠方に走らずして近くに潜み、失物外に出てずして何所かに紛れ込み居る象なり。
上震は東、變坤は西南、その方角を尋ぬべし。
- ◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「震遂泥」とある如く、沈滞の象なるは、旅立爭事故障多く、進みて不利を招き、就職停頓し、試験不成績の象なり。
- ◎開業、轉業、移轉 此爻沈滞不震の象なるは、何れも進みて凶の象なり。
- ◎天候 爻辭に「震遂泥」とあるが如く、爻意爻象より見て天候ぐづつき、不良の象なり。

六五 震往來。厲。億无喪有事。

(爻辭讀方) 震往來す。厲し。億りて有事を喪ふこと無し。
 (象 義) ◎「往來」一雷往きて一雷來り、二震相續く象。◎「有事」祭祀のこと、震を事となし、又爲すことあるの象。

(意 義) 此爻二雷奮ひ起るの時に當り、九四の剛に乗つて居るのは、初の一雷既に往き去つて、四の一雷續いて奮ひ來る象で、危難恐懼類に來るの象である。故にこれを「震往來。厲」と云つたのである。然し初の雷は遠く、四の雷は遂に泥むもので、共に我れに及ぶこと能はざるばかりでなく、柔中の徳を備へて君位に居るものであるから、よく億り度つて此危難の際に處し、完廟社稷を保有することを得るものである。故にこれを「億无喪有事」と云つたのである。要するに此爻、六五柔中の徳を稱へたのであつて、人も亦この徳を備ふれば、よく危難に處してこれを免るゝことを得べきことを示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻二雷相續きて危難の時に當り、陰柔を以てこれに處するは、運氣危險艱難の時にして、これに處して才力足らざる象であるが、中を得るは有徳の象にて、その徳の爲に「億无喪有事」とある如く、よく此危險艱難の氣運を免れて安泰を得る象である。
 ◎願望、金談、賈買 爻辭に「震往來。厲」とある如く、何れも功利を遂ぐるに困難危險甚しき象あるも、柔

中にして「億无_レ喪_ニ有事_ニ」象あれば、徳ある爲に遂にこれを脱して功利を遂げ得る望みある象なり。

◎相 場 此爻二雷相續きて至る象なるは、相場強く波瀾激しき象なるも、陰柔にして變卦澤雷隨となるより見て、先行き下るべし。

◎縁 談 爻辭に「震往來。厲」とあるは、縁談故障困難甚しく、破談に終る如く思はるゝ象あるも、「億无_レ喪_ニ有事_ニ」とあれば、穩かなる態度を以て慎重に進まば、纏る望みあり。縁としては、爻意爻象より見て波瀾故障を免れざるも凶縁と云ふ程に非ず。

◎子 實 此爻柔中を得るは、温順なる兒女を得る象にて、「億无_レ喪_ニ有事_ニ」とある如く、親思ひにしてよく家運を保つ象なるも、二雷相續きて危難の象あれば、子供に就きて憂苦を免れざる象あり。妊娠此爻陰柔にして變體兌を少女となすは女兒なり。

◎縁 運、家庭運 爻辭に「震往來。厲」とある如く、此爻二雷相續きて危難の象あるは、縁運家庭運共に變化波瀾多く、艱難憂苦を免れざる象なるも、「億无_レ喪_ニ有事_ニ」とある如く、よく恐懼修省し、順徳を守りて進まば、これを脱して末には安泰を得べし。

◎壽命、病氣 爻意爻象より見て、壽命上病難故障を免れず、危険に遭遇し、病氣重態にして危険に類する象あるも、「億无_レ喪_ニ有事_ニ」とある如く、攝生養生を嚴守せば、よく壽を保ち、病氣全快する望みあり。

◎待 人 此爻二雷相續きて到る象なるは、待人來る。

◎走人、失物 此爻二雷相續きて到り、危難の象あるは、走人遠方に走りて身上危険の憂ひあり、失物容易

に發見し難き象なるも、「億无_レ喪_ニ有事_ニ」とあれば、手を盡して尋ねれば、何れも無事に判明すべし。上震は東、變兌は西、その方角を尋ねべし。

◎旅立、爭事 爻意爻象より見て、何れも危険艱難に遭遇する象なり。此爻柔中の徳を以て自らよく守る爲に有事を失ふことなきものなれば、何れも進まざるを吉とす。

◎就職、試験 亦爻意爻象より見て、就職困難にして、試験難關の象なるも「億无_レ喪_ニ有事_ニ」とある如く、よく徳を守り修省顧慮してこれに處すれば、就職絶望に非ずして、試験亦相當の成績を擧げ得べし。

◎開業、轉業、移轉 此爻柔中の徳を以て自らよく守る爲に、有事を失はざるもの、何れも進まざるを吉とす。

上 六 震索々。視矍々。征凶。震不_レ于_ニ其身_ニ。于_ニ其隣_ニ。无_レ咎。婚媾有_レ言。

(爻辭讀方) 震索_レたり。視_レること矍_レ々たり。征_レくときは凶_レなり。震_レ其の身に干_レいてせず。其の隣_ニに干_レいてす。咎_レ無し。婚媾_レ言_レ有り。

(象 義) ◎「索々」志氣消盡の貌を云ふ。◎「矍々」安定せざる貌を云ふ。共に上六陰柔を以て、二雷奮ひ起る震の時に當り、卦極に居りて恐懼措く所なき象より取りて云ふ。◎「視」上六變ずれば離となり、目の象あるより云ふ。◎「征」震を足となす象より取る。◎「身」上六を指す。◎「隣」六五を指す。◎「婚媾」上六の女子、初四の二男に求むるの象。◎「言」震に發聲の象あるより取る。

(意 義) 上六は陰柔を以て、二雷奮ひ起る震極に居るものであるから、恐懼甚しく、その心、氣に顯れて、驚愕の餘り志氣消盡し、心神錯亂して安定を得ざるものである。それ斯くの如き状態にありて、征き進みて爲すことありとも、何事をも成し遂げ得ずして凶を招くべきことは、言を俟たぬ所である。即ちこれを「震索々。視矍々。征凶」と云つたのである。然し九四の震が、隣にある六五に及びて、未だ上六自身に及ばざる時に於いて、戒慎恐懼して豫めこれに處する計圖をなせば、九四の震も遂に泥みて、咎なきを得るに至るものである。故にこれを「震不于其躬。于其隣。无咎」と云つたのである。次に「婚媾有言」と云つたのは、別象別義を以て係けた辭で、上六を以て女子となし、初九はもとより應比に非ずして遠く隔り、九四近くに在るも亦應比に非ずして、上六が此兩男に婚媾を求むるも、支障ありて志望を遂げ難きことを示したのである。要するに此爻、聖人が震の終に於いて、人に示すに、恐懼戒慎よく改むるの義を以てせるもので、勸誡の意深きを悟るべきである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻陰柔を以て震の極に居り、「震索々。視矍々」たる象あるは、氣運險惡にして艱難恐懼甚しき象である。斯くの如き際に處しては、宜しく「征凶。震不于其躬。于其隣。无咎」とある如く、戒慎して退守の方針を守り、時運の解通を待つべきである。然らばよく此危険艱難を脱して無事を得るものである。尙爻意爻象並に變卦噬嗑より見て、危険災難事、願望不調、縁談凶、争事等の象がある。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「征凶」とある如く、爻意爻象より見て、何れも進みて困難故障に遭遇し、功利

を遂げ得ざる象なれば、退守して時節を待つべし。

◎相 場 此爻震の極に居り、變卦噬嗑となるより見て、相場變動多く強硬の象なるも、柔正にして「征凶」とあれば、先行き下るべし。

◎縁 談 爻辭に「征凶」とあり、又「婚媾有言」とあるは、縁談凶にして纏らざる象なり。

◎子 實 此爻震の極に居り、危険恐懼甚しき象なるは、子供運惡しく困難憂苦を見る象なり。宜しく爻意に戒しむる如く、養育上細心の注意を盡すべし。然らば「无咎」とある如く、凶運を免れて無事を得べし。

妊娠此爻柔正にして變體離を中女となすは、女兒の象なり。

◎縁 運 爻辭に「婚媾有言」とあるは、男女共に縁運上故障多く、辛勞憂苦甚しき象なり。宜しく爻意に戒しむる如く、縁に定むるに當りて細心の注意を拂ふこと大切なり。

◎家庭運 爻辭に「震索々。視矍々」とある如く、爻意爻象より見て、家庭運凶惡にして艱難憂苦多き象なり。宜しく爻意に戒しむる如く、自重謹慎して凶運を脱するやう心掛くべし。然らば「无咎」とある如く、氣運を轉換して無事を得るに至るべし。

◎壽命、病氣 此爻陰柔を以て震の極に居り、「震索々。視矍々」たる象あるは、生れつき虛弱にして、壽命上障害多く、長壽を望み難き象なり。病氣亦危険の症状なることを示す。然し「震不于其躬。于其隣。无咎」とあれば、戒慎して攝生養生を嚴守せば、氣運を轉換して健康を得、壽を保ち得べく、病氣全快の望みあり。

- ◎待 人 此爻初九、九四共に應比に非ずして「婚媾有言」とあるは、待人來らざる象なり。
- ◎走人、失物 爻意爻象より見て、走人の身上に危険あり。失物出て難き象なり。上震は東、變離は南、手遅れせずその方角を尋ね見るべし。
- ◎旅立、爭事 爻辭に「征凶」とある如く、爻意爻象より見て、何れも進みて凶災を招く象なり。宜しく爻意に戒しむる如く中止すべし。
- ◎就職、試験 亦爻意爻象より見て、就職望みなく、試験不成績の象なり。宜しく戒慎して時運の到來を待つべし。
- ◎開業、轉業、移轉 爻辭に「征凶」とあるは、何れも進みて凶災を招く象なり。思ひ止るべし。
- ◎天 候 此爻陰柔を以て震の極に居り、變卦噬嗑となるより見て、天候險惡の象なり。

☶☱ 艮爲山 艮其背、不獲其身。行其庭、不見其人。无咎。

(卦辭讀方) 其の背に良り、其の身を獲ず。其の庭に行きて、其の人を見ず。咎無し。
 (象 義) ◎「艮」艮は止る義なり。此卦上下共に艮、艮を山となし止るとなす。故に此卦を艮と名づけたるなり。又此卦上下共に、一陽下より動き上りて二陰の上に居り、止りて進まざる象あるより、此卦を艮と名づけたるなり。而して此卦を震の次ぎに置きたる所以は、序卦傳にも「物不可終動。止之。故受」

之以「艮」とある如く、震ひ動くに過ぐるものは、終に止まるに至るものなればなり。
 ◎「背」及び「身」何れも艮の意象なり。◎「庭」亦艮の象。◎「人」意象なり。又互卦震を行人となし、四五を人位となし、艮を門闕となし、此卦艮を重ねるは、庭中人あるの象なり。
 (意 義) 此卦六爻皆相應せざるは、恰も人に遇ひてその面を見ざるが如きものであり、又兩山相對するは、見るべくして近づくべからざる象である。即ち艮の時、彼我各思想を異にして親しむべからざる時であり、又氣運停止して動かざる時である。故に斯くの如きに當りては、毫も希望を起すべからずして、假令我れより望みを生ずるも、彼れこれを肯せざるものである。それ人の希望を生ずるは、鼻目耳口の情慾より發するものであるが、人の背は止りて動かず、脱然として情慾を超越するものである。故に艮の時に處しては慾を止め、思念を絶ち、望みを起さずして、身を忘れ、物を忘れ、慾を脱し、放心を收め、外累を絶ちて、心をして常に背の如くならしむべきで、即ち心を以て物を逐はざる態度を保つことが肝要である。斯くの如くなれば則ち外物入りて身を仇することなく、止りて安きを得るものである。即ちこれを「艮其背、不獲其身」と云つたのであつて、これ即ち、我れあることを知らず、亦物あることを知らぬ無私公大なる心境を云つたものである。それ人にして斯くの如き境地に入れば、庭中至近の場所に至りて人に接するも、恰も無人の境にあるが如く、目にその人を見るも、心にその人を視ざるもので、何等我が心を動かすことなきものである。故にこれを「行其庭、不見其人」と云つたのであつて、斯くの如く情慾邪念を絶ち、超然たる心境にあれば、咎を受けぬことは言を俟たぬ所である。故にこれを「无咎」と云つたのである。此卦の要旨

は改めてこれを説き示さずとも、卦意の説明によつて自ら明かである。

(占 斷)

◎運 勢 此卦艮山相重なり、止りて動かざる象なるは、氣運停滞して諸事意の如く運ばざる象なれば、卦意に示せる如く、萬事自重退守の方針を守り、慾望を慎しみて時運の解通を待つ心掛けが肝要である。尙卦意卦象より見て、新事凶、願望不調、他との不和、艱難滯滞等の象がある。

◎願望、金談、賣買 卦意卦象より見て、何れも故障停滞を招きて功利を遂げ得ざる象なり。宜しく卦意に戒しむるが如く、謹慎自重して時節の到来を待つべし。

◎相 場 此卦兩山相對立して不動の象なるは、強含みに持合ひて動かざる象なり。

◎縁 談 此卦氣運停滞の象なるは、縁談纏らざる象にて、又凶縁なることを示す。

◎子 實 卦意卦象より見て、子供に就きて故障辛勞多き象にて、殊に兩山相對立して譲らざる象あるは兒女と和合を欠く象なり。宜しく謹慎して此氣運を排除する様努むべし。姪姪此卦艮を重ぬ。艮を少男となす男兒の象なり。

◎縁運、家庭運 亦卦意卦象より見て、縁運家庭運共に故障滯滞を招き、不和に流れて辛勞憂苦を見る象なれば、卦意の戒しめに従ひ、情慾邪念を慎しみて和合安泰を計る心掛け肝要なり。

◎壽命、病氣 此卦艮山相重なり、故障停滞の象あるは、健康上故障多くして長壽を保ち難く、病氣長引きて容易 恢復せず、慢性となる憂ひあることを示す。宜しく卦意の戒しめに従ひ、攝生養生を嚴守して、此

氣運を轉換する心掛け肝要なり。

◎待人、走人、失物 此卦艮山相重りて氣運停滞の象を示し、「行其庭、不見其人」とあるは、待人來らず走人失物判明せざる象なり。

◎旅立、爭事、就職、試験 卦意卦象より見て、旅立爭事共に故障艱難を招きて目的を遂げず、就職長らくのみにて成就せず、試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 亦卦意卦象より見て、何れも進みて凶なること説明の要なし。

◎天 候 此卦艮山相重なりて通達せず、停滞の象あるは、不良陰鬱の天候續く象なり。

初 六 艮其趾。无咎。利永貞。

(爻辭讀方) 其の趾に良まる。咎無し。永貞に利し。

(象 義) ◎「趾」初爻艮止の始めに在る位の象。

(意 義) 初六は卦の最下に在りて趾の位に當り、陰畫下に止りて進み行かざる象である。故にこれを「艮其趾」と云つたのである。凡そ人の動止は必ず趾より始めるものである。故に人の心を止めんと欲する時は先づその身を止むべく、その身を止めんと欲する時は、先づその趾を止むべきで、止ること趾に始りて、而して後に心身に及ぶものである。凡そ人の吉凶悔吝を招くは皆動より生ずるものであるが、心既に止れば、事物に觸るゝることなく、従つて吉凶悔吝を招くことがないものである。今初六はその初めに當つて、慎し

みて止り、進み動かざるものであるから、咎を受くる筈がない。故にこれを「无咎」と云つたのである。然し初六は陰柔にしてその志弱きもので、而も正を得て居らぬから、よくその始めに止るものではあるが、終り迄止ることを全うせぬ惧れがあるから、これを「利永貞」と云つて戒しめたのであつて、永貞に利しとは、永く固くその所に止つて動かぬが良いと云ふ義である。要するに此爻、艮の時に於いて、物事その初めに止れば未だ正を失ふに至らざることを示し、以て人慾を將に萌さんとするに止め、天理を未だ著はれざるに存する義を顯したのである。

(占 斷)

◎運 勢 爻辭に「艮其趾」とある如く、此爻艮の始めに於いて止る爲に咎なきを得るもの、即ち此爻を得たる時、萬事始めに於いて慎しみを守り、「利永貞」と戒しめある如く、正固の心掛けを忘れずして自重することが肝要の時で、此心掛けを守りて、妄に他に求むることなければ、艱難災厄に陥るを免れて安泰を得るものである。

◎願望、金談、賣買 此爻陰柔不中正を以て艮の初めに居るは、才徳なく時を得ざるもの、「利永貞」と戒しめある如く、何れも妄進を慎しみて、陰忍自重、時運の到るを待ちて進む心掛け肝要なり。

◎相場 此爻柔正を以て艮の最下にあるは、相場不勢の象なり。

◎縁談 爻辭に「艮其趾。无咎」とあるは話を進めざる中に早く中止するを吉とする象なり。而して「利永貞」とあれば、縁を急がず、自重して時節を待たば、良縁到るべし。

◎子 實 此爻陰柔不中正を以て艮の最下に居るは、才徳乏しき兒女を持つ象なるも、「艮其趾。无咎。利永貞」とあれば、幼少の時に養育に注意し、氣長にこれを教導せば、相當兒女の發達成功を見るべし。姪姪此爻陰柔にして變體離を中女となすは、女兒の象なり。

◎縁 運 爻辭に「艮其趾。无咎」とあるは、男女共に縁を定むる際に當り、慎重に運ば、無事を得る象なるも、これに反して妄に縁を結ぶ時は辛勞不幸を招くべし。又「利永貞」とあれば縁を急がざるを吉とす。

◎家庭運 此爻陰柔不中正を以て、氣運停滯の卦艮の最下に居るは、微運にして故障苦勞多き家庭に生れ才徳乏しき象なり。宜しく「利永貞」と戒しめある如く、正固なる精神を以つて忍耐努力し、家運の興隆を計るべし。

◎壽命 此爻陰柔を以つて艮の最下に居るは、體質虛弱にして壽命上故障多き象なるも、「艮其趾。无咎」とあるより見て、攝生よき爲に能くこれを凌ぎて相當の壽命を保つ象なり。

◎病 氣 爻辭に「艮其趾。无咎」とあるは、未だ初期にして手遅れせず、養生に手を盡さば、全快の望みある象なり。而して「利永貞」と戒しめあれば、快方後油斷せず、氣長に靜養する心掛け肝要なり。

◎待 人 此爻艮の初めに於て止り、進み行かざるもの、待人來らざる象なり。

◎走人、失物 此爻艮止の時に當り、陰柔を以つて最下に居り、「艮其趾」象あるは、走人遠方に走らずして近くに滞留し、失物外に出でずして何かの下敷したじきになり居る象なり。「利永貞」とあれば、氣長に探さば何れ

も判明すべし。下艮は東北、變離は南、その方角を尋ねべし。

◎旅立、争事 此爻艮止の始めに於いて能く止る爲に、咎なきを得るもの、何れも進むは爻意に反して凶なり宜しく「利永貞」とある如く、中止して時運の解通を待つべし。

◎就職、試験 此爻陰柔不中正を以て、氣運停滞の卦艮の最下に居り、「艮其趾」象あるは、就職調はず、試験不成績の象なり。宜しく「利永貞」と戒しめある如く、堅忍自重して時運の解通を待つ心掛肝要なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも現状を守りて進まざるを吉とすること説明の要なし。

◎天候 此爻陰柔不中正を以て、停滞の卦艮の最下に止るは、天候不良の象なり。然し本来陽位にして、變卦賁となるは、後晴るゝ象なり。

六一 艮其趾。不拯其隨。其心不快。

(爻辭讀方) 其の趾に艮る。其の隨ふを拯はず。其の心快らず。

(象義) ◎「趾」此爻初の趾の上に居り、偶にして立つ、即ち趾の象なり。◎「隨」六二九三に隨ふ象より云ふ。◎「拯」救ふに同じ。◎「心」互坎の象。◎「不快」又互坎を加憂となし、心病となすの象。

(意義) 六二は艮止の時に當り、初趾の上、九三の腰の下に在りて、趾の部位に當るから、これを「艮其趾」と云つたのである。而して六二は柔順中正にして趾に止るもので、艮止の道宜しきを得たるものであるが、陰柔にして微力で、加ふるの上に應爻の援けなきものであるから、動止共に自らの力によりて行ふ能

はず、恰も趾が腰に隨ひて動止するが如く、動止共に九三に隨ひてこれを行ふものである。然るに九三は過剛不中て止ることの宜しきを得ざるものであるから、己れの中正の道を以てこれを救はんとする志はあるが陰柔微力でこれを實現することが出来ず、已むなく九三の狼戾なる者に比從して、動止共にこれに隨ふものである。故にこれを「不拯其隨」と云つたのである。それ六二は斯くの如く、自己の心に隨ひてその道を行ふ能はず、九三に隨ひて動止するものであるから、その心快らず、常に快々として樂しまざるものである。故にこれを「其心不快」と云つたのである。要するに此爻、六二に象を假りて道を行ひ邪を正す志あるも陰弱微力にしてこれを實行し得ざるものゝ心情を説き示したのである。

(占斷)

◎運勢 此爻陰柔にして自ら動止する能はず、九三の腰に従ひて動止する趾の象あるは、柔弱微力にして獨立獨行の才力なく、他の指揮を受けて進退共に自由を得ず、従つて諸事順調に運ばずして、不快不満の日を送る象である。然し中正の徳あれば、正しき心を守り、忍耐自重して時運の開通を待たば、氣運開けて志を得る時節到來する望みがある。

◎願望、金談、賣買 此爻陰弱微力にして志を遂げず、「其心不快」ざる象あるは、何れも功利を遂げ難く、不満足ある象なり。宜しく六二中正の徳に習ひ、陰忍して時節の到來を待つべし。

◎相場 此爻艮止の時に當り、柔正を以て中に居るは、相場安き象なり。

◎縁談 此爻陰弱微力にして志を遂げず、「其心不快」ざる象あるは、縁談纏らず、又凶縁の象なり。

◎子 實 此爻柔順中正を得て、良止の道宜しきを得るは、温順誠實の兒女を得る象なるも、陰弱微力なるは身體虚弱にして氣力に乏しき憂ひあることを示せば、養育上注意を要す。妊娠此爻柔正にして中を得、變異を長女となすは、女兒の象なり。

◎縁 運 此爻志を遂げずして、其心快らざる象あるは、男女共に縁運意の如く運ばずして、心樂しまざる象なり。然し柔順中正にして良止の道宜しきを得るものなれば、忍耐自重して時節を待たば、後には良縁を得る望みありて、特に男子は温順貞正の妻を得べし。

◎家庭運 此爻陰弱微力にして、過剛不中なる九三に比從し、進退意の如くならず、其心快らざる象あるは氣力なくして他の掣肘を受け、意の如く家政を處理し得ず、不快の日を送る象なり。然し柔順中正の徳ありて、良止の道宜しきを得るものなれば、順徳貞正の道を守りて時運を待たば、末には幸福を得るに至るべし

◎壽 命 此爻陰柔にして中に居り、「其心不レ快」ざる象あるは、生れつき虚弱にして病苦に悩む象なり。宜しく攝生を嚴守して健康長壽の道を講ずべし。

◎病 氣 此爻陰柔を以て良止の中に居り、變卦山風蠱となるは、「其心不レ快」とある如く、病氣長引きて容易に恢復せず、苦惱する象なり。

◎得 人 此爻九三に隨ひて動止する象なるは、待人來る象なり。

◎走人、失物 爻辭に「良其腓」とあるは、走人遠方に走らず、失物内に在る象にて、九三に隨ひて動止するは、走人他に誘引されて家出し、失物何かに附着して紛れ込み居る象なり。下良は東北、變異は東南、

その方角を尋ぬべし。

◎旅立、争事、就職、試験 此爻陰弱微力にして志を遂げず。心樂しまざる象あるは、旅立争事目的を遂げず、就職調はず、試験不成績にして憂心ある象なり。宜しく自重隠忍して時運の解通を待つべし。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも進みて不利の象なれば、見合すべし。

◎天 候 此爻良止の時に當り、陰柔を以て中に居り、變卦蠱となるは、天候不良の象なり。

九 三 良其限。列其夤。厲心。

(爻辭讀方) 其の限に良る。其の夤を列く。厲くして心を蒸す。

(象 義) ◎「限」限は内外の界限にして、茲にては腰のことなり。腰は身體上下の界限なればなり。九三一陽を以て内外を横絶する象より取る。◎「夤」背を挟む所の肉なり。◎「列」列は裂くに同じ。九三内卦の極に居り、上下四陰を隔絶するは、恰も脊梁の左右の肉を間隔するが如き状あるを以て、夤を列くと云へるなり。◎「厲」九三過剛不中を以て内外の際たる危地に居る象。◎「蒸心」焦慮の意なり。三より上に至る迄離に似たり。即ち火を以て蒸する象。互坎を心病となす。心を蒸するとす所以なり。

(意 義) 此爻過剛不中を以て上下二體の中間に居り内卦良止の主となりて、他と相與みせざるは、限界の象を現すものである。故にこれを「良其限」と云つたのであるが、限は象義の所でも説明した通り腰のこと、九三が上下の限界をなすは、丁度腰が人體上下の分界の所に當つて居ると同様であるからである。

それ腰は身體上下の運動を調節する部位で、その動止宜しきを得て、始めて人が自由に俯仰屈伸することを得るものである。然るに今、九三は過剛不中を以て艮止の主となり、固く止りて動かざるもので、上體と下體とを截然として隔絶し、身體の屈伸を不可能ならしむるが如きものである。これ恰も背梁が左右の肉を間隔するが如きものである。故にこれを「列其資」と云つたのである。斯の如く九三は、剛戾の性を縦にして自ら好みて人に背き物と絶ち、上下を隔絶して他を苦しむるものであるから、人も亦これを仇視し、從て己れも亦自ら心を苦しめて安んずるを得ず、身危く焦心苦慮甚しきものである。故にこれを「厲蒸心」と云つたのである。要するに此爻、九三の過剛不中を以て内外の際たる危地に居り、厲き象あるを假りて、徳なくして強剛に流れ、危険に陥るものを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻過剛不中を以て、艮の時に當り内外の際に固止し、他を隔絶して己れも亦他より仇視され、厲くして心を蒸するもの、即ち此爻を得たる時、艱難なる氣運に處し、徳なくして徒に強剛に走り、他の憎惡を買ひて危険に陥り、物事順調を欠きて焦心苦慮を招くに至る象である。宜しく自重謹慎してこれに處し危険艱難を脱する心掛けが肝要である。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「厲蒸心」とある如く、爻意爻象より見て、氣運を得ざるに拘らず、剛進して何れも功利を遂げず、却つて艱難焦慮に陥る象なり。宜しく自重して時節を待つべし。

◎相場 此爻剛を以て陽に居り、「艮其限」象あるは、今相場強調を示して頑固に持合ふ象なるも、變卦

山地剝となるより見て、陰、陽を消する象なれば、先行き崩るべし。

◎縁 談 此爻上下を隔絶し、厲くして心蒸する象なるは、縁談纏らず、又凶縁の象なり。

◎子 實 此爻過剛不中にして上下を隔絶するもの、即ち強暴にして親不孝の兒女を持ち、「厲蒸心」とある如く、艱難辛苦を招く象なり。姪姪此爻剛正にして少男の象艮の主たるは、男兒なり。

◎縁運、家庭運 此爻過剛不中にして艮に良り、背梁肉を裂く象ありて、厲くして心蒸するは、男女共に縁運悪しく、絶縁を見るか、焦心苦慮すること多き象にて、家庭運亦凶惡にして、身内と不和を招き、孤立無援に陥りて辛勞艱難を見る象なり。宜しく順徳を守りて此凶運を免る、様心掛くべし。

◎壽 命 此爻剛を以て正を得るは、體質強健の象なるも、過剛不中にして「厲蒸心」象あるは、強健を誇りて不攝生に流れ、強健を損じて壽を保たざる憂ひあることを示すもの、慎しむ肝要なり。

◎病 氣 此爻内外の際たる危地に居り、「厲蒸心」象あるは、重徳危篤の象なり。

◎待 人 此爻「艮其限」とある如く、固止して動かざるもの、待人來らざる象なり。

◎走人、失物 此爻上下を隔絶する象なるは、走人失物共に判明せざる象なり。

◎旅立、争事、就職、試験 此爻過剛不中、固止して上下を隔絶し、「厲蒸心」象あるは、旅立故障困難に遭遇し、争事苦境に陥り、就職望みなく、試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、「厲蒸心」とある如く、何れも進みて苦境に陥る象なり。思止るべし。

◎天 候 此爻陽を以て正に居るは、今天氣良き象なるも、變卦剝は、陰、陽を消盡する象なれば、後不良

となるべし。

六 四 艮其身。无咎。

(爻辭讀方) 其の身に良る。咎無し。

(象 義) ◎「身」六四下體を出て、上體の下にあるは身の象なり。

(意 義) 凡そ人の肢體は、これを總括して云へば身ならざる所なしと雖、これを區分して云へば、腰より上を身となすものである。今六四は九三の腰の上に在るものであるから、これを「艮其身」と云つたのであるが、これ六四は柔正にして六五に比從するもので、妄動に走らずしてその身を善くするものであると云ふ意を示したのである。然し六四は陰を以て柔に居るものであるから、才力共に弱きものであり、而も下に應爻の援けなく、單に獨り己れの身を善くするに過ぎずして、他に及ぼす迄の力なきもので、これを假令へて云へば、大臣にして己れの身を正しくして下民に示すに止つて、末だ天下萬民を救ふ迄の才徳なきが如きものである。故にこれを單に「无咎」と云ふに止つて吉と云はざる所以である。要するに此爻、その柔正の徳を稱讚したのであるが、これを人に假令へて云へば、順正の徳を備へて己れを全うするものではあるが未だ人を徳化してこれを救ふ迄の才徳なきが如きものである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻柔正を以て六五に比從し、その身を正しくして咎なきもの、即ち此爻を得たる時、柔順にし

て行ひ正しく、氣運安泰を得る象なるも、未だ大事大功を遂ぐる迄の才力なく、又運氣到らざる象である。

◎願望、金談、賈買 此爻柔正にして咎なきは、小望、小金、小賈買は順調に運びて功利を遂げ得る象なるも陰柔にして吉を得ざるは、大望、大金、大賈買はこれを遂ぐる才力なく、氣運亦到らざる象なり。

◎相 場 此爻陰を以て柔に居り、「艮其身」象あるは、相場安く、先行き不勢氣味に持合ふ象なり。

◎縁 談 爻辭に「艮其身」とある如く、柔正身を善くする象なるは、縁談纏る望みあることを示し、「无咎」とあれば縁としても普通の縁なり。

◎子 實 此爻柔正にして身を善くするもの、柔順なる兒女を得る象にて、「无咎」とある如く子供運安泰の象なるも、爻意爻象より見て、大成功望み難し。妊娠此爻陰を以て正に居り、變體離を中女となすは、女兒なり。

◎縁運、家庭運 此爻柔正にして其の身に良り、咎なきを得るは、縁運家庭運共に平穩無事の象にて、特に柔正なるは、男子は縁運上柔順貞正の妻を得る象なり。

◎壽命、病氣 此爻陰を以て柔に居るは、體質稍弱き象なるも、「艮其身。无咎」とある如く、身を善くする爲に咎なきものなれば、攝生養生よき爲に壽を保ち、病氣全快する象なり。

◎待 人 此爻柔正を以て六五に比從するは、待人來る象なり。

◎走人、失物 爻辭に「艮其身。无咎」とある如く、爻意爻象より見て、走人遠方に走らず。失物内に止りて共に容易に判明する象なり。上艮は東北、變體離は南、その方角を尋ねべし。

◎旅立、争事 爻辭に「良其身。无咎」とあるは、旅立争事共に進まざるを以て無事となす象なり。
◎就職、試験 此爻柔正にして身を善くするもの、就職希望通りには運ばざるも調ひ、試験大體好成績を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「良其身。无咎」とあるは、何れも進まざるを吉とする象なり。
◎天候 此爻陰を以て正に居り、變卦旅となるは、天氣不良にして定らざる象なり。

六五 良其輔。言有序。悔亡。

(爻辭讀方) 其の輔に良る。言序有り。悔亡。

(象義) ◎「輔」上頤又は頰骨のこと、口舌の意なり。三爻より上爻迄にて山雷頤の象あるより云ふ。

◎「言」意象なり。◎「有序」慎しみあること、六五陰靜にして中を得る象。
(意義) 此爻象義の所に於いて説明せる如く、頤の象に體するを以て「良其輔」と云つたのであるが

陰靜を以て中を得るが故に、言語を慎しみて多口輕言せず、よく順序次第ありてその節に中るのである。故にこれを「言有序」と云つたのである。而して六五は柔を以て尊位に居り正を得ず、且九三陽剛にして下に止りて朝せず、又二四の大臣は共に陰弱にして、九三の剛愎を制すること能はざるは、悔ある所以であるが、よく柔中の徳を守りて言語を慎しむが故に、九三の剛愎なるものも、自然に其徳に服して終に來り朝するに至るものである。故にこれを「悔亡」と云つたのである。要するに此爻、六五柔中を以て「良其輔」

の象を以て、輕言妄語、慎しみなき爲に災禍を招く徒を戒しめたのである。

(占斷)

◎運勢 此爻柔中の徳を備へ、言序ありて悔亡ぶるもの、即ち此爻を得たる時、温順にして中徳備り、物事に處して謹直なる爲に、よく他を服し、故障滯滞事解通して、運氣の安泰を得、諸事功利を遂げ得る象である。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「良其輔。言有序。悔亡」とある如く、爻意爻象より見て、妄進を慎しみ、順序次第を踏みて堅實に進まば、何れも順調に運びて功利を遂げ得る象なり。

◎相場 此爻柔中にして「良其輔」象あるは、相場軟弱氣配に持合ふ象なるも、變卦風山漸は木山上に生ずる象にて、漸成の意あれば、先行き漸次強調に向ふべし。

◎縁談 爻辭に「良其輔。言有序」とある如く、六五柔中の象に鑑みて、急がずして慎重に進まば纏るべし。縁としては「悔亡」とあれば、初めは多少の故障辛勞あるも、後には安泰幸福を得る象なり。

◎子實 此爻柔中にして「良其輔。言有序」とあるは、温順謹直なる兒女を得る象にて、「悔亡」とあれば、初めは多少子供に就きて辛勞あるも、後には安泰幸福を得る象なり。妊娠此爻柔を以て中に居り、變體巽を長女となすは、女兒の象なり。

◎縁運 爻意爻象より見て、男女共に温順謹直なる連合ひに添ふ象にて、「悔亡」とあるは初め多少の故障辛勞あるも、後には安泰幸福を得るに至る象なり。

◎家庭運 此爻柔中を得て「良其輔。言有序」とあるは、温順謹直なる性質を示すものにて、「悔亡」とある如く、その徳を以て人の信和を受け、初め家庭上故障辛勞を見ることあるも、よくこれを解除して安泰を得るに至る象なり。

◎壽命、病氣 此爻柔を以て停滯の象良體の中に居るは、體質稍弱き象なるも、「良其輔。言有序。悔亡」とあるは、攝生良き爲に健康を克ち得て壽を保ち、病氣亦養生よき爲に全快を得る象なり。

◎待人、走人、失物 爻辭に「悔亡」とある如く、爻意爻象より見て、待人遅るゝ象あるも來り、走人失物稍長引くも判明する象なり。上良は東北、變異は東南その方角を尋ぬべし。

◎旅 立 爻意爻象より見て、周到の用意を盡して出づれば差支へなし。

◎爭 事 爻辭に「良其輔。言有序」とある如く、此爻柔中にして輕言妄動せざる爲に、悔亡ぶるもの、争ふは爻意に反して凶なり。宜しく温和謹直の態度を以て和解を計るべし。

◎就職、試験 爻意爻象より見て、謹直なる爲に、「悔亡」とある如く、就職初め故障あるも終に調ひ、試験難關あるもよく成績を擧げ得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、妄動に流れず、順序を踏みて進まば、何れも差支へなし。

◎天 候 此爻陰柔を以て、停滯の象良の中に居るは、今天氣不良の象なるも、「悔亡」とあり、變卦漸は氣運漸次に進む象なれば、後次第に良好に向ふべし。

上九 敦_レ良。吉。

(爻辭讀方) 良_ニに敦_ル。吉_{ナリ}。

(象 義) ◎「敦_レ良」上九陽剛を以て上下重良の上に止る象。又此爻變すれば上卦坤となりて土の象となし山上土を加ふるも敦_レ良の象なり。

(意 義) 此卦は六爻皆止ることを以て義とするものであるが、久しくその所に止つて終りを全うすることとは人の至難とする所で、守ること久しければこれを終りに失ひ、物事これを久しくすれば終に廢するに至るは一般の通弊である。然るに今上九が剛實を以て良止の終りに居るは、復_タ動き行くべき所なく、動靜その時を失はずして、止ることの敦_キきもので、その吉なることを俟_タたぬものである。故にこれを「敦_レ良。吉」と云つたのである。要するに此爻、上九が剛實を以て良止の極に居り、良の義を全うする象を以て、敦_厚篤實の美德を讚美し、これを人に教へ示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛實を以て良止の極に居り、「敦_レ良。吉」なるもの、富貴にして篤_厚敦_厚の徳備り、運氣吉祥幸福の象である。尙爻意爻象より見て、徳望信用厚き象、滯滞事解通の象、物事終りを全うする象等がある。
◎願望、金談、賣買 爻辭に「敦_レ良。吉」とある如く、爻意爻象より見て、篤實にして人の信用厚く、何れも順調に運びて功利を遂ぐる象なり。

- ◎相場 此爻陽剛を以て卦極の高きに在るは、今相場高き象なるも、これ以上進み上るべき地なく、變卦謙となるより見て、天上となりて下がるべし。
- ◎縁談 爻辭に「敦レ良。吉」とある如く、爻意爻象より見て、良縁にして纏る象なり。
- ◎子實 此爻剛實を以て良止の極に居り、「敦レ良」象あるは、實實なる兒女を持つ象にて、吉とある如く幸福の象なり。妊娠此爻陽剛を以て少男の象良の主たるは、男兒なり。
- ◎縁運、家庭運 爻辭に「敦レ良。吉」とあるは、男女共に温厚篤實の連合ひに添ひて幸福なる象にて、家庭運亦富貴圓滿の家に生れ、而も篤實の性よく此の幸福を確保する象なり。
- ◎壽命、病氣 此爻陽剛を以て良止の極に居り、良るに敦く、吉なるもの、體質健康なる上に攝生よくして長壽を保ち、病氣養生よくして全快疑ひなき象なり。
- ◎待人 此爻篤實敦厚の象にして、良の停滞終る象なるは、待人約を守りて來り、幸便を齎すべし。
- ◎走人、失物 此爻良ること敦きは、走人遠方に走らず、失物内に止る象にて、吉とある如く直に判明すべし。上良は東北、變坤は西南、その方角を尋ぬべし。尙此爻卦極の高きに止るは、失物高所にある象なり。
- ◎旅立、爭事 此爻良るに敦き爲に吉なるもの、何れも進むは爻意に反して凶なり。
- ◎就職、試験 爻意に「敦レ良。吉」とある如く、篤實の徳功現れて、就職調ひ、試験好成绩を得る象なり。
- ◎開業、轉業、移轉 此爻良止の時に當り、善く止る爲に吉なるもの、何れも進みて凶なること説明の要なし宜しく現状を固守すべし。

◎天候 此爻良止の義を全うするもの、良を停滞の象となす。天候不良の象なり。然し良終るの時にて又變卦謙は靜穩の象なれば、後良好に轉ずべし。

☱ 風山漸 漸女歸吉。利貞。

(卦辭讀方) 漸は女歸いて吉なり。貞に利し。

(象義) ◎「漸」漸とは序を以て進むの義であるが、漸は本川の名で、川は次第に大になるものであるから、依りて以て漸次の意としたのである。此卦良を下にし巽を上にする。巽は木にして良は山である。それ樹木山上に生ずる時は、風の爲に動搖せらるゝが故に、其根柢地中に蔓延して然る後に枝幹の生長あるものである。乃ちその長ずるや漸を以てするものである。又卦徳を以て云へば、内卦良が下に止り、外卦巽が上に従ふは、即ち遽かに進まざる義で、その進むに序があるものである。又卦體を以てこれを見れば、即ち良は一陽巽は二陽で、一よりして二に至るも漸の象である。即ち以上の象義より此卦を漸と名づけたのである。而して此卦を良の次に置いた譯は、序卦傳には「良者止也。物不可以終止。故受之以漸」とある如く止まれるものは、必ず再び進むに至るものであるからである。

(意義) 漸は序を以て進むの義であるが、女子の嫁するや、閨門を出てて親迎に至る迄に、名を問ひ、采を納れ、期を請ふ等、六體の次序が備つて然る後に行くべきもので、人の漸を以て進むことの最も全きもの

である。故に「漸女歸吉」と云つて、女子の歸ぐ象を以て此卦の辭を係けたのである。而して漸の時たるや總て序を以て進むものなれば、必ず正しきによりて進まなければならぬのであつて、恰も婦道の貴ぶべき點は、正固の心を以てその操を守りて終りを全うするにあるが如きものである。故にこれを「利貞」と云つて戒しめたのである。要するに此卦、漸進の義を説き、その進むべき道を示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此卦木山上に生ずる象にして、漸進の義を説けるもの、即ち「利貞」とある如く、萬事急進妄動に走らず、堅實を旨として徐々に進めば、功を遂げ利を收め、吉運隆昌を見るに至るものである。

◎願望、金談、賣買 卦意卦象より見て、功を急がず利を焦燥せせらずして、堅實に漸進せば、何れも功利を遂げ得る象なり。これに反して急進妄動に走らば、失敗不利に終るべし。

◎相場 此卦木山上に生じて漸次に成長する象なるは、相場漸騰する象なり。

◎縁 談 卦意卦象より見て、急がずして徐々に話を運ばゞ纏るべし。縁としては末に至る程幸福を得る象にて、特に女子は幸福を得べし。

◎子 實 此卦木山上に生じて成長する象なるは、兒女の成功遅き象あるも、「利貞」とある如く、養育の道を正しくして末を待たば、大成功を見て悦びを得る象なり。妊娠異の長女、良の少男の上に在るは、女兒の象なり。

◎妻 運 爻辭に「利貞」とある如く、身を正しく守りて輕卒に縁を求めざれば、良妻を得て末に至る後幸福を得べし。

福を得べし。

◎夫 運 爻辭に「女歸吉」とあるは、夫運大いに幸福の象なり。

◎家庭運 卦意卦象より見て、漸次に家運發展し、末に至る程幸福の象なり。「利貞」とある如く、正固堅實を第一として家運の發展に努力すべし。

◎壽 命 爻辭に「利貞」とある如く、身を慎しみ攝生を守らば、木の山上に生長する象あるが如く、健康長壽を得べし。

◎病 氣 此卦漸進の象なるは、病氣長引く象あるも、「利貞」と戒しめある如く、氣長に養生を盡さば全快すべし。

◎待 人 此卦漸進の象なるは、待人遅るゝも來る象なり。

◎走人、失物 卦意卦象より見て、捨て置く時は走人遠方に走り、失物外に出て手に歸らざる憂ひあり。「利貞」とある如く、早く綿密に探さば、走人判明し、失物出づる望みあり。上卦巽は東南、下卦艮は東北、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事 此卦漸進の象にして「利貞」とあるは、旅立爭事共に、功を急がず輕卒に流れずして、周到なる注意を以て進まば、功利を收め得べし。

◎就職、試験 爻辭に「利貞」と戒しめある如く、卦意卦象より見て、堅實を旨として氣長に進まば、就職望みを遂げ、試験好成绩を擧げ得べし。

◎開業、轉業、移轉 亦卦意卦象より見て、輕學を慎しみ、堅實に進まば何れも吉なり。
◎天 候 卦意卦象より見て、天候次第に良好に向ふ象なり。

初 六 鴻漸于干。小子厲有言无咎。

(爻辭讀方) 鴻干に漸む。小子厲うして言有れども咎無し。

(象 義) ◎「鴻」鴻は水禽で、來往時ありて季節を違へず、又群飛序ありて列を亂さぬもので、此卦の序を以て進む漸の義と酷似して居るから、六爻皆鴻の象に取つて辭を係けて居るのである。而して約象離を鳥となし、互體坎を水となし、鳥の水に栖む象があるから、鴻の象を取つたのである。◎「干」汀なり。水涯のこと、初爻の爻象。◎「小子」初六を指す。初の爻象と艮の少男との合象。而して小子は童子の意に非ずして、人の下位に在る者を云へるなり。◎「有言」艮を成言となすの象。

(意 義) 初六は漸進の時に當つて最下に居るもので、直に進むものではないが、漸の時であるから漸次に進むべきもので、漸の始めに居るものであつて、恰も鴻が水上より陸上に進まんとして、水涯に到れるが如きものである。故にこれを「鴻漸于干」と云つたのである。然るに初六は陰柔不才で上に應爻の助けなく殊に最後に居るものであるから、進むの義に於いて、遲延して危きものがあり、多少の障害を免れぬものである。然し漸進の時に當つて水涯に進むは、順序を踏みて進むもので、度を越え等を犯すものでないから、咎なきを得るものである。故にこれを「小子厲有言无咎」と云つたのである。要するに此爻、初爻の象を

假りて、人の下位にありて上に助けなきもの、上進することの困難なることを説いたのであるが、急進することなく順序を踏みて進めば禍咎なきことを示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻陰柔にして最下に居り、「鴻漸于干」象あるは、才力微弱にして時運を得ざる象であり、「小子厲有言」とあるは、危難障害に遭遇する象なるも、「无咎」とある如く、漸進の義に合するものなれば、急進妄動に走ることなき爲に、危難障害を免れ、漸次運氣の發展を見るに至る象である。

◎願望、金談、寶賈 此爻陰柔を以て最下に居り、鴻の漸く干に進む象なるは、何れも未だ時を得ざる象にして、「小子厲有言」とあるは、故障を免れざる象なり。然し漸進の義に合して咎なきは、急進妄動を慎しみ、序を追ひて進まば、終に功利を收め得るに至る望みあり。

◎相 場 此爻陰柔にして最下に居るは、今相場安き象なるも、漸進の義に合し、「鴻漸于干」象あるは、先行き徐々に上る勢ひあることを示すものなり。

◎縁 談 爻辭に「鴻漸于干」とあるは、未だ縁談の糸口に起りたる計りの象にて、「小子厲有言」とあるは、順調に運ばずして故障を免れざる象なり。然し變卦風火家人となるより見て、急がずして徐々に話を運ばば成立する望みあり。縁としては「无咎」とあれば、大體良縁なり。

◎子 實 爻辭に「小子厲有言」とあるは、兒女に就きて故障辛苦を免れざる象なるも、漸進の義に合し、咎なき象あり、且變卦家人となるより見て、養育に注意して氣長に將來を待たば、吉祥安泰を得るに至るべ

し。姪姪此々陰柔にして、變體離を中女とするは、女兒なり。

◎縁 運 此交漸の初めに居り、交辭に「小子厲有言」とあるは、男女共に初めは縁運上故障不和を免れざる象なるも、漸進の義に合して「无咎」とあれば、忍耐して時を待たば、末には安泰幸福を得るに至るべし。

◎家庭運 此交陰柔不中正を以て最下に居るは、微運の家に生るゝ象にて、「小子厲有言」とある如く、初めは辛勞困苦を見る象なるも、漸進の義に合して咎なきを得るものなれば、忍耐して時節を待たば、末には幸福安泰を得るに至る望みあり。

◎壽 命 此交陰柔不中正を以て最下に居り、時運を得ざるは、生れつき虚弱の象にして、「小子厲有言」とある如く、少年時代は病難故障を免れざるも、漸進の義に合して「无咎」とあれば、行ひを慎しみて養生を守らば、體質を改善し得て壽を保ち得べし。

◎病 氣 此交「鴻漸于干」象あるは、病勢未だ初期の象なるも、「小子厲有言」とあれば、相當重症に陥る憂ひあり。然し漸進の義に合して咎なきを得る象あれば、氣長に養生せば全快を得べし。

◎待 人 交辭に「鴻漸于干」とあるは、待人來る意志ある象なるも、「小子厲有言」とあれば、故障ありて果さざる象なり。然し「无咎」とあれば終に來るべし。

◎走 人 此交漸の時に當り、「鴻漸于干」象あるは、遠方に走る意志にて家出せるも、未だ意を果さざる象にて、「小子厲有言」とあるは、家出先にて故障に遇ひ困難し居る象なり。而して「无咎」とあれば無事にて判明すべし。下良は東北、變離は南、その方角を尋ぬべし。

◎失 物 此交陰柔を以て艮止の下にあるは、何かの下になり居る象なり。而して「小子厲有言无咎」とあれば、直に判明せざるも、氣長に探さば出づべし。方角走人に同じ。

◎旅立、争事、就職、試験 交辭に「鴻漸于干」。小子厲有言。无咎」とある如く、交意交象より見て、旅立多少の故障を免れざるも、用意周到にして出づれば差支へなく、争事故障困難に遭遇して長引く象あるも、結局有利に解決し、就職亦故障困難ありて長引くも終に調ひ、試験二三不成績の課目あるも大體好成绩を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 交意交象より見て、何れも今急に進むべき時機に非ず。宜しく氣長に時を待ち、徐々に計畫を運ぶべし。

◎天 候 此交陰柔不中正を以て、停滯の象艮の下に止るは、天氣不良の象なり。然し本來陽位にして、變卦家人は平安の象なれば、後良好に向ふべし。

六 一 鴻漸于磐。飲食衎々。吉。

(交辭讀方) 鴻磐に漸む。飲食衎々たり。吉なり。

(象 義) ◎「磐」大石の平かなるものを云ふ。艮の象。◎「飲食」互體坎の象。◎「衎々」和樂の貌なり。六二變ずれば互體兌悅の象となるより取る。

(意 義) 六二は初爻よりも一等高く進みたるもので、これ即ち水涯より進みて磐石の上に升りたるもの

である。故にこれを「鴻漸于磐」と云つたのである。而して六二は柔順中正を得て、近くは九三に正比し、遠くは九五に正應し、その進むことの最も平安なるもので、恰も鴻が水涯より磐上に進みて安處するが如き象であるが、鴻はその食するに當つては、衆を呼んで共に喰ひ、和鳴悦樂するものである。故にその狀に喩へて「飲食衎々。吉」と云つたのである。要するに此爻、六二の柔順中正にして漸の道を得たることを讚美したのであるが、人も亦漸進の道に於いて斯くの如くならば、その吉を得ること言を俟たぬ所である。

(占 斷)

◎運 勢 此爻鴻水涯より磐上に進みて和樂し、吉なる象あるは、艱難漸く去りて安心を得、これより漸次盛運に向はんとする象である。宜しく六二の柔順中正なるが如く、謙讓誠直の心掛けを守りて、氣運の發展を計るべきである。尙爻意爻象より見て、目上の援引、身上の昇進、急進に凶漸進に吉等の象がある。

◎願望、金談、寶賈 爻意爻象より見て、何れも故障解けて成功の域に達せる象なり。宜しく六二柔順中正の德に鑑み、且此爻九三應爻九五との關係より見て功を急がず、忍耐誠實の心掛けを守り、目上の援けを求めて進むべし。然らば功利を遂げ得べし。

◎相場 此爻柔正にして、鴻の水涯より磐上に進める象なるは、安値回復して強調に向へる象にて、變卦巽爲風は巽風相重なれる象なれば、先行き強調波瀾を示すべし。

◎縁 談 此爻鴻磐上に進める象なるは、故障解けて成立の望みを生ぜる象なり。縁としては和鳴悦樂して吉なる象なれば良縁なり。

◎子 實 此爻柔順中正なるは、溫順誠實の兒女を得る象にて、運氣漸進の象あるは將來成功の望みあることを示し、和樂吉祥の象あるは、親子和合して幸福を得る象なり。姪姪此爻柔順中正にして變異を長女となすは、女兒の象なり。

◎縁 運 此爻和鳴悦樂して吉なる象あるは、男女共に和合圓滿を得て幸福の象なり。

◎家庭運 此爻鴻水涯より磐上に進み、漸進發展の氣運あるは、家運漸次隆昌に向ふ象にて、和樂して吉なる象あるは、家庭圓滿幸福の象なり。

◎壽 命 此爻陰を以て柔に居るは、體質稍弱き象あるも、中正を得て和樂吉祥の象あるは、攝生よくして長壽を保つ象なり。

◎病 氣 此爻水涯より磐上に進める象あるは、病氣危險を脱して安全の希望を生じたる象にて、和樂吉祥の象あるは全快を得る象なり。

◎待 人 此爻和鳴悦樂して吉の象なるは、待人來ることを示すものなり。

◎走人、失物 此爻水涯より磐上に進めるは、走人稍遠方に走り、失物何かの上にある象なり。而して和鳴悦樂の象あれば、間もなく判明すべし。下艮は東北、變異は東南、その方角を尋ねべし。

◎旅 立 爻意爻象より見て、出て、吉なること説明の要なし。

◎爭 事 此爻柔順中正の德ある爲に、和樂して吉を得るもの、爭ふは爻意に反して凶なり。
◎就職、試験 此爻鴻磐上に進みて、和樂するもの、就職調ひ、試験好成绩を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、吉とある如く、何れも進みて可なり。然し急進を慎しむべし。
◎天 候 此爻陰を以て正に居るは、今天氣不良の象なるも、和樂の象ありて變卦巽爲風となるは、風出て良好に向ふ象なり。

九 三 鴻漸于陸。夫征不復。婦孕不育。凶。利禦寇

(爻辭讀方) 鴻陸に漸む。夫征いて復らず。婦孕みて育せず。凶なり。寇を禦ぐに利し。

(象 義) ◎「陸」九三變すれば坤となり、平地の象となす。故に陸と云へるなり。◎「夫」九三を示す。陽剛を以て良の主たればなり。◎「婦」六四を示す。陰柔を以て巽の主たればなり。◎「孕」四爻を腹の位となし、互體坎、中滿つるは孕む象なり。◎「不育」九三變じて互體坤となれば坎の象見えず。乃ち育せざる象なり。◎「禦寇」互坎を寇盜となし、約象離を戈兵となし、下卦艮を止むるとなす。乃ち寇を禦ぐ象なり。

(意 義) 此爻六二より高きこと又一等なれば、鴻の磐上より陸地に漸めるものである。故にこれを「鴻漸于陸」と云つたのである。而して九三は過剛不中にして上に應爻の援けなきもので、その安きを得ざること、恰も水鳥たる鴻が陸上にありて安處し得ざるが如きものである。然るに六四が此隣に居る爲に、陰陽相比するものであるが、これ情慾を以て私比して常倫の大綱を破り、漸の卦の大義に反するものであるからその一家和合し、夫婦偕に老い、生育の功成りて子孫の繁榮を得ることが出来ぬのは當然のことであつて、

夫は婦を捨て、往き去つて復らず、婦も亦、夫が家を顧みぬ爲に、子を孕みてもこれを放棄して養育の任を果さず、その成育を遂ぐる事が出来ぬ様な結果になるもので、その凶なることは言を俟たぬ所である。故にこれを「夫征不復。婦孕不育。凶」と云つたのである。それ九三にして斯くの如くならば、必ず外邪來りてその虛に乘じ、害をなすに至ることは必然である。故に「利禦寇」と云つて、これに謹慎自ら守つて過剛不中の失を防ぎ、外寇の害をして乗ずる所なからしむるやうにすべきであると云つて、これを戒しめたのであつて、九三陽を以て剛に居ると雖、中を得ずして應爻の助けなく、その剛強の力を唯寇を禦ぐに用べくして、他に施すに宜しからざることを示したのである。要するに此爻、九三の象を以て、情慾に走りて人倫の常道を失するもの、凶害を招くに至るべきことを説き示し、漸の義に従ひて身を慎しみ道を守るべきやうこれを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻過剛不中にして應爻の助けなく、鴻陸に漸みて安處せざる象なるは、才力あるも強剛に失し慎しみを缺きて凶災を招く象である。宜しく漸の義に従ひて身を慎しみ、進退度を守りて禍害を防ぎ、運氣の安泰を計る心掛けが肝要である。尙爻意爻象より見て、孤立にして援助者なき象、急進よりの失敗災害、外敵來襲、夫婦不和合、子供に就きての不幸、流産等の象があるから注意を要する。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「夫征不復。婦孕不育。凶」とあるは、何れも功利を遂げ得ざることを示し、又「利禦寇」とあるは、外部より妨害者ある象なり。宜しく爻意の戒しめに従ひ、功を急がず、謹慎を守り

て漸成を計る心掛け肝要なり。

◎相場 此爻剛を以て陽に居るは、今相場高き象なるも、「婦孕不生育」とあるは、先行き伸びざる象にて、變卦觀となるより見て、波瀾あるも結局下る象なり。

◎縁談 爻辭に「夫征不復。婦孕不生育。凶」とあるは、凶縁の象なり。絶對に見合すべし。

◎子實 爻辭に「婦孕不生育。凶」とあるは、家内に缺陷ある爲に、兒女の成育を得ざる象なり。宜しくその缺陷を正すやう努むべし。妊娠此爻剛正にして、少男の象良の主たるは、男兒なり。

◎縁運 爻辭に「夫征不復。婦孕不生育。凶」とある如く、爻意爻象より見て、男女共に凶運甚しく、縁を全うし得ざる象にて、殊に六四と私比して凶を招くは、不正の縁を結ぶ爲に不幸を招く象なれば、慎しむ肝要なり。

◎家庭運 此爻鴻陸に漸みて安處せざる象なるは、家庭上憂苦多き象にて、又上に應與なきは、身内の目上に縁漣き象なり。宜しく爻意の戒しめに従ひ、謹慎して身上の安泰を計るべし。

◎壽命、病氣 爻意爻象より見て、病難故障多くして壽を保ち難く、病氣危険の象なり。然し剛正を得るは體質強健の象なれば、「利禦寇」とある如く、攝生養生を嚴守せば、よく壽を保ち、病氣全快を得るに至る望みあり。

◎待人、走人、失物 爻辭に「夫征不復。婦孕不生育。凶」とある如く、爻意爻象より見て、待人來らず。走人失物判明せざる象なり。尙六四との關係より見て、走人は色情關係ある象なり。下良は東北、變坤は西南

その方角を尋ね見るべし。

◎旅立、争事、就職、試験 亦爻意爻象より見て、旅立争事共に凶にして、就職望みなく、試験不成績なること説明の要なし。宜しく爻意の戒しめに従ひ、身を慎しみて時運の到来を待つべし。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「利禦寇」とある如く、謹慎退守して外敵を防ぐべき時なり。何れも進むは爻意に反して凶なり。

◎天候 此爻陽を以て陽に居るは、今天氣良き象なるも、艮止の主にして、變卦觀は風地上を行き、又陰長じて陽消する象なれば、後風加はりて天氣不良となる象なり。

六 四 鴻漸于木。或得其桷。无咎。

(爻辭讀方) 鴻木に漸む。或は其の桷を得。咎無し。

(象義) ◎「木」上卦巽の象。◎「桷」木の枝の平かなるものなり。互坎を宮となし、六四その上に在るの意象なり。

(意義) 此爻九三より進むこと又一等なれば、鴻の陸より進みて木に上れる象となし、これを「鴻漸于木」と云つたのである。然し鴻は元來水鳥て木に棲むものでなく、その趾が平かに連つて居つて、木の枝を掴む様に出來て居らぬから、今木上にあるはその處を得ずして安處し得ざるものである。これ六四が陰柔を以て進みて互體坎險の上に居り、且過剛不中なる九三の上に乗つて居るのは、危くして安からざるものである

から、これを鴻の木上に居るに喩へたのである。然し六四は幸にして陰を以て柔に居り、正を得て居るから柔順の徳あるもので、序を以て進む漸の卦の義に合し、終に危きを易へて安きを得る望みのあるものである。これ恰も鴻が幸にして平かなる枝を得てこれに止れば、趾平連なりと雖よく安處し得るが如きものである。即ちこれを「或得其柄。无咎」と云つたのである。要するに此爻、六四の象を以て、人の高位に進むもの、或は剛暴なるものに接し、或は艱險の事に遭遇し、危難あることを免れぬものであるが、これに處するの道は、順にして異なるにあることを説き示したのである。

(占 斷)

- ◎運 勢 此爻鴻木に進みて安處せざる象なるは、地位進み、身上發展する象であるが、その爲に又艱難危険に處して辛苦あることを示すものである。宜しく斯くの如き氣運に處しては、六四が柔正を得る爲に咎なきを得るが如く、順徳を守りて身を慎しみ、人に接し、物事に處して安泰を計る心掛けが肝要である。
- ◎願望、金談、賣買 爻辭に「或得其柄。无咎」とある如く、六四が柔正の徳ありて咎なきを得るに鑑み、功を急がず、順正の道を守りて進まば、鴻の木に進みて安處し得る象ある如く、何れも功利を遂げ得べし。
- ◎相場 此爻鴻木に進める象あるは、相場一時上れる象なるも、所を得ずして安處せず。又陰を以て柔に居り、變卦遯となるより見て、永持ちせずして崩る象なり。
- ◎縁 談 六四柔正を得て順徳を備へ、漸進の義に合する爲に安處し得る象あるは、成立を急がず、序を以て運ばゞ纏る望みあり。縁としては「无咎」とあれば大體良縁なり。

- ◎子 實 此爻鴻木上に進みて安處せざる象あるは、兒女に就きて辛勞を免れざる象なるも、柔正を得るは資性温順の象にして、「无咎」とある如く、よく辛勞を脱して安泰幸福を得るに至る象なり。妊娠此爻柔正にして長女の象巽の主たるは、女兒なり。
- ◎縁 運 此爻鴻木に進みて處を得ず、安んぜざる象あるは、男女共に縁運上辛勞を免れざる象なるも、柔正の徳を備へて咎なきを得るは、順徳ある爲に氣運を轉じて安泰幸福を得るに至る象なり。
- ◎家庭運 亦縁運の項に於いて説明せる如く、爻意爻象より見て、家庭上辛勞を免れざる象あるも、順徳を以てよくこれを排除し、安泰幸福を得るに至る象なり。
- ◎壽命、病氣 此爻陰を以て柔に居るは、體質弱き象にて、又鴻木に進みて安處せざる象なるは、健康上故障を免れず、病氣不安の症状を示すも、正徳ありて咎なきを得るは、攝生養生よき爲に、故障不安を脱して壽を保ち、病氣全快を得る望みある象なり。
- ◎待 人 此爻鴻進みて木に上る象にて、又「无咎」とあるは、待人來る象なり。
- ◎走人、失物 亦此爻鴻進みて木に上る象なるは、走人高飛びする象にて、失物高所にある象なり。「无咎」とあれば何れも判明する象なるも、變じて遯となれば、逃れ去る象なれば、早く尋ねざれば判明せざるに至る憂ひあり。上巽は東南、變乾は西北、その方角を尋ねべし。
- ◎旅 立 爻辭に「无咎」とあれば出て、可なるも、六四順徳の象に鑑み、旅中慎しみを守ること肝要なり。
- ◎争 事 此爻柔順の徳ある爲に咎なきを得るもの、争ふは爻意に反して凶なり。中止すべし。

◎就職、試験 此爻鴻進みて木に上る象あるは、就職調ひ、試験好成绩を得る象なるも、處を得ずして安んぜざる象あるは、就職後安定を缺きて不安を感じ、好成绩を永く保持し難き憂ひあることを示せば、將來の安定を保つ爲に、六四の順徳に鑑みて慎しみを守ること肝要なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、妄進妄動に流れざれば、「无咎」とある如く、何れも進みて可なり。

◎天 候 此爻陰を以て正に居り、變卦遯は陰長じて陽消する象なれば、天氣不良なるか悪化する象なり。

九五 鴻漸于陵。婦三歲不レ孕。終莫之勝。吉。

(爻辭讀方) 鴻トビに漸すすむむ。婦かみ三歲さんさい孕こむまず。終つひに之これに勝かつこと莫なし。吉きちなり。

(象 義) ◎「陵」は高阜にて、高き岡のことなり。九五君位の至高に在る意象。◎「婦」六二を指す(意 義) 此爻君位の高きに在るは、鴻の高く飛びて岡に進める象である。故にこれを「鴻漸于陵」と云つたのである。而して九五は六二と正應であるから、これと相會せんと欲するものであるが、漸の時に當りて進むこと高きに過ぎて、六二これに應ずること難く、且その中間にある三四兩爻は、三は艮止の主であり、四は互坎の險に體して居つて、九五が六二に親しまんとすれば九三が傍よりこれを間隔し、六二が九五に親しまんとすれば、六四が九五に近比してこれを間隔し、二と五との相應和することを不可能ならしむるものである。故にこれを「三歲不レ孕」と云つたのである。然し九五は元來剛健中正の徳を備へて居るものであり、六二も亦柔順中正の徳を備へて居るものであるから、九五と六二とが相應和せんと欲するのは、中正

の道に合して居るものである。即ち三四兩爻がこれを阻隔せんとするのは、不正を以て中正を阻隔せんとするもので、終に能くこれに勝ち得べき道理がなく、五と二とは必ず相合して吉を得るに至るべきものである。故にこれを「終莫之勝。吉」と云つたのである。要するに此爻、九五剛健中正の徳を讚美し、邪の終に正に勝ち難き理を説き示したのである。又漸の卦義より見れば、漸にして終を全うし、願ふ所を得たるもので、論語の所謂「先難而後得。欲速則不達」とある義を見るべきである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛健中正を以て君位に居り、鴻の陵に進める象なるは、才力德行備り、序を以て進みて身上發達し、人の上に立つ運勢なるも、三四兩爻の阻隔に遇ひ、「三歲不レ孕」の象あるは、目下に阻害するものありて、憂苦を見る象あることを示すも、「終莫之勝。吉」とある如く、才力德行を以てよくこれを排除し、終に吉祥安泰を得るに至る象である。

◎願望、金談、賣買 此爻三四兩爻に阻隔されて、六二に應和せんとする志を遂げ難きは、妨害者ありて故障阻滯を招く象なるも、「終莫之勝。吉」とある如く、よくこれを排除して、何れも終に功利を遂げ得るに至る象なり。

◎相 場 此爻剛正を以て君位の高きに居り、「鴻漸于陵」象あるは、相場昂騰せる象なるも、「三歲不レ孕」とあり、又變卦艮爲山となりて停滯の象あるは、騰勢止りて伸悩む象なり。

◎縁 談 爻辭に「三歲不レ孕。終莫之勝。吉」とある如く、爻意爻象より見て、故障妨害ありて一時停頓

する象なるも、後解通して成立を見る象なり。縁としても初め故障苦勞あるも、末には吉なる縁なり。

◎子 實 亦爻辭に「三歲不_レ孕。終莫_ニ之勝_一。吉」とあるは、初め故障ありて子供を得ず、憂心の象あるも後故障解けて兒子を得る象にて、剛健中正を以て尊位に進める象なるは、兒女才力德行を備へて大いに成功し、悦びを得る象なり。妊娠此爻剛正にして君位居には、男兒の象なり。

◎縁 運 此爻六二と應和せんとして三四兩爻に阻隔され、意を遂げ難き象あるは、男女共に妨害ありて相思の間を遂げず、又夫婦の情愛は圓滿なるも、周囲の故障の爲に苦勞を見る象なり。然し「終莫_ニ之勝_一。吉」とあれば、終に故障妨害解けて相思の念願を遂げ、又夫婦間の和樂を得るに至る象なり。然し「三歲不_レ孕」とあれば、子供を得ること遅き象なり。

◎家庭運 此爻剛健中正を以て尊位に居るは、富貴の家に生るゝ象なるも、三四兩爻に阻隔されて志を遂げざるは、周囲特に目下の者に勞はされて、憂苦を見る象なり。然し「終莫_ニ之勝_一。吉」とある如く、才徳備る爲によくこれを免れて後には幸福を得るに至る象なり。

◎壽命、病氣 此爻三四兩爻に阻隔されて、「三歲不_レ孕」の象あるは、壽命上健康障害を招き、病氣故障多くして停滞を見る象なるも、剛健中正を得るは體質強健の象なれば、三四兩爻の障害を退けて吉を得る如く、よくこれを脱して壽を保ち、病氣全快を得べし。

◎待人、走人、失物 爻辭に「三歲不_レ孕。終莫_ニ之勝_一。吉」とある如く、此爻三四兩爻に阻害されて、六二に和せんとする志を遂げ難きも、終に阻害を排除してその意を遂ぐるものなれば、待人故障ありて遅るゝも來

り、走人夫物容易に判明せざるも、遂にこれを發見し得て悦びを得る象なり。上巽は東南、變艮は東北、その方角を尋ねべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 亦此爻三四兩爻に阻隔されて「三歲不_レ孕」象あるは、旅立爭事故障困難に遭遇して長引き、就職妨害ありて停頓し、試験意の如く運ばざる象なるも、「終莫_ニ之勝_一。吉」とあるは、旅立爭事故障困難を排除して終に目的を遂げ、就職長引くも妨害解けて成就し、試験次回には好成績を挙げ得るに至る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも進むに故障困難を免れざる象なるも、進みて終に吉利を得るに至る象なり。

◎天 候 此爻陽を以て正を得、中に居るは、今天氣良き象なるも、三四兩爻に阻隔されて「三歲不_レ孕」の象あり、又變卦艮は停滞の象なれば、後不良となるべし。

上 九 鴻漸_ニ于陸_一。其羽可_ニ用爲_レ儀_一。吉。

(爻辭讀方) 鴻陸に漸む。其の羽用ゐて儀と爲すべし。吉なり。

(象 義) ◎「陸」陸の字九三の辭と重なるを以て、遂に作るべしとするのが通説である。一説に阿となすを以て正しとする説があり、これにも一理はあるが、今は通説に従つて置く、而して遂とは雲路のこと、虚空の廣きを云ひ、上爻天位の象より取る。

(意 義) 此爻漸の極に進み、最高の位置に在るは、恰も鴻が飛揚して雲際の上れるが如きものである。故にこれを「鴻漸干陸」と云つたのである。而して鴻はその來往時を以てし、群飛序あるもので、今上九が、鴻の干より磐に、磐より陸に、陸より木に、木より陵に序を以て進み、遂に遠の雲路に進み上れる如く漸を以て卦極の最高に進み到れるは、これを人事に取つて見れば、功成り名遂げて退き、常事に超出したる高人逸士の象で、その高風以て人の儀表となるべきこと、恰も鴻の羽毛が用ゐて旌旄その他の儀表となすべきが如きもので、その占の吉なることは元より言を俟たぬ所である。故にこれを「其羽可用爲儀。吉」と云つたのである。要するに此爻、上九の象を以て、功成り名遂げて退隠し、物外に超然たる高士の徳を讚美したのであつて、漸の義より見れば、その道を全うしたるものである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻鴻雲路に進める象にて、高士の物外に超然たる象あるは、功成り名遂げて引退し、安靜の境地にある象なり。宜しく物慾を超越し、益徳を修めて人の儀表となるやう心掛くべし。

◎願望、金談、賣買 此爻功成り名遂げたる高士の象なるは、願望金談成就し、賣買順調に進みて利を得る象なるも、爻意より見て調子に乗り、望蜀の念を起さざる心掛け肝要なり。

◎相 場 此爻陽剛を以て卦極の高きに居り、鴻雲路に進める象なるは、相場上れる象なるも、これ以上進み上る所なく、變卦蹇は往き難む象なれば、騰勢止りて不勢を示す象なり。

◎縁 談 爻意爻象より見て、縁談纏り、吉縁の象なり。

- ◎子 實 此爻功成り名遂げて物外に超然たる高士の象なるは、子供運良く、晩年安泰幸福を得る象なり。姪姪此爻陽剛にして變體坎を中男となし、高士の象あるは男兒なり。
- ◎縁 運、家庭運 爻意爻象より見て、男女共に縁運吉祥幸福にして、家庭運亦富貴安泰を得る象なり。特に功名の士退隱の象あるは、晩年に至りて幸福の象あり。
- ◎壽 命 爻意爻象より見て、健康長壽の象なり。
- ◎病 氣 此爻鴻雲路に上り、變卦蹇は艱險に陥りて進み難き象なれば、病氣危険の象なり。
- ◎走 人、失物 此爻卦極の高きに居り、鴻雲路に上る象あるは、走人遠方に走り、失物高所に紛れ込み居る象なり。而して吉とあれば判明の望みある象なるも、高士隱退の象あれば、捨置く時は不明となる憂ひあり上異は東南、變坎は北、その方角を尋ぬべし。
- ◎旅 立、爭 事 此爻高士隱退の象にて變卦蹇は險難に陥りて進み難き象なれば、何れも進むに凶にして、退き守るに吉なる象なり。
- ◎就 職、試 驗 此爻功成り名遂げたる高士の象なるは、就職調ひ、試験好成績の象なるも、爻意爻象より見て、將來慎しみを守る心掛け肝要なり。
- ◎開 業、轉 業、移 轉 此爻卦極に在りて進むべき所なく、又高士隱退の象にて、變卦蹇は險難に陥りて往き難む象なれば、何れも進むは凶なり。
- ◎天 候 此爻陽剛にして、高士物外に超然たる象あるは、今天氣良き象なるも、本來陰位にして、變卦蹇

となれば險難に陥りて氣運閉塞の象なれば後不良となるべし。

䷗ 雷澤歸妹 歸妹征凶。无攸利。

(卦辭讀方) 歸妹征凶なり。利しき攸無し。

(象 義) 〇「歸妹」歸妹は妹歸ぐなり。又妹は昧に同じく理に暗き義なり。即ち妹、姉に先んじて嫁ぎ、歸ぐ所昧く理に反し、婚姻正しきを得ざる義を云へるなり。此卦、兌を下にし震を上にする。震は長男にして兌は少女なり。即ち少女を以て長男に従ふは、女の若くして未だ嫁ぐべからざるに、情に走りて悦びて長男に従ふものにして、禮に合はず、婚姻正を得ずして人倫に反するものなり。故にこれを歸妹と名づけたるなり。又漸の卦は少男長女に下る象にて、女長じて人の來り聘するを待ちて嫁するものにて、婚姻の正を得たるものなるに、此卦は漸の卦と反對して、兌の少女下にあり、上にある長男に悦びを以て従ひ、人の來り聘するものなきに先んじ、私情を以て通ずるものにして、婚姻の正しきに反するものなり。故にこれを歸妹と名づくるなり。又此卦六三は兌の主にして、九四は震の主なるが、共に正を得ずして、正道を失して私情を肆まゝにする象なるも、歸妹の卦名ある所以なり。而して此卦を漸の次に置ける所以は、漸は進にして、進めば必ず歸する所あるを以てなり。

(意 義) 此卦象義の項に於いて説明せる如く、少女私情を以て悦びて長男に従ひ、姉に先んじて、人の

來り聘せざるに嫁するもので、婚姻の正しきを得ざるものであるから、これを「歸妹征凶。无攸利」と云つたのであるが、唯に婚姻の義のみならず、人事萬般その理正しからざれば凶なることを説き示して居ることとは云ふ迄もないことである。凡そ易卦中、凶を云へば重ねて不利を云はず、又不利と云へば重ねて凶と云はないものであるのに、此卦だけが獨り、征凶と云つて、重ねて「无攸利」と云つてあるのは、聖人が悦びを以て動き、情を恣にして私慾を揮ふもの、理に反きて凶惡なることを切言し、深くこれを誡しめたのであつて、その意を悟るべきである。

(占 斷)

〇運 勢 此卦少女私情を以て長男に従ひ、婚姻正しきを得ざる象にて、交辭にも「征凶。无攸利」とある如く、情慾に従ひて心を動かし、物事正しきを失する爲に、目前吉利を得て悦びある如く見ゆるも、終りを遂げずして凶災を招くに至る象である。宜しく身を慎しみ正しきを守りて、凶災を免れ將來の安泰を得るやう心掛くることが肝要である。

〇願望、金談、賣買 此卦進むこと正しきを失して、凶を招き利しき攸なきもの、願望金談共に私慾に走り、正義を欠く爲に成就せずして却て困厄に陥り、賣買利に迷ひて不正に走り、初め順調に見えて結局失敗損失を招く象なり。

〇相 場 此卦婚姻正を得ざる象にて、天地交らず、萬物興らず、初め吉に見えて物事終りを遂げざる象なれば、相場目先強調に見えて先行き下る象なり。

- ◎縁談 卦意卦象より見て、縁談凶なること説明の要なし。絶対に見合すべし。
- ◎子實 卦辭に「征凶。无攸利」とある如く、卦意卦象より見て、不良の兒女を持ちて不幸辛苦を見る象なれば、養育上細心の注意肝要なり。妊娠此卦兌の少女先んじて進む象なるは、女兒なり。
- ◎縁運 卦意卦象より見て、男女共に情慾に溺れて不良の縁を結び、苦情紛亂を招きて終りを遂げず、凶悪不幸を見る象なり。特に男子は多情の女に戀慕されて苦勞する象なり。
- ◎家庭運 卦辭に「征凶。无攸利」とあるは、家庭運凶惡にして、辛勞不幸を嘗むる象なり。宜しく身を慎しみ正義を守りて此運勢を轉換する心掛け肝要なり。
- ◎壽命、病氣 亦卦辭に「征凶、无攸利」とある如く、卦意卦象より見て、情慾を恣にし、攝生を欠き不養生に流れて、短命に終り、病氣全快の望みなき象なり。
- ◎待人、走人、失物 卦辭に「征凶。无攸利」とあるは、待人來らず、走人判明せず、身上に危険の憂ひある象にて、失物出て難し。
- ◎旅立、爭事、就職、試験 卦辭に「征凶。无攸利」とある如く、卦意卦象より見て、旅立出てて凶災を招き、爭事敗れて艱苦厄難に陥る象なれば、何れも中止すべく、又就職絶望にして、試験甚だ不成績の象なり。
- ◎開業、轉業、移轉 何れも進みて凶惡なること説明の要なし。
- ◎天候 此卦初め吉に見えて終りを遂げざる象なるは、天氣今良好に見えて後不良となる。

象なり。

初九 歸妹以娣。跛能履。征吉。

(爻辭讀方) 歸妹娣を以てす。跛能く履む。征いて吉なり。

(象 義) ◎「娣」正妻に従ひて夫家に嫁するものにて、媵妾なり。初九最下に居りて上に正應なく、兌を妾となす象より取る。◎「跛能履」初爻足の位に當り、兌を毀折となす。跛の象なり。而して此爻雷風恒の三爻より來りしもの、常を執り正を履まば、能く履むことを得るなり。

(意 象) 支那に於いては、女子が歸嫁する時には必ず娣を將るて行くのを禮としたものである。而して娣とは嫡妻即ち正妻を承助して、次第を以て夫に御するものである。歸妹の卦の諸爻は皆女子の歸く象を以て辭を係けて居るものであるが、初九は最下の位に在りて上に正應なきもので、これ女子の微賤の家に生れて、薄命にして良人の配を得ず、人の正室になることを得ざるもので、娣の象である。故にこれを「歸妹以娣」と云つたのであるが、これは六五に於いて帝乙がその妹を歸がしめるに當り、姪娣を引き連れて行かしたことを以て云つたのであつて、即ち此卦に於いては六五の尊位にあるを正妻とし、その他の爻を娣となすのである。それ娣たるものの道は、諸般の事皆嫡妻の指命を承け、自身が勝手に物事を制する事の出來ぬもので、唯能く娣の分を守りて承順の道を行ふだけで、大に行ふ所あるものでない。これ恰も跛者の能く地を踏んで行くことを得ると雖、人並に大に行く能はざるが如きものである。即ちこれを「跛能履」と云

つたのである。而して女子の自ら進みて婦ぐのは、禮に反して凶であるけれども、姉が正妻に従ひて行くのは、これ常禮に従つて行くもので、跛者が人に頼つて能く履み行くが如きものであつて、正妻に承順してよく分を守れば、往き婦ぎて咎むべき所がないものである。故にこれを「征吉」と云つたのである。要するに此爻、人の恒常の道に従ひ、分を守るものゝ咎なきことを示して居るものである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻最下に在りて上に應なく、姉の正妻に従ひて嫁し、これに承順するものにして、跛者の人に頼りて行く象あるは、時と位を得ず、獨立獨行の勢力なく、人の援護によりて世に立ち、物事に進む運勢である。然し爻意の示す如く、時運を知りて分を守り、目上の人に順從して進めば、「征吉」とある如く、物事も順調に運びて吉祥を得るものである。

◎願望、金談、賣買 爻意爻象より見て、大望大金は望みを遂げ難きも、分に應じたることは、目上の人に頼りて運ばゞ「征吉」とある如く成就すべく、特に婦人の力を借りて功を見る象なり。賣買亦分外に走らず、大利を望まずして、堅實に進まば相當功利を擧げ得べし。

◎相場 此爻剛正を以て最下に在るは、相場底意強きも伸び悩む象にて、變卦雷水解となるより見て、先行き一時下押しして後昂騰氣配を示すべし。

◎縁 談 亦爻意爻象より見て、我意を慎しむ他の盡力に信賴して運ばゞ「征吉」とある如く纏るべし。縁としても初めは多少の故障あるも末は吉を得る縁なり。

◎子 實 此爻剛を以て正に居るは、才力強き兒女を得る象なるも、最下にありて時を得ず。上に應與なく「跛能履」の象あるは、不遇にして成功遅き象あるも、「征吉」とあれば、末には成功を得て幸福を見る象なり。妊娠此爻剛正にして變體坎を中男となすは、男兒の象なり。

◎夫 運 此爻最下に居りて時を得ず、上に應爻の助けもなく、姉の象あるは、縁運遅きか、正妻たるを得ない象なるも「征吉」とあれば、柔順にして分に安んずれば末には幸福を得べし。

◎妻 運 此爻剛正なるは、才力に富み貞正の妻を得る象なるも氣性烈しき象あり。而して姉これに従ふ象あるは、正妻以外に妾を蓄ふる象あり。

◎家庭運 此爻剛正を得るも、最下にありて上に應爻の援けなきは、才力あるも微運の家に生れ、目上に縁薄き象なり、然し爻意に示す如く、分を守りて和順の心掛けを失はざれば、「征吉」とある如く、末には家運を興して幸福を得べし。

◎壽命、病氣 此爻剛正を得るは體質強健の象なれば、爻意に示す如く、無理をせずして身を慎しみ、攝生養生を守らば、「征吉」とある如く、長壽を保ち、病氣全快すべし。

◎待 人 此爻姉の六五に従ひて嫁する象なるは、待人來る象なり。

◎走 人 此爻跛者履み行くと雖も、大いに行く能はざる象なれば、遠方に走らざる象なり。「征吉」とあり又變卦解は蹇み解くる象なれば、間もなく判明すべし、下兌は西、變坎は北、その方向を察ぬべし。

◎失 物 此爻最下に在りて、姉の正妻に従ひて嫁する象なるは、何かに附着して紛れ込み、下積みになり

居る象なり。「征吉」とあり。變卦解となるより見て出づべし。方角走人に同じ。

◎旅立 爻辭に「征吉」とあれば出て吉なり。然し爻意より見て、旅中慎しみを守ること大切なり。

◎爭事 此爻六五の正妻に承順し、分を守る爲に「征吉」なるもの、争ふは爻意に反して凶なり。

◎就職、試験 爻辭に「跛能履。征吉」とあるは、就職人の力によりて調ふも、満足する地位を得ず、試験及第するも、成績優良ならざる象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意より見て、何れも分に應じて無理に流れざれば「征吉」とある如く進みて可なり。

◎天候 此爻陽を以て正に居るは、今天氣良き象なるも、變卦解となるより見て、後雨となるべし。

九 一一 眇能視、利幽人之貞。

(爻辭讀方) 眇能く視る。幽人の貞に利し。

(象義) ◎「眇」互體離を目となし、約象坎を疾となし、兌を毀折となす。乃ち眇の象なり。◎「幽人」榮枯に超脱し世界に關係せざる人を云ふ。兌は西にして幽暗の象となし、二を人位となす。乃ち幽人の象なり。

(意義) 九二も亦娣ではあるが、剛中の徳を備へて居るのは、娣の賢なるものである。故によく正妻に承順し、娣たるもの、道を得るものであるが、元來娣は正妻の指命を受けてこれに従ひ、己れ自ら事を専らにすること能はざるものであるから、賢なりと雖正妻の如く、内助の功に力を致して大いに爲すことなく、

唯己れの分を守りてその身を善くするに止るもので、恰も眇の人が能く見ると雖遠きを見る能はざるが如きものである。即ちこれを「眇能視」と云つたのである。而して九二は娣にして正室に非ざれば、賢なりと雖娣の道を守りて己れの分限を越えず、恰も幽人が榮枯に無心にして世界に關係せざるが如く、能く常を守れば則ちその道宜しきに適ひて安靜を得るものである。故にこれを「利幽人之貞」と云つて戒しめたのである。要するに此爻、賢剛なりと雖時に遇はず、その身の境遇宜しきを得ざれば、道を守り分に安んずべきことを説き示したのである。

(占斷)

◎運勢 此爻娣の象にして剛中を得るは、身に才徳を備ふるも時を得ず、自由の活動をなすこと能はざる境遇にある象である。宜しく斯くの如き時に當りては、「利幽人之貞」とある如く分を守り身を慎しみて、時運の到るを待つ心掛けが肝要である。

◎願望、金談、寶賈 爻辭に「利幽人之貞」とある如く、爻意爻象より見て、何れも今進むべき時に非ざるを以て、身を慎しみ事を控へて時運の到來を待つべし。

◎相場 此爻陽剛なるは強氣配を示すも、本來陰位にして毀折の象兌の中に居るは、上らずして挫折する象なり。然し變卦震爲雷となるより見て先行き上るべし。

◎縁談 爻辭に「利幽人之貞」とあるは、縁談見合せて時節を待つを吉とする象なり。

◎子實 此爻剛中を得るは、才徳ある兒女を得る象なるも、娣の象にて大いに爲す所なきは、時運を得ず

して才徳を發揮し得ず、不遇の象あり。宜しく「利幽人之貞」とある如く、分に安んじて時を待つべし。然らば兒女世に出づる時節到來すべし。姪姪此爻陽剛なるも本來陰位にして、少女の象兌の中に居るは、男兒と思ひしもの女兒の象なり。

◎夫 運 此爻剛中の徳を備ふるは、才徳ある夫に添ふ象なるも、爻意爻象より見て、成功意の如くならず發展遅き象あり。

◎妻 運 此爻剛中にして女の賢なるもの、才力を備へ貞正なる妻を得る象なり。而して「利幽人之貞」あるは、男女共に急がずして分に應じたる縁を求むる心掛け大切なる象なり。

◎家庭運 此爻娣の象にて大いに爲す所能はざるは、家庭上日蔭の立場に立ちて意の如くならざる象なるも剛中を得るは才徳ある象なれば、「利幽人之貞」とある如く、分に安んじ身を慎しみて時節を待たば、幸福を得るに至るべし。

◎壽命、病氣 爻辭に「利幽人之貞」とある如く、身を慎しみて攝生養生を怠らざれば、剛中を得て本來は體質強健の象なれば、健康長壽を得、病氣全快すべし。

◎待 人 爻辭に「利幽人之貞」とあるは、焦躁らずして氣長に待つべきを示すものにて、時到らば來るべし。

◎走人、失物 亦爻辭に「利幽人之貞」とある如く、落着きて尋ね、時節を待つべし。然らば判明すべし。下兌は西、變震は東、その方向を尋ぬべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 亦爻辭に「利幽人之貞」と戒しめある如く、爻意爻象より見て、旅立見合せ時節を待ち、爭事思止り、就職亦焦躁らずして時節の到來を待ち、試験成績の如何を氣にせずして、専心勉強すべし。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「利幽人之貞」と戒しめあるは、何れも進むべからずして、時節を待つべきことを示すものなり。

◎天 候 此爻陽剛なるは今天氣良き象なるも、本來陰位にして毀折の象兌の中に居り、變卦震は震雷相重なれる象なれば、後險惡となるべし。

六 三 歸妹以須。反歸以娣。

(爻辭讀方) 歸妹須を以てす。歸を反して娣を以てす。

(象 義) ◎「須」須は賤女の稱なり。六三陰柔不中正にして、卑賤の象兌の主たるを以て云ふ。

(意 義) 六三は陰柔不中正を以て兌悅の主となり、柔を以て剛に乗り、務めて人を悦ばんとするもので、上六の應位に往きて配遇を求めんとするも、同陰にしてこれに應ぜざる爲に、又九四の比爻に嫁を求めんと欲するものである。これ正禮に依らず、媒妁を待たず、私情を以て嫁を求めらるるもので、不徳不貞の賤女と云ふべきである。故にこれを「歸妹以須」と云つたのである。然るに九四は六三の不徳不貞なることを惡みて、これを拒みて容れざる爲に、嫁せんとする志を遂げず、已むを得ずして正妻たらんとする志望を斷念

し、心を變じて娣妾となり、これに甘んずるものである。即ちこれを「反歸以娣」と云つたのであつて、反歸とは歸嫁せんとする志を翻す意である。六三が斯くの如く不徳不貞なるは、その辭を保げざるも凶なることは言を俟たぬ所である。要するに此爻、不徳にして貞心なく、志行常ならざるものを排撃したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻陰柔不中正にして、不徳不貞、凶を招く女子の象なるは、徳なくして志行恒常を失ひ、私利私慾に走りて凶災を招くに至る運勢である。宜しく志行を改め徳を磨き、運氣を轉じて凶災を免るゝ心掛けが肝要である。

◎願望、金談、賣買 此爻他に惡み退けられて、正妻たらんとする志を遂げず、終に娣たるに至るもの、何れも徳を缺き志行亂れて他の信望を失ひ、功利を遂げ得ざる象なり。

◎相 場 此爻陰を以て柔に居り、毀折の象兌の主たるは、相場安く、尙一段挫折する象なり。然し變卦雷天大壯となるを以て、先行きは回復して上る望みあり。

◎縁 談 爻意爻象より見て、凶縁にして纏る望みなきこと説明の要なし。

◎子 實 此爻陰柔不中正にして、不徳不貞の象なるは、志行亂れて親に辛勞迷惑を懸ける兒女を持ち、不幸の象なり。妊娠此爻陰柔にして少女の象兌の主たるは、女兒なり。

◎夫 運 爻辭に「歸妹以須。反歸以娣」とあるは、淫奔にして節操なく、正妻たることを得ずして、人の妾となりて終る不幸薄命の象なり。宜しく反省して身を慎しみ、運氣を轉ずる心掛け肝要なり。

◎妻 運 爻意爻象より見て、不貞無節操なる女を妻とし、不幸の象なり。

◎家庭運 此爻兌悅の主たるは、生來は家庭運不幸ならざる象なるも、不徳不貞にして凶なるは、徳を缺き志行亂れて家運を傾け、不幸に陥る象なり。宜しく身を慎しみて安泰を計るべし。

◎壽命、病氣 此爻陰柔不中正を以て毀折の象兌の主となり、凶惡の象あるは、體質虛弱の上に攝生養生を缺く爲に、短命に終り、病氣全快の望みなき象なり。宜しく身を慎しみて運氣の轉換を計るべし。

◎待人、走人、失物 此爻正妻たらんとする志を遂げず、凶の象あるは、待人來らず、走人判明せず、失物出でざる象なり。下兌は西、變乾は西北、その方角を尋ね見るべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 亦此爻正妻たらんとする志を遂げざる象なるは、旅立目的を遂げず、爭事不利を招き、就職調はず試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも進みて凶なること説明の要なし。

◎天 候 此爻陰柔を以て毀折の象折の主たるは、天氣不良の象なり。然し變卦大壯は、陽、陰を消去する象なれば後良好に向ふべし。

九 四 歸妹愆期。遲歸有時。

(爻辭讀方) 歸妹期を愆る。歸ぐこと遅るゝも時あり。

(象 義) ◎「愆期」九四上に應なきは、嫁せんとして好配を得ざるものにて、婚期に後るゝ義を云ふな

り。
 (意 義) 九四が剛を以て陰に居るは、賢にして躁進せぬ女子の象であるが、上に應爻なきは嫁せんとし
 て好配を得ざるものである。故に六五の婦となりて従ひて行き、良配を得て然る後に嫁することを待つもの
 であるが、その結果自然婚嫁の時期を失して、歸ぐことの遅るゝものである。故にこれを「歸妹愆期」と云
 つたのである。然し九四の婚期を過まるは、嫁することを欲せざるが爲てはなく、嘉遇に會する好機を待つ
 が爲である。故に婚期遅るゝことありとも、竟にその時節到來して、良配を得て歸嫁することを得るに到る
 ものである。即ちこれを「遲歸有時」と云つたのであつて、九四を慰諭した辭である。要するに此爻、賢
 にして時を待つものゝ、多少機を失し時遅るるの悔なきを免れざるも、終に時機熟して志を遂ぐるに至るこ
 とを説き示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛を以て柔に居り、賢女の象なるも、上に應爻の和するものなく、婦となりて婚期を過る象
 あるは、才力備はるも時運に會せず。且目上の援引なくして、これを發揮して功を遂ぐることはざる運勢
 であるが、「遲歸有時」とある如く、自重して時節を待たば、氣運到來して才力を現し、功を遂げ吉運を得
 る望みある象である。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「歸妹愆期」とある如く、爻意爻象より見て、周圍の事情故障の爲に時機を失し
 て、何れも功利を收め得ざる象なり。然し賢才あるものなれば、「遲歸有時」とある如く忍耐自重して時節を

待たば、機運再び到來して功利を遂げ得る象なり。

◎相 場 此爻剛を以て柔に居り、婚期遅るゝ象あるは、相場底意強きも伸びざる象なり。然し變卦地澤臨
 は陽長じて盛大に進む象なれば、先行も上るべし。

◎縁 談 此爻上に應爻の和なく、賢女の婚意を遂げずして婦となる象あるは、縁談故障ありて纏まらざる
 象なり。然し「遲歸有時」とあれば、氣長に時節を待たば良縁を得べし。

◎子 實 爻意爻象より見て、子供を得ること遅き象なるも、賢才ある兒女を得て末には幸福を得る象なり
 妊娠此爻陽剛にして長男の象震の主たるは、男兒なり。

◎夫 運 爻辭に「歸妹愆期、遲歸有時」とある如く、爻意爻象より見て、一身上の事情の爲に、婚期遅
 れて不運の象あるも、陰忍自重して時節を待たば、良縁を得て幸福を得る象なり。

◎妻 運 此爻剛を以て柔に居り、賢女の象なるは、賢妻を得る象なるも、爻意より見て縁遅き象あり。
 ◎家庭運 此爻上に應なく、賢女志を遂げずして婚期に遅るゝ象あるは、目上に縁薄く、初めは家庭上に故
 障辛勞を招く象あることを示すも、「遲歸有時」とある如く、末には氣運を得て幸福に至る象なり。

◎壽命、病氣 爻意爻象より見て、壽命上初めは健康障害を免れざるも、身を慎しみ、健康に注意せば、障
 害を排除して壽を保ち、病氣も氣長に養生せば、長引くも全快すべし。

◎待人、走人、失物 爻辭に「歸妹愆期、遲歸有時」とあるは、待人來るも故障ありて長引き、走人失物容
 易に判明せず。久しきを経て判明する象なり。上震は東、變坤は西南、その方角を尋ぬべし。

◎旅立 此爻時運を得ず、娣となりて時節を待ち、時到りて正妻たらんとする志を遂ぐるもの、今出づる時機に非ず。暫く時節を待ちて出づべし。

◎争事 此爻賢女娣となりて時節を待ち、時到りて正妻たらんとする志を遂ぐるもの、争ふは爻意に反して凶なり。忍耐して時を待たば、自然有利に解決すべし。

◎就職、試験 爻意爻象より見て、就職時運を得ずして直に調はざる象にて、忍耐自重時節を待たば成就の時機到来すべし、試験今回は不成績なるも、落膽せずして勉強せば、次回は好成绩を得る望みある象なり。

◎開業、轉業、移轉 亦爻意爻象より見て、何れも今進むべき時機に非ずして、時節を待ちて進むを吉とする象なり。

◎天候 此爻陽剛にして、變卦臨は陽の勢ひ盛大に進む象なれば、天氣良好の象なり。

六五 帝乙歸妹。其君之袂不如其娣之袂良。月幾望。吉。

(爻辭讀方) 帝乙妹を歸がしむ。其の君の袂は其の娣の袂の良きに如かず。月望に幾し。吉なり。

(象義) ◎「帝乙」殷の紂王の父なり。◎「其君」六五を指す。柔中にして尊位に居るは即ち皇女の象なり。◎「袂」下兌口を開き、上震は倒良の象にて臂のこれに屈伸する貌なるを以て袂の象となす。又震を袂の象となす。◎「月幾望」月は約象坎の象、互體離を日となす。坎の月、離日の光を受くること過半なるは、月望に幾き象なり。而して「幾望」とは満月に近き義なり。

(意義) 六五は歸妹の時に當り、柔を以て尊位に居り、下九二に應ずるは、即ち皇女降嫁の象である。

故にこれを帝乙がその妹を臣下に降嫁せしめた事蹟に喩へて「帝乙歸妹」と云つたのである。而して皇女の下りて諸侯に嫁することは古より例があるのであるが、帝乙に至りて婚姻の禮を正しくしたのであつて、その妹を嫁するに當り、徳を尙びて飾りを尙ばず、その衣服を質素にして、却て従つて行つた娣の衣服の方が華美である位であつたと云ふことを「其君之袂不如其娣之袂良」と云つたのであつて、袂とはこれを以て衣服全體の意を表したのであるが、此辭の意味は、帝乙がその妹を降嫁せしめた時に、徳を尙びて外面の美を飾らなかつたことを借りて、六二が尊位に在りて下位にある九二に應ずる、柔中の徳を讚美したのである。それ華美を好み、嫉妬の心を藏するは婦人の特性であるが、帝乙の妹が嫁して飾らず、その袂の娣に如かざるは、謙讓の美德を備へ、志下に及ぶもので、能く婦徳を全くするもので、恰も月が満月に近くして未だ盈滿に到らぬやうなもので、その吉なる所以である。故にこれを「月幾望」と云つたのであるが、これも亦、六五が柔中の徳を以て九二に下り應ずることの吉なることを現したのである。要するに此爻、六五の象を以て、謙讓質實の美德を説き示したのである。

(占斷)

◎運勢 此爻尊位に居り、柔中の徳を以て下九二に應じ、謙讓質實の美德を備へたる皇女の降嫁する象にして、「月幾望。吉」とあるは、富貴にして人の目上に立ち、謙讓質實の美德を備へて能く下に降り、他の信服を受けて吉祥幸福を得る運勢である。

- ◎願望、金談、賣買 爻辭に「月幾望吉」とある如く、爻意爻象より見て、徳備りて人の信望を受け、何れも順調に運びて功利を遂げ得る象なり。
- ◎相場 此爻尊位に居り、満月に近き象あるは、相場高く尙目先上る象あるも、柔中にして變じて毀折の卦兌爲澤となり、又満月に到れば次第に缺けるものなれば、先行き下落すべし。
- ◎縁談 爻辭に「月幾望吉」とある如く、爻意爻象より見て、良縁にして纏る象なり。
- ◎子實 此爻柔中にして、謙謹質實の美德を有するは、誠實順良の兒女を得る象にて、「月幾望吉」とある如く、子供運吉祥幸福の象なり。妊娠此爻陰柔にして、變體兌を少女となすは、女兒の象なり。
- ◎縁運 爻辭に「月幾望吉」とある如く、爻意爻象より見て、男女共に縁運吉祥幸福の象にて、特に柔中にして尊位に居り、婦道の美德を備ふるは、男子の賢良温順にして富貴の女を妻とする象なり。
- ◎家庭運 此爻尊位に居るは富貴の家に生るゝ象にて、柔中を得るは順徳あることを示し、「月幾望吉」とある如く、信望厚くして安泰幸福なる象なり。
- ◎壽命、病氣 亦爻辭に「月幾望吉」とある如く、爻意爻象より見て、健康長壽を得、病氣間もなく全快する象なり。
- ◎待人 此爻六五の尊位を以て、下九二に應ずる象なるは、待人來る象にて、「月幾望吉」とあるは、幸便を齎して悦びあることを示すものなり。
- ◎走人、失物 爻辭に「月幾望吉」とあるは、走人間もなく判明し、失物出でて悦びある象なり。上震は

東、變兌は西、その方角を尋ぬべし。

- ◎旅立 爻意爻象より見て、出て、吉なること説明の要なし。
- ◎争事 此爻柔中にして、謙讓の美德ある爲に、「月幾望吉」なるもの、争ふは爻意に反して凶にして、謙讓の態度を以て進まば、有利に解決すべし。
- ◎就職、試験 爻辭に「月幾望吉」とあるは、就職順調に調ひ、試験優秀の成績を得る象なり。
- ◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも進みて吉なり。
- ◎天候 此爻陰柔を以て中に居り、變卦兌を毀折の象となすは、天候不良となる象なり。

上 六 女承筐无實、士刲羊无血。无攸利。

(爻辭讀方) 女筐を承けて實無く、士羊を刲きて血無し。利しき攸無し。

(象 義) ◎「女」未婚の女を云ひ、六三を指す。陰を以て兌に體し、應爻の配なきを以てなり。◎「筐」竹製の籠にて形方なるもの、女の嫁するに當りて納幣を盛るものなり。震を竹となし、仰盆となすの象。◎「承」承は奉なり。上震は良手の倒さまとなれる象なるより云ふ◎「无實」五上兩爻陰虛の象。◎「士」未だ娶らざる男子を云ひ、上六を指す。上六陰爻なるに士と云ふは、上卦震を陽卦となし、長男となす故にして、未だ娶らずとなすは、六三と同陰應ぜざるを以てなり。◎「刲羊无血」刲は割くと同義にして互體雉を兵及となすより云ひ、羊は兌の象より取る、而して約象坎を血となし、兌の羊下に在りて坎の血その上

に在るは、血なきの象なり。

(意 義) 上六と六三は應爻ではあるが、同陰で相應和せざるものである。これ男女の相合ふて夫婦となること能はざるものである。故に此爻士女即ち未婚の男女の象を以て辭を係けたのであるが、これは丁度、男子が婚約して結納を納めないの、女子が虚の筥を奉げ、男子も亦女子が虚筥を奉げる爲に、結婚に當つて羊を割き酒食を具へて、以て郷黨僚友を招くの禮を盡すことが出来ぬやうなもので、即ち婚姻の成立せざる象である。即ちこれを「女承筥无實、士割羊无血」と云つたのであるが歸妹の諸爻は皆婦の象を以て辭を係けて居るのに、此爻だけが未婚の士女の象を以て辭を係けて居るのは、上六は嫡妻たる六五の外に在りてこれに従ひ仕ふる義がないからである。それ夫婦は後嗣を得て家を保ち、宗廟を承け、祖先の祭祀を奉ずるものであるのに、今婚姻の成立せざるは、祖先祭祀を奉ずる能はざるもので、その「无攸利」は當然のことである。要するに此爻、卦の終りに居る故に、歸妹の卦の凶を受け、全卦六爻の終始總括するもので、凡そ天下の事、情慾を恣にして進み、正しきを以てせざれば、その末困頓するに非ざれば、消磨して終りなきに至ることを説き示し、これを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻歸妹の終りに居り、六三と同陰相應せず、婚姻の成立を得ずして、利しき攸なきもの、即ち此爻を得たる時、時運を得ずして、諸事故障齟齬を招き、意の如くならざる象なれば、身を慎しみ安靜を守りて、氣運の變轉を待つ心掛けが肝要である。尙爻意及び變卦睽となるより見て、彼我實なくして物事調はさ

る象、訴訟事、婚姻不調、會者定離等の象があるから注意を要する。

◎願望、金談、賣買 此爻應爻六三と同陰相應せず、婚姻不成立の象にて、利しき攸なく、且變卦睽は物事相背く象なるは、何れも故障齟齬を招きて功利を遂げ得ざる象なり。

◎相 場 此爻陰を以て柔に居り、卦極に居りて進むべき所なきは、相場安く、先行尙下る象なり。

◎縁 談 爻意爻象より見て、凶縁にして纏らざること説明の要なし。

◎子 實 此爻下六三と相應せず、利しき攸なく、且變卦睽となるより見て、親子間和合せず、不幸辛勞を見る象なり。妊娠此爻陰を以て柔に居り、變體離を中女となすは、女兒の象なり。

◎縁 運 此爻婚姻不調の象にて、「无攸利」とあるは、男女共に薄縁不幸の象なり。

◎家庭運 爻辭に「无攸利」とあり、且變卦睽は彼我相背く象なれば、家庭不和を見、辛勞困苦を嘗むる象なり。

◎壽命、病氣 此爻陰を以て柔に居り、爻辭に「无攸利」とあるは、病弱短命にして、病氣全快の望みなき象なり。

◎待人、走人、失物 此爻六三と同陰相應せず、「无攸利」とあり、且變卦睽は諸事齟齬を見る象なれば、待人來らず、走人失物共に判明せざる象なり。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「无攸利」とあり、且變卦睽となるより見て、旅立凶、爭事不利、就職不調、試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「无攸利」とある如く、爻意爻象、且變卦睽より見て、何れも凶なり。
◎天 候 此爻陰を以て正に居り、變卦睽となるより見て、天氣不良の象なり。

☳ 雷火 豐 豐亨。王假之。勿憂。宜日中。

(卦辭讀方) 豐は亨る。王之れに假る。憂ふること勿れ。日中に宜し。

(象 義) ◎「豐」豐は盛大の義である。此卦離を下にし震を上にする。離は明で震は動である。即ち明かにして動くもので、明かにして動くときは、物事皆盛んにして大なるに至るもので、豐の義である。又震を雷とし離を電とする。それ電雷大空に相合ふ時は、その勢ひ盛大なるもので、亦豐の義である。又、離を日となし震を動となす。それ日動いて天下を照臨すれば、その光明盛大なること言を俟たぬ所て、豐の義である。又、離を明となし智となし、震を威となし勇となす。それ人に明智武勇兼ね備はれば、その盛大に至ることは云ふに及ばぬことで、亦豐の義である。即ち以上の諸義より、此卦を豐と名づけたのである。而して此卦を歸妹の次ぎに置いた譯は、序卦傳にも「得其所歸者必大。故受之以豐」とある如く、物事その歸省する所を知らば必ず豐大を致すものであるからである。

◎「王」六五君位の象。◎「假」至るの義なり。震を動となし又足となすの象より云ふ。◎「日中」太陽天に中するの義にて、離を日となし、震を動となす。日動きて上にあるは日中の象なり。

(意 義) 豐はその勢ひ盛大なる象であるが、盛大なるもの、亨は自然の理である。又此卦は明かにして動くもので、物事に臨んで疑ひ惑ひて躊躇することがないから、萬事遂げざることがないものである。故にこれを「豐亨」と云つたのであつて、此辭は卦全體の大義を述べたのである。而して王以下の辭は、豐の時に處すべき人事の教戒を示したもので、王とは、廣く王者を指したのであつて、王者はその位至尊にして富四海を有ち、その隆盛豐大なること、これを他に比すべきものがないものである。而して今既に豐の時に立到て居るものである。故に「假之」と云つたのであつて、之とは豐の時を指して云つたのである。然し天地陰陽の定理より觀れば、物は凡て長久に豐大なること能はざるもので、豐盛も極まる時は、必ず凶衰に至ることは自然の理である。故に豐盛の時に當つて、宜しく豫めこれを憂ひ慮かるべきであるが、然し徒にこれを憂へたとて更に益あるものではないから、宜しくその豐盛を保つのを求むべきであつて、それにはどうすれば良いかと云ふに、彼の太陽が天に申して下土を照臨するが如く、中正離明の道を以てこれに處すべきで、中正にして片寄る所なく、離明にして及ばざる所なければ、幽陰悉く照らし、魑魅潛に消して、その豐盛を保つことを得るものである。それ日天に申すれば傾き、王者盛んなれば必ず傾くものであるから、王者たるもの、中正離明の道を保つことは最も大切な所である。即ちこれを「勿憂。宜日中」と云つたのである。要するに此卦、卦象を以て豐盛の時を示し、盛んなるもの必ず衰ふべきは自然の理であるから、これを戒しめて、此時に處してこれを長久に保つべき道を説き教へたのである。

(占 斷)

◎運勢 卦象より見て、運氣の隆盛豊大を現すものであるが、盛んなるもの衰ふるは自然の理であるから此時に處しては、卦意に戒しむるが如く、油斷漫心を慎しみ、公明の徳を守りて盛運を保有する心掛けが肝要である。

◎願望、金談、賣買 此卦豊盛の象を現すは、何れも順調に進みて功利を遂げ得る象なるも、盛んなるもの衰ふるは自然の理なれば、調子に乗りて折角の幸運を破らざる心掛け肝要なり。

◎相場 此卦雷電相合ひ、盛大の象あるは、相場暴騰の象を示すも、盛んなるもの衰ふるは自然の理なれば天井となりて先行き下る象あれば警戒を要す。

◎縁談 卦意卦象に示すが如く、此卦氣運豊盛の象なれば、良縁にして纏るべし。然し油斷不謹慎を戒しむること大切なり。

◎子實 卦意卦象より見て、才力豊盛にして成功する男女を持ち、幸福の象なるも、兒女の油、漫心より折角の幸運を破る憂ひあれば注意を要す。姪姪此卦震の長男離の中女の上により、且「王假之」とあるは、男兒の象なり。

◎縁運、家庭運 亦卦意卦象より見て縁運吉祥にして、家庭運盛大幸福の象なるも、何れも調子に乗り、慢心に流れて折角の幸運を破る憂ひあれば、慎しみ肝要なり。

◎壽命、病氣 此卦氣運盛大の象なるは、健康長壽にして、病氣全快する象なり。然し卦意に戒しむる如く安心油斷して攝生養生を缺かざる注意肝要なり。又卦意より見て、熱病の象あり。

◎待人、走人、失物 此卦氣運盛大の象なるは、待人來り、走人失物判明する象なり。上卦震は東、下卦離は南、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 亦卦意卦象より見て、旅立吉、爭事有利、就職成就、試験好成績を得る象なり。然し卦意に戒しめある如く、何れも調子に乗り、慎しみを缺きて運氣を破らざる心掛け肝要なり。

◎開業、轉業、移轉 此卦氣運豊盛の象なるは、何れも進みて吉の象なり。

◎天候 此卦明かにして動く象なるは、晴天の象なるも、電雷相合ふ象あれば、雷雨急に至る憂ひあり。

初九 遇其配主。雖旬无咎。往有尙。

(爻辭讀方) 其の配主に遇ふ。旬しと雖も咎無し。往いて尙ばることあり。

(象義) ◎「配主」九四を指す。配とは對等の義にして、初九、九四共に同じく陽剛なるを云ひ、主とは九四震の主たるを云ふ。◎「遇」初と四と同剛相應じて助くるの象を云ふ。◎「旬」均等の義にて、初四共に同剛の象。◎「往」初四相應するの象。又震動の象。◎「有尙」初九剛正を以て應じ往きて、九四に尙ばるゝを云ふなり。

(意) 義、豊の卦は卦全體より見れば、明かにして動くもので、豊盛の義を以て辭を係けて居るが、これを爻に就きて見れば、内卦の離日の上に二陰があつて、その光明を覆ふ象があるから、その義を取つて辭を係けて居るもので、即ち明者陰蔽せられ、賢者昏暗を受くるの義を取つて説示してある。然るに、今初九は

暗に覆はるゝの時に遇ふものであるが、六五上六の二陰とは應比何れの位にも當らずして、係累なきものであるから、昏暗を受くるの義を説いて居らぬ。且初九と九四とは元來同剛にして常例としては相應じ難きものであるが、豊を致すの道は、明に非ざれば物を照すことが出来ず、動かざれば事を行ふことが出来ぬものであるから、明動相俟つて始めて全きを得るものである。今初九は離明の主であり、九四は震動の主であつて明動相助けて覆ひ暗まざるゝ難みを脱し、豊の用をなすものであるから、同徳相應するの異例となし、初九は九四を以てその配主となし、九四も亦初九の助けを得て覆暗を免かれて豊盛を得るべきを得るものである。故にこれを「遇其配主」と云つたのであつて、句とは初と四が同剛なることを云つたのである。斯くの如く初四兩爻が、明動相資けて豊の盛大を成すは、蓋し時勢の自ら然らしむる所であるから同剛相遇ふことは唯に咎なきのみならず、初九が往きて九四を助ければ、九四も亦必ず初九を尊崇するものである。故にこれを「往有尙」と云つたのである。要するに此爻、才力ありと雖、その人に遇はざれば則ち以てその用を致す能はざることを説き示し、才力を恃み事を同じくする人に慢ぶる時は、災厄に遇ふべきことを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻九四と同徳相應じて、昏暗を受くる咎を免れ、豊盛を致すもの、即ち此爻を得たる時、目上の志と同じくする人と協力して功を遂げ、運氣を開く象である。若し此爻意に反して、才を誇り分を越えて己れを制することを知らず、我意獨行に走る時は、災ひを招き運氣を破るに至るものであるから、慎しみが

肝要である。尙爻意より見て、目上に引立てられる象がある。

◎願望、金談、賣買 爻意爻象より見て、願望金談共に、目上の助力を求め、これに従ひて進まば成就すべく才力を恃みて妄進する時は成就せず。又賣買は有力なる人と協力して進まば、功利を擧げ得べきも、獨力を以て進む時は失敗不利に終るべし。

◎相 場 此爻剛正なるも最下に居るは、相場底意強きも伸び悩む象なり。然し九四と同剛相應じて豊盛を致すものなれば、先行き上るべし。

◎縁 談 九四との關係より見て、目上の有力者に依頼して運ばゞ成立すべし。而してよく覆暗の咎を免れて豊盛を致す象なるは、縁としては初め多少の故障あるも、後には吉を得る縁なり。

◎子 實 此爻剛正を得るは、才徳ある兒女を得る象にて、九四と同剛相應じて豊盛を致すは、能く親の意見に従ひてこれを助け、家運盛大を得て幸福の象なり。妊娠此爻剛正にして、變體良を少男となすは、男兒の象なり。

◎縁 運 此爻九四と同徳相應じて豊盛を致す象なるは、男女共に性格一致する連合ひに添ひて、幸福を得る象なり。

◎家庭運 此爻九四と同剛相應じ、覆暗の咎を免れて豊盛を致すは、身内に有力なる目上を持ち、相協力して家運を興し、幸福を得る象なり。

◎壽命、病氣 此爻剛正を得るは體質強健の象にて、覆暗の災ひを免れ、豊盛を得るは、長壽を保ち、病氣

全快を得る象なり。特に九四との關係より見て、良醫の力によりて病氣全快する象あり。

◎待人 此爻九四に同剛相應じ、「往有尙」とあるは、待人來る象なり。

◎走人、失物 爻辭に「遇其配主」とあり、又此爻覆暗の災ひを免れて豐盛を致す象なるは、走人判明し失物出づる象なり。下離は南、變良は東北、その方角を尋ぬべし。

◎旅立 爻辭に「往有尙」とあるは、出て、吉なる象なり。

◎爭事 此爻九四と同剛相應じ、覆暗の災ひを免れて豐盛を致す象あるは、才力ある人の協力を得て勝利を得悦びを見る象なり。

◎就職 爻辭に「遇其配主」とあるは、就職調ふ象にて、又「往有尙」とあるは、目上に重んぜらるゝ象なり。

◎試験 爻意爻象より見て、「往有尙」とある如く、好成绩を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「往有尙」とあるは、何れも進みて吉なる象なり。

◎天候 此爻陽を以て正に居り、覆暗の咎を免れて豐盛を致す象なるは、天氣良好となる象なり。

六 一 豐其部。日中見斗。往得疑疾。有孚發若吉。

(爻辭讀方) 其の部を豐にす。日中斗を見る。往くときは疑疾を得。孚有りて發若たらば吉なり。

(象義) ◎「部」光明を障蔽する物。震を浮雲となし、離日の上にある象より取る。◎「日中」六二離

日の中に居り、正を得る象。◎「斗」星のこと、約象兌を星となす。又震の象。◎「見」離を目となすより云ふ。◎「往」六二の六五に往くを云ふ。◎「疑疾」六五陰暗の象。◎「孚」六二離明に體し、中正なるの象。◎「發若」六二の誠信を盡して六五を感發することを云ふ。

(意義) 六二は離明の主て而も中正を得て居るが、六五は陰柔不正で暗陰なるものである。故に六二は六五に害應されて蔽ひ暗まざるゝものである。即ちこれを喩へて云へば、賢臣で暗愚なる君に退けられて用ゐられぬやうなものである。故に「豐其部」と云つたのである。それ太陽は光明なるものであるが、陰暗なるものがこれを蔽ひ暗ませば、その光明もこれを發輝することが出來ず、昏暗甚しくして夜陰の如くなり日中でありながら天上に星を見ることが出來るやうになるものである。これを「日中見斗」と云つたのであるが、これ亦六二が六五の爲に害應されて、蔽ひ暗まされることの甚しきを喩へて云つたのである。斯くの如き時に當つて、六二が進み往きて六五に應を求めても、その志を遂げることが出來ぬ許りてなく、却てその害應を受けるに至るもので、これ恰も賢臣がその忠貞の節を抽んで、君に盡さうとしても、暗愚なる君がこれを疑ひ疾んで用ゐることがなく、却て災ひを招くに至るが如きものである。即ちこれを「往得疑疾」と云つたのである。然らば斯くの如き時に處して六二は如何にすれば良いかと云ふに、その中正の徳を守りて六五の陰暗を開發すること、恰も賢臣が誠心誠意を盡して、君心の暗昧なるものを感發せしめて正道に向はしむるが如くにするより外はないのであつて、斯くの如くにせば、疑疾の凶を免れて吉を得るに至るものである。即ちこれを「有孚發若吉」と云つたのである。要するに此爻、障蔽昏暗の時を開發して、豐盛を得

るの道を説き示したのであるが、これを人事に取れば、賢臣の暗君を感發せしめて正道に向はしむるが如きもので、その道たるや誠心誠意を盡してこれを俟つにあるものである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻中正にして離明に體するは、才徳を備ふる象なるも、六五の爲に害應されて、往きて疑疾を得る象なるは、上に立つ者暗愚にしてその才徳を認められず、却て疑惑憎惡を受けて災禍を招く憂ひある象である。宜しく斯くの如き時に當つては、「有孚發若吉」とある如く、誠心誠意を盡して時運の開通を待つべきである。然らば上に立つ者、自然に己れの不明を悟るに至り、才徳用ゐられて運氣の發展吉祥を得るに至るものである。

◎願望、金談、賣買 此爻六五に害應せられて、「日中見斗」の象あるは、故障、妨害者ありて時運を得ず、何れも功利を遂げ得ざる象なり。宜しく「有孚發若吉」とある如く自重謹慎し、誠意を盡して時節を待つべし。然らば成功利益を納め得る時節到來すべし。

◎相 場 陰を以て柔に居り、昏暗の象あるは、相場不勢の象なり。然し變卦雷天大壯たいさうとなれば、勢ひ盛大の象なれば、先行きは上るべし。

◎縁 談 此爻六五に害應障蔽されて、「往得疑疾」の象あるは、目上の反對妨害ありて纏らざる象なり。「有孚發若吉」とあれば、自重して時節を待たば良縁到るべし。

◎子 實 此爻中正を得るは、誠實なる兒女を得る象なるも、陰を以て柔に居るは體質性格弱き憂ひあるこ

とを示す。而して六五の害應に遇ふ象あるは、親たる者、子供の性格意見を理解せざる爲に不和を生じ、不幸を見る象あれば注意を要す。妊娠此爻柔正にして、中女の象離の主たるは、女兒なり。

◎縁 運 此爻柔順中正にして離の主たるは、男子は温順貞節なる美女を妻とし、女子は明智にして行ひ正しき夫に添ふ象なるも、稍意力を缺く象あることを示す。而して六五に害應されて疑疾を得る象あるは、目上の人との間に障害ありて、夫婦間に辛勞を見る象なれば、「有孚發若吉」とある如く、誠心誠意を以てその理解を得るやう心掛くること肝要なり。

◎家庭運 此爻六五に害應障蔽さるゝ象あるは、家庭上目上の者と意見合はずして、故障辛勞ある象なり。「有孚發若吉」とあれば、誠意を盡して理解和合を計らば、本來中正を得たれば、幸福を得るに至るべし。

◎壽命、病氣 此爻陰を以て柔に居るは、體質弱き象にて、六五に害應されて昏暗の象あるは、健康上故障多く、病氣危険を見る象なるも、「有孚發若吉」とあれば、身を慎しみて攝生養生を守らば、壽を保ち、病氣全快する望みあり。

◎待 人 此爻應爻六五と害應の象あるは、待人來らざる象なり。

◎走人、失物 此爻昏暗の象にて、「日中見斗」とあるは、何れも容易に判明せざる象なるも、「有孚發若吉」とあれば、根氣よく探さば判明するに至るべし。下離は南、變乾は西北、その方角を尋ねべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「往得疑疾」とあるは、旅立出て故障災難を招き、爭事進みて不利を見、就職望みなく、試験不成績の象なり。宜しく「有孚發若吉」とある如く、自重して時運の至るを待つべ

し。
◎開業、轉業、移轉 爻辭に「往得疑疾」とあるは、何れも進みて凶の象なり。「有孚發若吉」とある如く、自重して時節を待つべし。

◎天 候 此爻陰を以て柔に居り、「日中見斗」とあるは、天候險惡の象なり。

九 三 豐其沛。日中見沫。折其右肱。无咎。

(爻辭讀方) 其の沛を豐にす。日中沫を見る。其の右肱を折る。咎無し。

(象 義) ◎「沛」沛、古本施に作る。幡幔の類、乃ち厚き日除なり。震の象。◎「沫」星の小なるものを云ふ。約象兌の象。◎「右肱」右は九三陽剛の象。肱は九三變じて互體艮となれば肱の象となすより取る。◎「折」約象兌を毀折となすより取る。

(意 義) 沛は幔幕の類で、その光明を蔽ひ暗ますと、六二の菀よりも一層甚しいもので、離日の光明を蔽ひて昏暗ならしむること更に大なるものである。今九三は離明の極に位し、昏暗の魁首たる上六の害應する所となり、その蔽ひ暗ますることの甚しいものである。故に夜の空にのみ現はる、微小なる星も、これを日中に於いて見ることが出来るやうになる如きものである。故にこれを「豐其沛。日中見沫」と云つたのである。斯くの如く、九三は上六の爲に障蔽されること甚しきが故に、剛明の才あるもこれを用ゐることが出来ぬものであつて、これを人に喩へて云へば、人が常に使用する所の大事な右の肱を折つてしまつて、

その功用を爲さしめぬ様なものである。故にこれを「折其右肱」と云つたのであるが、九三をして斯くの如き状態に陥らしめたのは、九三自らの招きたる所てなく、上六が然らしめたのであるから、従つて九三の罪ではなく、咎なき所以である。故にこれを「无咎」と云つたのである。要するに此爻、豐の時に當り、障蔽せらるゝことの最も甚しきものを示したのである。人に就いてこれを見れば、剛明の才あるも邪惡なる者に障害掩蔽されて、その才を用ゐること能はざるものであつて、その罪人にあつて、己れ自らの致す所に非ざるものである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻昏暗の主たる上六の爲に障蔽されて、その剛明の才を施す能はず、日中沫を見、右肱を折るもの、即ち此爻を得たる時、才力を備ふるも、邪惡なる者に妨げられてこれを用ゐること能はず、氣運の閉塞阻滯を見る象である。然し「无咎」とある如く、此氣運たるや、己れの不肖過失より招きたるものに非ざれば、自重してこれに善處すれば、氣運解通して功を遂ぐるに至る時節の到來するものである。尙「折其右肱」とあれば、身體負傷の災ひを招く憂ひあれば注意を要する。

◎願望、金談、賈買 此爻上六に障蔽せられて、日中斗を見、其の右肱を折る象あるは、妨害者ありて何れも功利を遂げ得ざる象なり。宜しく自重して時節を待つべし。

◎相場 此爻剛正を以て離の極に居るは、相場高き象なるも、上六に暗まされて、日中斗を見、右肱を折る象あるは、突發材料の爲に挫折する象なり。然し變卦震爲雷となるより見て、先行き再び上るべし。

◎縁談 爻辭に「无咎」とあれば、縁としては凶縁に非ざるも、「豊其沛」。日中見斗。折其右肱」とある如く、爻意爻象より見て、他の妨害の爲に纏らざる象なり。

◎子實 此爻剛正にして離明の極に居るは、才力剛敏なる兒女を得る象なるも、上六これを掩蔽して昏暗ならしめ、その剛明の才を施すこと能はざらしむる象あるは、親たる者の子供を理解せずして、その能力を發揮し得ざらしむる爲に、成功發展を遂げ得ざる象あることを示せば、注意特に肝要なり。又「折其右肱」とあるは、頼りとせる兒女を失ふ憂ひある象なり。姪姪此爻剛正にして、變體震を長男となすは、男兒なり。

◎夫運 此爻剛正にして離明の極にあるは、才力明敏の夫に添ふ象あるも、上六これを障蔽してその才力を發揮し得ざらしむる象あるは、自己の不明不貞の爲に、夫の成功を妨ぐる象なれば、慎しみ特に肝要なり。

◎妻運 此爻昏暗の主上六に掩蔽されて、剛明の才を施す能はざるは、陰邪不貞の妻を持ちて成功を妨げられ、不幸を招く象なれば、求縁上特に注意肝要なり。

◎家庭運 此爻剛正にして離明の極に居るは、明敏の才力を備へて家運を興隆せしめんとする志ある者なるも、上六に障蔽されて、昏暗その右肱を折る象あるは、目上の暗愚頑迷なる者に妨げられてその志を遂げざる象である。宜しく時運を悟りて自重時を待つべきである。

◎壽命、病氣 爻辭に「豊其沛」。日中見斗。折其右肱」とある如く、爻意爻象より見て、壽命上故障病難を招き、病氣危険の状態に陥る象なるも、剛正を得るは體質強健の象なれば、攝生養生よくば、「无咎」とある如く、よくこの故障危険を脱して壽を保ち、病氣全快を得べし。

◎待人 此爻上六に暗まされて昏暗に陥り、豊盛の氣運を得ざるは、待人妨げありて來らざる象なり。

◎走人、失物 爻辭に「豊其沛」。日中見斗。折其右肱」とある如く、上六に掩蔽されて昏暗に陥り、その働きを爲す能はざる象なるは、走人悪人の爲に抑留掩閉され、失物何かの中に紛れ込みて、容易に判明せざる象なり。然し「无咎」とあれば遂に出づべし。下離は南、變震は東その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「日中見斗。折其右肱」とある如く、爻意爻象より見て、旅立出て、故障災難に遭ひ、爭事破れて痛手を負ふ象なれば、何れも中止すべし、就職妨害ありて成就せず、試験故障に遭遇し、實力を發揮し得ずして不成績を招く象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも進みて故障妨害に遭遇し、不利を招く象なれば、自重して時節を待つを吉とす。

◎天候 此爻陽を以て正に居り、離明に體するは、今天氣良き象なるも、上六の昏暗に障蔽されて、日中沫を見る象あるは、天候險惡となる象なり。

九 四 豊其部。日中見斗。遇其夷主吉。

(爻辭讀方) 其の部を豊にす。日中斗を見る。其の夷主に遇は吉なり。

(象義) ◎「部」震の象。◎「日中」離の象。◎「斗」星のこと、約象兌の象。◎「夷主」夷は等と同じく、ひとしき義なり。即ち夷主とは同剛の應爻初九を指す。◎「遇」初四同剛相應するを云ふ。

(意 義) 九四は陽剛の才を以て震動の主となり、近君の位に居るものであるが、その六五の君が陰暗不正で、却てこれに害比し、その覆ひ暗まざるゝこと、六二と同様なるものである。故にその係辭も亦六二と同じく、「豊其蔀。日中見斗」と云つたのである。而して九四と初九とは共に同じく陽剛であるから、常例としては相應和せざるものであるが、今二陰上にありて離明を覆ひ暗まさんとする時に當つて、九四は外卦震動の主で進み行ふ力あるものであり、初九は剛正を以て内卦離に體し、剛明の才あるものである。故に兩者は、同徳相應じ相助け、六五上六の二陰が、陰暗邪惡を以て天下を蔽ひ暗まさんとするのを退けて、その難を脱すべきものである。故にこれを「遇其夷主吉」と云つたのであつて、初四兩爻が同徳相應することの吉なることを説いたのである。要するに此爻、初四兩爻が、剛明の才と震動の力とを以て、同徳相應じて覆暗の難を脱し、豊盛の道を致し得べきことを説いたものであつて、人事に就いて見れば、賢臣相協力して暗柔の君を正し、以て天下の難を救ふに當るものである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻六五に害比されて、「日中見斗」象あるは、目上の暗愚なるものに掩蔽妨害されて、諸事意の如くならず、氣運停滞の象であるが、「遇其夷主吉」とある如く、目下の剛明なるものと協力して進まばよく目上の非を正して障害を排除し、吉運を得て諸事順調に運び、志を遂げ得るものである。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「豊其蔀。日中見斗」とあるは、故障妨害ありて何れも順調に運ばざる象なるも、「遇其夷主吉」とある如く、目下の剛明なるものゝ力を借り、協力して進まば能く故障妨害を排除して

功利を遂げ得るに至るべし。

◎相場 此爻陽剛を以て震動の主たるは、相場強き象なるも、本來陰位にして、變卦地火明夷は、離火坤暗に覆はれて勢ひを奮ふ能はざる象なれば、先行き下るべし。

◎縁 談 爻意爻象より見て、目上の障害に遇ひて停滞する象あるも、「遇其夷主吉」とある如く、目下の才力ある者の力を借りて選ばば、障害を排して成立を見るべし。縁として初め故障を免れざるも、末は吉なる縁なり。

◎子 寶 亦爻意爻象より見て、初めは子供に就きて故障辛勞ある象なるも、末にはこれを排除することを得て幸福を得べし。又初九の剛明なるものゝ助けを得て吉を得るは、才力ある男女の爲に苦勞を免れて悦びを見る象なり。妊娠此爻陽剛を以て長男の象震の主たるは、男兒なり。

◎縁 運 此爻初九と同徳相應じて吉を得るは、性格趣味相一致せる連合ひを得て、男女共に縁運吉なる象なるも、六五暗柔の主に暗まされて「日中見斗」象あるは、身内の目上の者に、暗昧頑迷なるものありて、その爲に初めには苦勞を免れざる象あり。

◎家庭運 此爻豊の時に當り、陽剛を以て君側の位に居るは、富貴の家に生るゝ象なるも、六五に覆暗さる象あるは、身内の目上の者に理解なき暗昧頑迷なる者ありて、その爲に苦勞を見る象なり。然し初九の剛明と同徳相應じて吉を得るものなれば、目下に剛氣明敏にして、心合ふものありて相協力して苦勞を脱し、幸福を得るに至る象なり。

◎壽 命 爻意爻象より見て、初めには健康上故障を免れざるも、よくこれを脱して健康長壽を得るに至る象なり。

◎病 氣 爻辭に「遇其夷主吉」とあるは良醫を求めて治療せば全快を得る象なり。

◎待 人 此爻初九と相應じて吉を得る象なるは、待人來る象なり。

◎走人、失物 爻辭に「豊其蔀。日中見斗」とあるは、何れも判明すること長引く象なるも、「遇其夷主吉」とあれば、終に判明すべし。上震は東、變坤は西南、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事 亦爻辭に「豊其蔀。日中見斗」とあるは、旅立故障を免れず。爭事困苦を招く象なるも、「遇其夷主吉」とあるより見て、旅立出先にて援助者を得て故障を脱し、目的を遂げて悦びを見る象にて爭事剛明なる協力者、良辯護士を求めて進まば、遂に有利に解決すべし。

◎就職、試験 爻辭に「豊其蔀。日中見斗」とある如く、此爻六五に暗まされて豊盛を得ざる象なるは、障害ありて就職意の如く運ばず、試験不成績を見る象なるも、「遇其夷主吉」とあれば、適當なる人を求めて依頼せば就職遂に成り、良師を求めて勉強せば、好成績を挙げ得るに至る象なり。

◎開業、轉業、移轉 此爻六五に暗まされて豊盛を得ざるものなれば、何れも今急に進むは時運を得ずして凶なり。宜しく時節を待ちて進むべし。

◎天 候 爻辭に「日中見斗」とあり、又變卦明夷は離日坤暗に覆はるゝ象なれば、天候不良の象なり。

六五 來章、有慶譽吉。

(爻辭讀方) 章を來さば、慶譽有りて吉なり。

(象 義) ◎「章」文明章美の義、六二を指す。中正を以て離明の主たれば、その象を取つて文明章美の賢臣となすなり。◎「慶譽」福慶聲譽の義、變兌を悦となし、震を聲となす。慶譽の象なり。

(意 義) 豊の卦は全體から見れば、上六、六五の二陰邪が、天下の賢者を陰蔽する義を以て説いて居るが、今六五に就いて見れば、六五は柔中の徳を備へて居る君であるが、陰弱微力の嫌ひがあり、重陰不中にして卦極に居る昏暗の魁首の爲に、昏迷せられて身位の安寧を失ふ憂ひがあるから、六五の君に對して、その身位を安泰ならしむるの道を訓諭して辭を係けたのであつて、即ち中正にして離明の主となり、文明章美の賢臣たる六二を迎へ、謙虛の心を以てこれに下り、禮を厚くしてこれを用るれば、その助けを得て、賢に身位の安泰を得るのみならず、猶餘慶ありて後世迄の聲譽を得て吉なる所以である。即ち「來章、有慶譽吉」と云つたのである。要するに此爻、昏暗を去りて豊盛を致すの道を説いたのであるが、これを人事に見れば、君主の賢臣を用ゐてその助けを得て身位の安泰を保ち、慶譽を受くるの道を致すべきことを説き示せるものであるが、唯に君主たる者のみならず、人上に立つもの、取つて以て範とすべき所である。

(占 斷)

◎運 勢 此爻柔中の徳を以て君位にあるは、富貴にして人の上に立ち、有徳なる象なるも、陰柔なるは稍

力に於いて缺くる所ある憂ひを示すものである。故に「來章、有慶譽吉」とある如く、目下の賢明中正なるものを用ゐて、その助けを求むれば、聲譽益舉り、慶福吉祥を得るに至るものである。

◎願望、金談、實買 此爻陰柔なるは、實行力に於いて缺くる嫌ひあることを示す。宜しく六二の助けを得て慶譽を得るが如く、賢明なる人の助力を求めて進むべし。然らば何れも順調に運びて功利を遂げ得べし。

◎相場 此爻尊位に居るは、今相場高き象なるも、陰柔にして微力の象なるは下る象なり、而して變卦革となるより見て、先行き變動波瀾あるべし。

◎縁談 爻辭に「來章、有慶譽吉」とあるは、良縁にして、媒介者宜しきを得ば纏まる象なり。

◎子實 此爻文明章美なる六二の助けを得て、「有慶譽吉」なる象あるは、賢明誠實なる兒女を得て安泰幸福を得る象なり。妊娠此爻柔中を得、變體兌を少女の象となすは、女兒なり。

◎縁運 爻辭に「來章、有慶譽吉」とある如く、男女共に良縁を得て、安泰幸福の象なり。

◎家庭運 此爻柔中を以て尊位に居るは、富貴の家に生れて有徳の象なるも、陰柔なるは家を保つ上に稍力を缺く傾きあることを示せば、六二の助けを求めて慶譽ある如く、賢明誠實の人を求め、その力を借りて有家の策を講ずべし。然らば家運益榮えて安泰幸福を得るに至るべし。

◎壽命、病氣 此爻陰柔なるは體質稍弱き象あるも、「來章、有慶譽吉」とあるより見て、攝生を守らば健康長壽を得、良醫を求めて治療せば病氣全快すべし。

◎待人、走人、失物 爻意爻象より見て、待人來り、走人失物判明すべし。上震は東、變兌西、その方角を尋

ぬべし。

◎旅立、争事 此爻六二に應を求め行きて、「有慶譽吉」なる象あるは、旅立出て吉にして、争事賢明なる人を求めて委任せば、勝利を得て悦びある象なり。

◎就職、試験 爻辭に「來章、有慶譽吉」とある如く、爻意爻象より見て、就職調ひ、試験好成绩を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 亦爻意爻象より見て、何れも進みて吉なり。

◎天候 此爻變じて革となるは、天候變化する象なり。

上六 豐其屋、蔀其家。闢其戸、問其无人。三歲不覿。凶。

(爻辭讀方) 其の屋を豊にし、其の家に蔀す。其の戸を開へば問はば其の人無し。三歲不覿。凶なり。

(象義) ◎「屋」豐の卦全坎の象のり。坎を宮となす。上六その上にあるは屋の象なり。◎「家」震を竹木となすの象より取る。◎「戸」約象兌を口となすの象、戸は家の口なればなり。◎「開」覿に同じ。

上爻變すれば上卦離となりて目の象あり。而して上首三に應ずるは頭傾く象なり。乃ち闢ふの象なり。◎「問」靜寂の意なり。上震を聲となし、上六遠くに在りてその聲音達せざるの象より取る。◎「人」約象兌の象。

◎「覿」見るに同じ。變離を目となすの象。
(意義) 上六は重陰を以て豐の極に居るもので、その居る所高きが故に、豐大自ら亢ぶつてその屋を高

大にし、その家に蒞して尊大自ら障蔽するものである。故にこれを「豐其屋、蔀其家」と云つたのである。而して豐の卦は、陰暗を以て離明を覆ひ暗ますの義を説いて居るものであるが、その明を覆ふものは上六と六五との二陰であつて、特に上六を以て首魁となし、暗ますことの甚しきものとする。それ人の賢明なるものを覆ひ暗ますものは、元來己れ自身が昏暗なるに由るもので、即ち情慾を以て己れの明德を蔽ひ暗まし、然る後にこれを人に及ぼすものである。今上六は豐の極に居るが爲に亢然として自ら高ぶり、情慾私曲を恣にし、震動の極に居る爲に動極りて疲れ、却て靜寂に至るもので、これを人に喩へて見れば、驕傲自ら恣にし、尊大人を退け、情慾私曲を逞しくして、人のこれを訪ひ來るものなく、交りを絶ちて獨居する如きもので、人の室内を窺ふも寂然として聲を開くことなき様な状態である。故にこれを「聞其戸、聞其无人」と云つたのである。それ上六にして斯くの如くなれば、三歳の久しきに至るとも、これに親しみて助くる者なく、その凶なること云ふ迄もない所である。故にこれを「三歲不覿凶」と云つたのであつて、三歳とは三年の意である。要するに此爻、豐を覆ひ暗ますことの極なることを示したのであるが、これを人に就きて見れば、驕亢を恣にし、情慾私曲を逞しくして、己れの明德を暗まし、人を暗ますもの、凶惡を招くに至るべきことを説き示して、これを戒しめたものである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻豐の極に居るは、今運氣盛んなる象なるも、驕亢にして情慾私曲を恣にし、「三歲不覿凶」の象あるは、盛運に驕りて尊大に流れ、情慾に走りて私曲を逞しくし、人の親愛を失ひて孤獨に陥り、運氣傾

きて艱苦凶災に陥る象であるから、身を慎しみて謙讓の徳を守り、一身の安泰を計る心掛けが肝要である。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「三歲不覿凶」とある如く、爻意爻象より見て、自己の心掛け悪しき爲に、他の親しみを得ず、且信用を失ひて、何れも功利を遂げ得ざる象なり。

◎相 場 此爻豐の極に居るは、相場現在高き象なるも、これ以上進むべき所なく、重陰にして氣運傾く象あるは、先行き下落する象なり。

◎縁 談 爻辭に「三歲不覿凶」とある如く、爻意爻象より見て、凶縁にして纏らざること説明の要なし。

◎子 實 此爻豐の極に居り、驕亢を恣にし、情慾私曲を逞しくして凶なるもの、言行慎しみを缺き、親に對しても、他人に對しても驕慢不遜にして凶惡孤立の境遇に陥る兒女を持ちて不幸の象なり。妊娠此爻重陰にして變體離を中女となすは、女兒の象なり。

◎縁 運 爻辭に「三歲不覿凶」とある如く、爻意爻象より見て、男女共に孤獨薄縁にして不幸の象なり。

◎家庭運 此爻豐の極に居るは、富貴盛大なる家に生るゝ象なるも、爻意爻象より見て、盛運に驕りて驕慢不遜に流れ、情慾に耽りて素行を亂し、身を破り家を亡して、薄命孤獨に陥る象なれば嚴戒を要す。

◎壽命、病氣 此爻陰を以て柔に居るは體質虛弱の象にて、「三歲不覿凶」とある如く、短命に終り、病氣絶望の象なり。

◎待人、走人、失物 爻辭に「三歲不覿凶」とあるは、待人來らず、走人永久に不明なるか、身上に危険あり、失物出てざる象なり。

◎旅立、争事、就職、試験、亦爻辭に「三歲不覿凶」とある如く、爻意爻象より見て、旅立凶、争事敗北就職絶望、試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉、爻意より見て、何れも進みて凶なること明かにして、説明の要なし。

◎天候、此爻陰を以て正に居り、自他共に覆ひ暗ますもの、天候險惡の象なり。

☲ 火 山 旅 旅小亨。旅貞吉。

(卦辭讀方) 旅は小しく亨る。旅貞ならば吉なり。

(象 義) ◎「旅」旅は旅行の意である。此卦艮を下にし離を上にする。艮は山で離は火で、即ち火の山を焚く象であるが、火の山を焼くや、山は止りて動かず、火はそれよりそれへと移り行くもので、これを喩ふれば山は客舎で火は旅客の如きものである。これ旅の象である。又卦徳を以て云へば、艮は止て離は明である。即ち旅人日暮るれば驛舎に止り、朝には明を見て行くもので、旅の義である。又生卦法より見れば、もと此卦は遯の來往より生じたるもので、遯の卦中へ、一陰が下卦の外より進み來りて、外卦の五の位に客となつた象で、遯れ去る時なる遯の卦へ、六五の一陰が他郷より逃れ來りて外卦に入り、旅の卦となつたのは、即ち旅客が他より來りて宿つた象で、旅の義である。以上の象義より此卦を旅と名づけたのである。而して此卦を豐の次へ置いた譯は、序卦傳に「窮大者必失其居。故受之以旅」とある如く、凡そ人でも物

でも大を窮むればその居を失ふに至るものであるからである。

(意 義) 凡そ旅にある人は、南船北馬、その國を去り、その家を離れ、東西に奔走し、山川に寢處し、風雨に悩み、險阻を履み、身を人に托して常に安居し得ざるものである。故に旅の時、旅の人を指して大に亨るとは云ひ難いから、即ちこれを「旅小亨」と云つたのである。而して旅に處するの道は、柔中和順の心掛けを主とし、他の剛者に麗き従ふことを以て貴しとするものであり、又他郷にありては、親戚故舊の頼るべきものがないから、自ら守るに貞正の道を以てして、始めて吉なることを得るものである。故にこれを「旅貞吉」と云つて戒しめたのであるが、此辭は六五柔中の徳を以て係けたのである。而して此卦辭に於いて上の旅の字は卦の象義を主として説いたものであり、下の旅の字は旅人に就いて教へ戒しめたものである。要するに此卦、旅の道を説きて教へ戒しめたのであるが、人生も亦これ旅である。宜しく此卦の教戒を以て人生を渡るの訓戒となすべきである。

(占 斷)

◎運 勢 旅の象を現すは、氣運安定を缺き、身上動搖の象ありて、物事意の如く運ばざる時であり、旅立火難、住所の變動、孤立等の象があるから、意志を強固に持ち、篤實の心掛けを守る事が肝要である。然らば旅の氣運を轉換して安定を得、「旅小亨」とある如く、大事は遂げ難きも小事に功を遂げ得るものである。◎願望、金談、賣買 爻辭は「旅小亨」とある如く、大望、大金、大賣買は功利を遂げ難きも小望、小金、小賣買は功利を遂げ得べし。宜しく「旅貞吉」とある如く、分外に走らず、妄進を慎しむ心掛け大切なり。

◎相場 此卦火山を焚く象なるは相場強。ことを示すも、又旅の象なれば安定せざる象なり。

◎縁談 此卦安處せざる旅の象なるは、縁談確定せずして長引く象なり。「旅貞吉」とあれば篤實を守つて時節を待つを吉とす。然らば良縁を得る望みあり。

◎子實 卦意卦象より見て、旅中にある如く、兒女に就きて辛勞多く、安定を得ざる象なり。妊娠此卦離の中女、艮の少男の上にあるは、女兒なり。

◎縁運、家庭運 此卦安處を得ざる旅の象なるは、男女共に縁運安定せず、孤獨不幸の象にて、家庭運亦孤獨にして辛勞故障多き象なり。宜しく「旅貞吉」とある如く、篤實を守り身を慎しみて、運氣の安定幸福を計る心掛肝要なり。

◎壽命、病氣 卦意卦象より見て、健康上故障多くして長壽を保ち難く、病氣症狀定らずして長引く象なり。宜しく「旅貞吉」とある如く、攝生養生を嚴守して壽を保ち、病氣の快復するやう努力すべし。

◎待人、走人、失物 卦意卦象より見て、待人來ること長引き、走人轉々して居所定らず、容易に判明し難く失物外に出て、人手に渡りて返らざる象なり。

◎旅立 卦辭に「旅貞吉」とある如く、周到の用意を以て出て、慎しみを忘れざれば出て宜し。

◎爭事 此卦旅の象なるは、爭事長く決定を見ず、故障辛勞多き象なり。「旅貞吉」とある如く、慎しみを守りて争はざる方有利なり。

◎就職、試験 卦意卦象より見て、旅の如く、就職長引きて決定せず。試験成績一定せずして不良の象なり。

◎開業、轉業、移轉 卦辭に「旅貞吉」とある如く、何れも進まざるを吉とす。

◎天候 此卦安定せざる旅の象なるは、天候定らざる象なり。

初六 旅瑣々。斯。其所取災。

(爻辭讀方) 旅瑣々たり。斯し。其の災を取る所なり。

(象義) ◎「瑣々」細小の形容にて卑劣の義あり。艮を小石となし、少男となすの象。◎「斯」賤劣の義なり。初六陰柔不中正の象。◎「災」此爻變すれば下卦離となり、上下火を重ね災ひある所以なり。

(意義) 此爻陰柔不中正を以て最下に居るは、その身、その志行共に卑賤下劣にして、器量淺狭なるもので、即ち旅に出て、財利得失の毫末を計り、見る所淺小にして、志行共に卑劣賤陋なるものである。故にこれを「旅瑣々。斯」と云つたのである。それ人の旅途にある時は、身を真正に持し、人に對して和順の心掛けを守ることが主とすべきであるのに、初六が斯くの如く卑劣賤陋にして、自己の利にのみ走るならば必ず侮辱を受け、災害を招くに到るは言を俟たぬ所である。故に「其所取災」と云つたのである。要するに此爻、初六の陰柔不中正なることを卑しむ退け、以て旅に於ける戒しめを示したのである。

(占斷)

◎運勢 此爻陰柔不中正にして最下に居り「旅瑣々。斯。其所取災」とあるは、志行賤劣にして自己の利益のみを計り、他の侮辱を受けて、災害を招くに至る象である。宜しく志行を改め、身を慎しむ心を正し

く持ちて、氣運の改善を計るべきである。

◎願望、金談、賣買 爻意爻象より見て、志行卑しく私利にのみ走りて他の信用なき爲に、願望金談成就の望みなく、賣買失敗損失を招く象なり。

◎相場 此爻陰柔を以て最下に居るは、相場安き象なり。然し變卦離となるより見て、先行きは上るべし。

◎縁談 爻意爻象より見て、凶縁にして纏らざること説明の要なし。

◎子實 此爻陰柔不中正にして最下に居り「旅瑣々。斯」とあるは、才徳なく賤劣なる兒女を持つ象にて「其所取災」とある如く、辛勞不幸を見る象なり。妊娠此爻陰柔にして變離を中女と爲すは、女兒の象なり。

◎縁運、家庭運 爻意爻象より見て、男女共に縁運悪しく、不幸災害を見る象にして、家庭運亦凶惡にして卑賤の家に生れ、才徳乏しくして不幸に終る象なり。

◎壽命、病氣 亦爻意爻象より見て、病弱短命にして、病氣全快の望みなき象なり。

◎待人、走人、失物 亦爻意爻象より見て、待人來らず。走人の身上危険なるか、判明し難く、失物出てざる象なり。下良は東北、變離は南、その方角を尋ね見るべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「旅瑣々。斯。其所取災」とある如く、爻意爻象より見て、旅立凶、爭事不利、就職絶望、試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻辭に「其所取災」とあるは、何れも進みて凶の象なり。

◎天候 此爻陰柔不中正を以て、停滞の象良の最下に在るは、天候不良の象なり。

六一 旅即次。懷其資、得童僕貞。

(◎註讀方) 旅次に即く。其の資を懷き、童僕の貞を待たり。

(象 義) ◎「次」宿舎のこと、良を止るとなすの象。◎「即」到着する義、良止の象。又六二中正を得るも即次の象なり。◎「資」財貨の義、茲にては旅費のことなり。六二變すれば變卦巽となり、巽を市貨となし、利三倍の象あるより取る。◎「懷」所有する義、離の象。又良の象。◎「童僕」良を少男となすの象。◎「貞」六二柔順中正の象。

(意 義) 六二が柔順中正を以て旅の時に處るは、旅の道全きを得たるもので、恰も旅行をして安息を得る宿舎を得、懷中も豊かて、然も童僕の貞正なるが如く、資財があつても驕奢に流れぬ爲に、災害を招くことなく、旅程平安を得るが如きものである。これ六二が柔順中正を得たる爲であつて、要するに此爻、六二がその柔順中正の徳を以て旅に處するの道全きを得たることを讚美したのであるが、人も亦此徳を尙び守るべきである。

因に云ふ。諸家多く「得童僕貞」と云ふ辭を、忠實なる童僕を得て行旅の便を得る意に解し、予も斯く解釋せる時代もあつたが、象傳にも「得童僕貞終无咎」とあるから、王弼の説を取り、童僕の貞正なるが如く、財豊かなるも驕らざる爲に咎なき意に解する方が妥當であらうと考へるから、此義を以て解決することにしたのである。

(占 斷)

- ◎運 勢 此爻柔順中正にして旅の道全きを得、爻辭に「旅即レ次。懷其資、得童僕貞」とあるは、運氣平安を得たる象にて、然も志行正しきを得て、益吉運に向ふ象あり。尙爻意爻象より見て、物事進みて吉、金運、他の親愛等を見る象あり。
- ◎願望、金談 賣買 爻意爻象より見て、願望金談順調に成就し、賣買好都合に運びて利益を得ること説明の要なし。
- ◎相 場 此爻旅次に即きて安息を得る象なるは、相場安定して動かざる象なり。
- ◎縁 談 亦爻意爻象より見て良縁の象にて、「旅即レ次」とあるは纏る象なり。
- ◎子 實 此爻柔順中正にして旅の道全きを得、運氣吉祥の象なるは、濃厚篤實なる兒女を得て幸福の象なり。妊娠此爻柔正にして中に居るは、女兒の象なり。
- ◎縁 運 爻意爻象より見て、男女共に縁運吉祥幸福の象にて、特に柔順中正を得るは、男子の溫和貞節なる妻女を得る象なり。
- ◎家庭運 爻辭に「懷其資、得童僕貞」とあるは、富有の家に生れ、徳行備はりて他の親愛尊敬を受け幸福安泰の象なり。
- ◎壽命、病氣 爻意爻象より見て、健康長壽を得、病氣全快疑ひなき象なり。
- ◎待人、走人、失物 爻意爻象より見て、待人來り、走人失物直に判明して悦びある象なり。下艮は東北、變

巽は東南、その方角を尋ぬべし。

- ◎旅立、争事、就職、試験 亦爻意爻象より見て、旅立吉、争事有利、就職成就、試験好成绩の象なり。
- ◎開業、轉業、移轉 此爻旅の道全きを得て吉なるは、何れも進みて吉なる象なり。
- ◎天 候 此爻旅程平安の象なるは、天候平穩の象なり。

九 三 旅焚其次、喪其童僕貞。厲。

(爻辭讀方) 旅其の次を焚かれ、其の童僕の貞を喪ふ。厲し。

(象 義) ◎「焚其次」離火上に在り、互卦の巽風これに加はる象より取る。◎「喪」九三變じて艮體坤となるの象 ◎「厲」九三危地に在るの象。

(意 義) 九三は六二の柔順中正を得るのと全く相反して、過剛不中にして艮體の上に居り、且内外の際たる危地に在るものである。これ即ち性質強暴不遜にして危険の時に處するもので、謙讓謹慎を旨とすべき旅の道に背くこと甚しきものであるから、宿舎を焚かるゝが如き難に遇ひ、安息を得ずして困苦の甚しきを招くことは必然である。故にこれを「旅焚其次、喪童僕貞。厲」と云つたのである。要するに此爻、九三の過剛不中にして危地に居り、旅の道を失ひて厲き象あるを以て、人の強暴不遜なるものゝ、危難に遭遇して身を破り、困苦に陥るに至るべきことを説き示してこれを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻旅の時に當り、過剛不中を以て危地に居り、其の次を焚かれ、童僕の貞を喪ひ、厲き象あるもの、即ち此爻を得たる時、危険なる氣運に處して、強剛不遜に流れ、その結果艱難困苦に陥る象がある。宜しく自重謹慎して此氣運に善處し、一身の安泰を計る心掛けが肝要である。尙爻意爻象より見て、住所の不安、不慮の災難事、火難、他との不和、損失等を招く憂ひがあるから注意を要する。

◎願望、金談、賣買 爻意爻象より見て、心持態度悪しき爲に、人の信用親愛を得ず、何れも功利を遂げ難き象なり。慎しむべし。

◎相 場 此爻剛を以て陽に居り、艮山の極に在りて其の次を焚く象あり、且變卦火地晉となるは、相場高く、先行き尙一層上る象なり。

◎縁 談 爻意爻象より見て、態度穩當を缺く爲に縁談破るゝ象にて、又凶縁なり。

◎子 寶 此爻過剛不中にして強剛不遜の象あるは、性格強剛にして、素行亂暴なる兒女を持つ象にて爻意に示す如く辛勞不幸を招く象なり。姪姪此爻剛を以て正を得、少男の象艮の主たるは男兒なり。

◎縁 運、家庭運 爻辭に「旅焚其次、喪童僕貞。厲」とある如く、爻意爻象より見て、縁運、家庭運共に凶惡にして、一生安定を得ず。辛勞艱苦を見る象なれば、慎しみを守りてこれを善轉する心掛け肝要なり。

◎壽命、病氣 此爻陽を以て剛に居るは、生れつき強健の方なるも、爻意の示す如く、素行上慎しみなく、攝生養生を缺く爲に、健康を損じて壽を縮め、不養生の爲に病氣危険に陥る象なれば、慎しむ肝要なり。

◎待人、走人、失物 爻辭に「旅焚其次、喪童僕貞。厲」とある如く、爻意爻象より見て、待人來らず。

走人判明せざるか身の上に危険あり。失物出てざる象なり。

◎旅立、爭事、就職、試験 亦爻意爻象より見て、旅立大凶、爭事不利、就職不調、試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 何れも進みて凶なること、爻意より見て説明の要なし。

◎天 候 此爻剛正にして、變卦晉は太陽地上を照らす象なれば、天氣快晴なり。

九 四 旅于處。得其資斧。我心不快。

(爻辭讀方) 旅處に于す。其の資斧を得。我が心快からず。

(象 義) ◎「于處」暫く假居する意なり。此爻離に體し、變じて艮となる。離の性は動き艮の性は止る。又九四居る所位を得ず。即ち假居の象なり。◎「資斧」資は財貨なり。離の象。斧は利器にして防衛の具なり。離を戈兵となし、約象兌を金となし、互體巽を木となす。斧の象なり。◎「我」九四を指す。◎「心不快」

心は離の象より取り、四を心意となし、正位を失ひて多懼の地にある象より不快と云ふなり。

(意 義) 此爻旅の時に當り、剛を以て陰に居り、剛柔の和を得て居るから、これを「旅于處」と云つたのであつて、于處とは旅中處を得て暫く安居する意であるが、その安居を得るや暫時の間の假居であつて、永久の安居を得る意ではない。これ九四が陽剛にして不中正で、剛強獨斷の弊があり、人に接して和親を得ず、柔和溫順を尙ぶの道に適つて居らず、且近君多懼の地に居るが爲である。次に「得其資斧。我心不快」と云つたのは、九四は陽剛を以て離體に居るから、旅用を辨ずる貨財を有して居るものではあるが、不中正

て多懼の地に居るから、自己を防衛する必要を免れぬものであつて、従つて快然として安樂を得ること能はざるものであると云ふ意味である。要するに此爻、九四が陽剛不中正を以て旅の時に居る象を取つて、強剛獨斷に走りて人を容ること能はず、他の親和愛敬を失ふものを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻陽剛を以て宰相の位に居り、爻辭に「旅于處」とあり、又その資を得る象あるは、一時的に運氣の吉祥平安を得、身に富貴を備ふる象あるも、不中正にして近君多懼の地に居り、斧を以て自己を防衛する必要を免れず。我心快からざる象あるは、氣運安定せずして前途に不安を感じる象なれば、自重戒慎を肝要とするものである。尙爻意爻象より見て、身上の不安定、人望を缺く象、その器に非ずして位を履む象等がある。

◎願望、金談、賣買 此爻旅中處を得る象あり。又資を得るものなるは、願望金談成就し、賣買利を得る象なるも、安居すること暫定的にして永續せず。心快からざる象あるは、願望金談成就するも一時的にして前途に不安辛勞あり。賣買利を得るも永續性なく再び損失の憂ひある象なり。

◎相 場 此爻陽剛を以て位高きに居るは、相場高き象なるも、本來陰位にして、變卦艮爲山は停滯の象なれば、先行き伸び悩む象なり。

◎縁 談 爻辭に「旅于處」とある如く、爻意爻象より見て、縁談一時纏るも永續性なき象にて、「我心不快」とある如く良縁に非ず。

◎子 實 此爻陽剛不中正にして強剛獨斷の象あるは、我意強く不柔順の兒女を持ちて親子間の親和を缺き「我心不快」とある如く、不満不幸を見る象なり。姪姪此爻陽剛を以て宰相の位に居り、變良を少男となすは、男兒なり。

◎夫 運 此爻陽剛を以て宰相の位に居るは、地位高き夫に添ふ象なるも、不中正なるは温情を缺く象にして「旅于處」とあり。又「我心不快」とある如く、夫婦間の安定を得ず。不満不平を見る象なり。

◎妻 運 此爻陽剛不中正なるは、我意強く不柔順の妻を持ち、「旅于處」とあり。又「我心不快」とある如く、夫婦間の和合を缺き、不満絶えずして縁運の安定を得ざる象なり。

◎家庭運 此爻陽剛を以て宰相の位に在り、資を得る象あるは、富貴の家に生れてこれを繼ぐ象なるも、不中正にして旅處に于てし、我が心快らざる象あるは、性質強剛にして我意に走り、身内と和合を缺きて家庭に不満動搖を招き、和樂を得ざる憂ひあれば、慎しむを守ること肝要なり。

◎壽命、病氣 此爻陽剛なるも不中正なるは、外見強健に見ゆるも、内實弱き生れにて、變卦艮となり、又爻辭に「旅于處」とあり。「我心不快」とある如く、壽命上健康に故障變動多く、病勢定らずして長引く象なれば、攝生養生を嚴守せざれば長壽を保ち難く、病氣全快覺束なき象あり。

◎待 人 此爻陽剛不中正にして、強剛獨斷の性他と親和せざる象あるは、待人來らざる象なり。

◎走人、失物 爻辭に「施于處」とある如く、此爻假居して永久に安定を得ざる象なるは、走人一定の所に止らず。失物轉々する象にして、走人容易に判明せず。失物出て難き象なり。上離は南、變良は東北、その方

角を尋ね見るべし。

◎旅立、争事、就職、試験 變卦停滯の象良となり、爻辭に「旅于處」とあり。又「我心不快」とある如く、爻意爻象より見て、旅立出てざるを吉とし、争事決定せずして不安不満を招き、就職長引きて意の如く運ばず。試験成績不同にして良結果を得ざる象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも進まざるを可とする象なり。

◎天 候 此爻陽剛を以て離明に體するは、今天氣良き象なるも、本來陰位にして變卦良は停滯の象なれば後不良となるべし。

六 五 射雉一矢亡。終以譽命。

(爻辭讀方) 雉を射て一矢を亡ふ。終に以て譽命あり。

(象 義) ◎「雉」雉は文彩あるもの、即ち離の象を取る。◎「射」五を中となす、即ち射あてる象なり。◎「矢」離の象。◎「亡」離火炎上す。故に亡ふの象となす。◎「譽命」譽は約象兌の口を以て離の文明を譽むる象より取り、命は互體巽を命令となすの象を取る。

(意 義) 六五は君位に當るもので、君主たるものは至尊にして旅に出づる義なしとするが故に、此爻に於いては義を轉じ、君命を奉じて遠く他國に使ひするもの義に取つて辭を係けたのである。即ち「射雉」とは、雉の文彩あることを以て文明を表はすものとなし、これを射て取ることは、文明の道に合致した行動

を取ることを云つたのであつて、此の徳を以て君命を帯びて他國に使ひすれば、能くその命を全うすることが出来るもので、恰も雉を獲る爲に一矢を失ふ様なもので、失ふこと小にして得る所大なるものである。故にこれを「一矢亡」と云つたのである。それ斯くの如く六五がその大任を果して功を成せば、人に稱譽せらるゝことは云ふ迄もないことであるから、これを「終以譽命」と云つたのであつて、是れ一に六五が柔中の徳を備へて離明の主たるが故である。要するに此爻、六五柔中離明の徳を讚美したのであつて、人も亦此の徳を備ふれば、功を遂げ譽れを得べきことは必然である。

(占 斷)

◎運 勢 此爻柔中の徳を備へて離明に對し、雉を射て一矢を亡ひ、終に以て譽命あるもの、即ち此爻を得たる時、明智徳行を以て功を遂げ、身を立てて榮譽を得、運氣盛んなる象である。尙爻意爻象より見て、旅行によりての功利、金運、名譽を揚げる象等がある。

◎願望 金談 爻意爻象より見て、何れも順調に成就すること説明の要なし。

◎賣 買 此爻一矢を失ひて雉を得る象あるは、賣買共に小資本を以て大利を收むる象なり。

◎相 場 此爻尊位に居りて利を收め名譽を揚げ、氣盛運大の象なるは、相場高き象なるも、變卦遯は陽退き陰進む象なれば、先行き下るべし。

◎縁 談 爻意爻象より見て、良縁にして纏ること説明の要なし。

◎子 實 爻意爻象より見て、温順明智にして功名を遂ぐる兒女を得て幸福の象なり。妊娠此爻陰を以て中

女の象離の中に居るは兒女なり。

◎縁 運 此爻柔中を以て尊位に居り、離明に體し、終に以て譽命あるは、男子は柔順明美にして富貴の女を妻とし、女子は順徳明智を備へて功を遂げ立身する夫に添ひ、男女共に縁運大吉の象なり。

◎家庭運 此爻尊位に在るは富貴の家に生るゝ象にて、柔中を以て離明に體するは、明智徳行を備ふる象にて、「終以譽命」とある如く、身を立てゝ益家運を盛んならしむる象なり。

◎壽命、病氣 爻辭に「終以譽命」とある如く、爻意爻象より見て、健康長壽を得、病氣全快する象なり。

◎待人、走人、失物 爻意爻象より見て、待人來り、走人失物直に判明して悦びある象なり。上離は南、變乾は西北、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「射雉一矢亡。終以譽命」とある如く、爻意爻象より見て、旅立大吉、爭事勝利、就職成就、試験優秀の成績を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 此爻君命を帯びて他國に使ひし、大任を果して譽命ある象。何れも進みて吉なり。

◎天 候 此爻離明の中に居りて、氣運盛んなる象あるは今天氣良好の象なるも、陰柔にして變卦遯は陰長じ陽消する象なれば後不良となるべし。

上九 鳥焚其巢。旅人先笑、後號咷。喪牛于易。凶。

(爻辭讀方) 鳥其の巢を焚く。旅人先には笑ひ、後には號咷す。牛を易に喪ふ。凶なり。

(象 義) ◎「鳥」離の象。◎「焚其巢」鳥の巢は木の高所にあるもの、上九卦極の高きにあるより云ふ。而して離を科にして上枯れたる木となし、又火となす。即ち其の巢を焚く象となす。◎「先笑、後號咷」笑も號咷も約象兌口の象を取る。又離を火となし、明滅の象あるよりも取る。◎「牛」離の象。◎「易」疆場やちやうの場と同じく、上九卦極に在りて卦の盡くる所なるより云ふ。◎「喪」上九陽剛不中正を以て卦極の高きに居り、柔順の徳を失ふ象あるより云ふ。

(意 義) 上九は陽剛を以て卦極の高きに居り、然も不中正であるから、剛腹不遜にして自ら高ぶり、他を蔑視するもので、旅に於いて貴ぶ所の、柔順謙讓の徳を失ふものである。故に人の憎惡を受けて災害を招き旅中の安寧を失ふもので、恰も鳥がその巢を焼かれて安棲する所を失つたやうなものである。故にこれを「鳥焚其巢」と云つたのである。上九は斯くの如く、始めは驕傲自ら高ぶり、遠行を以て喜びとなすものであるが、その傲慢不遜なる爲に、人の憎惡を受けて旅中の安寧を得ざるに至り、後には泣き叫ぶ様な状態に陥るものである。故にこれを「旅人先笑、後號咷」と云つたのである。次に「喪牛于易。凶」と云つたのは、上九が斯くの如く、柔順の徳を失ひ驕傲不遜にして凶害を招くことを、牛は性質柔順なるものであるから、これを失ふに喩へて説いたのである。要するに此爻、上九の陽剛不中正を以て卦極に居り、旅の時に在りて、凶害を招き安寧を得ざる象を取りて、人の驕傲不遜にして柔順謙讓の徳を失ふものゝ、他の憎惡を招きて災害悲境に陥るべきことを示し、これを深く戒しめたのである。

(占 斷)

◎運勢 此爻陽剛を以て卦極の高きに居るは、人の上に立ち運氣盛んにして得意なる象なるも、不中正にして「鳥焚其巢。旅人先笑、後號咷。喪牛于易。凶」とある如く、旅中凶害を招きて安寧を失ひ、號咷するに至る象あるは、盛運に驕りて傲慢不遜に流れ、人の憎悪を招きて災害悲運に陥る象あることを示すものなれば、謙讓の徳を守り、身を慎しみて運氣の安泰を計る心掛けが肝要である。尙爻意爻象より見て、諸事始め吉にして後凶、住所の故障不安、火難等の象がある。

◎願望、金談、賣買 此爻鳥その巢を焚き、牛を易に喪ひて凶なる象あり、又旅人先には笑ひ、後には號咷する象あるは、願望金談初め成就するが如く見えて、驕傲不遜に流れ、謙讓の心掛けを缺く爲に破れ、賣買世辭を缺く爲に、初めは順調に運ぶも逆轉して失敗不利に終る象なり。

◎相場 此爻陽剛を以て卦極の高きに居るは、今相場高き象なるも、「先笑、後號咷」とあり。又變卦雷山小過は、鳥高きに飛び過ぐる象なれば、先行き下落すべし。

◎縁談 此爻先には笑ひ、後には號咷する象あり。又「喪牛于易。凶」とあるは、初め纏る如く見えて結局破談となる象にて、縁としても爻意より見て凶なり。

◎子實 此爻陽剛不中正を以て卦極に居り、驕傲不遜にして凶を招く象あるは、不柔順なる兒女を持ちて辛苦を招く象にて、特に「先笑、後號咷」とあるは、初め吉にして末凶の運勢を示し、又「喪牛于易。凶」とあるは子供に死別する象あることを示すものなり。妊娠此爻陽剛にして、變體震を長男となすは、男兒なり。

◎縁運 爻辭に「先笑、後號咷」とあるは、男女共に初め縁運吉祥幸福に見えて、末は不幸の運勢なり。又「喪牛于易。凶」とあるは、連合ひと死別する憂ひあることを示すものなり。

◎家庭運 此爻陽剛を以て卦極の高きに居るは、富貴の家に生るゝ象なるも、鳥その巢を焚き、牛を易に失ひて凶なる象あるは、家運亡失して不幸艱難に陥る運勢を示し、「先笑、後號咷」とある如く、初め吉にして終り凶なる象なり。

◎壽命、病氣 爻意爻象より見て、初めは健康なるも後病弱となりて壽を保ち得ず。病氣次第に悪化して絶望に陥る象なり。

◎待人 此爻驕傲不遜にして人に譲り下る所なきもの、待人來らざる象なり。

◎走人 此爻旅の極に在るは、走人遠方に走ることを示し、「喪牛于易。凶」とあるは、居所判明せざることを示す。尙爻意より見て、身の上に危険の憂ひあり。

◎失物 爻辭に「喪牛于易。凶」とあるは、失物出でざる象なり。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻意爻象より見て、旅立凶、爭事不利、就職絶望、試験不成績の象なり。尙「先笑、後號咷」とあるは、何れも初め吉の如く見えて、後凶に終る象あることを示す。

◎開業、轉業、移轉 何れも進みて凶なること、爻意爻象より見て明かなり。

◎天候 此爻陽剛を以て卦極に居り、勢ひ盛んなる象あるは、今天氣良好の象なるも、本來陰位にして、變卦小過は震雷山上に動く象なれば、後不良となるべし。

巽爲風 巽小亨。利有攸往。利見大人。

(卦辭讀方) 巽は小しく亨る。往く攸有るに利し。大人を見るに利し。

(象 義) ◎「巽」巽は入るの義、又従ふの義で、即ち従順恭服の義である。此卦を見るに、上下兩卦共に一陰が主畫となりて二陽の下に入り、伏して居る。それ陰の性は下り退くことを主とするものであるが、今二陽剛の下に入り従ひて、出づることを得ざる貌であるのは、即ち従順恭服の義で、巽の象であるから、此卦を巽と名づけたのである。又此卦上下巽を重ね。巽を順となす。即ち巽の卦名の由つて起る所以である。而して此卦を旅の次に置いた譯は、序卦傳にも「旅而无所容。故受之以巽。巽者入也」とある如く、旅に出てて身を入るる所なければ、必ずその身を入る、所を求むるものであるからである。

◎「大人」九五剛健中正の象を取る。◎「見」約象離を目となすの象より取る。

(意 義) 凡そ天下百般の事物、一によく巽従の道を守る時は亨通するものであるが、従の道は元來已れを屈し委ねて、他に依りかゝるものであり、自ら主宰者となつて事を行ふのではない。故に少しく亨ることは出来ても、元に亨ることは出来ないものである。即ち「巽小亨」と云つたのは此意味を述べたものである次に「利有攸往」と云つたのは、巽順の徳を以て物事に進み往くことの可なることを示したのであるが、他に従ひて進み往くことは、無暗に他に従ふを以て利しとするものではなく、その従ふべき人を選んで進み

往くことが大切であつて、即ち有徳の大人を選んで従ふべきものである。故にこれを「利見大人」と云つたのである。要するに此卦、順従の道を説き示し、これに處する要義を教へたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此卦巽順の象なるは、柔順なる人なることを現し、「小亨」とあるは、大事大望を企つることは不可なるも、分に應じたる小事小望は順調に運びて功利を遂げ得る象である。又「利見大人」とあれば、有徳有能の人に從ひて物事を謀ること肝要にして、此の心掛けを以て進まば諸事吉利を得るものである。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「小亨」とあるは、小望は成就し、小金は手に入る象なるも、分外の大望大金は成就の望みなき象にて、賣買亦小賣買は利益を得べきも、大手の賣買は不利に終る象なり。而して「利見大人」とあれば、有力なる人の力を借りて進むを吉とす。

◎相 場 此卦巽風相重なる象なるは、相場波瀾動搖甚しき象にて、又一陰二陽の下に伏入するは強調の象なり。

◎縁 談 爻辭に「小亨」とあるは纏る望みあることを示すものなれば、「利見大人」とある如く、有徳なる目上の人に依頼して進まば纏るべし。縁としては大吉とは云はれざるも、卦意より見て先づ良縁の方なり。

◎子 實 此卦巽順の象を現すは、柔順の兒女を得る象にて、「小亨」とあれば多少の故障辛勞を免れざるも大體に於いて平安を得る象なり。産娠此卦巽を重ね。巽を長女となす。女兒の象なり。

◎夫 運 此卦巽を重ね。巽は一陰二陽に従ふ象なれば、夫の變る象あり。而して「小亨」とあれば多少の

故障を免れざるも、卦意に従ひて順徳を守らば、大體に於いて幸福を得べし。

◎妻 運 此卦上下共に、一陰二陽の下に伏入して巽順の象あるは、柔順なる妻を得る象なり。

◎家庭運 卦辭に「小亨」とあるは、大體平安を得る象なるも、多少の故障辛勞を免れざることを示す。而して卦意より見て、陰柔に失して家運を興隆し得ざる憂ひあれば、「利見大人」とある如く、有徳有能なる目上の人に從ひて家運の發展を計る心掛け肝要なり。

◎壽命 卦辭に「小亨」とあるは、長壽と迄は云はれざるも、普通の壽を保つ象なり。

◎病 氣 此卦一陰二陽の下に伏入する象なるは、病氣内攻せる象なり。「利見大人」とあれば名醫を求めて治療せば全快すべし。

◎待 人 此卦從順の象を現すは、待人來ることを示すものなり。

◎走人、失物 此卦一陰二陽の下に伏入する象あるは、走人何所かに潜伏し、失物何かの下に埋伏し居る象なり、而して小亨とあれば稍長引く象あるも、何れも判明すべし。巽を東南となす。その方角を尋ぬべし。

◎旅 立 卦辭に「小亨」とあれば、卦意に従ひて溫順の心掛けを忘れざれば、多少の故障を免れざるも出で、宜し。

◎爭 事 此卦從順の道を説けるもの、爭ふは卦意に反して凶なり。宜しく「利見大人」とある如く、有力なる目上の人に依頼して溫和に解決する方有利なり。

◎就 職 卦辭に「利見大人」とあれば、有力なる目上の人に依頼して運ぶべし。然らば「小亨」とあ

るより見て、満足する位地は望み難きも成就すべし。

◎試 驗 卦辭に「小亨」とあるより見て、好成绩は望み難きも普通の成績を得べし。

◎開業、轉業、移轉 卦辭に「利有攸往」とあれば、卦意に逆ひて無理に流れざれば、何れも進みて可なり。

◎天 候 此卦一陰二陽の下に伏入するは天氣良好の象にて、又巽風を重ねるは風強き象なり。

初 六 進退。利武人之貞。

(爻讀讀方) 進退す。武人の貞に利し。

(象 義) ◎「進退」巽を風となし、往來となし、又果さずの象となすより取りて云ふ。◎「武人之貞」此爻變すれば乾となり、剛健の象となす。即ち武人の象、而して互體兌を決となし、變乾これに應ずるは健決にして疑志去る。武人の貞なり。

(意 義) 此卦巽順の時に當りて、陰柔不中正を以て卦の最下に居り、巽の主となつて居るのは、卑巽に過ぎるもので、その志が定らず、物事に當つて或は進み或は退き、自らその進退を決することが出来ぬものである。故にこれを「進退」と云つたのである。それ初六は斯くの如く卑巽に過ぎて進退果さざるものであるから、これを「利武人之貞」と云つて、武人的果斷果決の態度を以て物事に處せば、その卑巽遲疑の弊を矯めることが出来、利しきを得るものであると云ふことを教へ諭したのである。要するに此爻、初六の陰柔

不中正を以て卦の最下にある象を取つて、人の優柔不斷にして物事に當つて遲疑するものを戒しめ、果斷果決の精神を養ふべきことを教へ諭したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻陰柔不中正を以て最下に居り、「進退」の象あるは、意志弱く優柔不斷に流れて勇氣を缺き、諸事功を遂げず。氣運の進展を見ざる象である。宜しく「利武人之貞」とある如く、勇敢の精神を養ひ、果斷の態度を取りて、運氣の發展を計る心掛けが肝要である。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「進退」とある如く、爻意爻象より見て。願望金談共に進出の勇氣を缺き、遲疑逡巡する爲に成就を見ざる象にて、賣買亦勇氣果斷を缺き、躊躇逡巡して機を失し、失敗不利を招く象なり。宜しく「利武人之貞」とある如く、何れも勇氣と果斷とを以て進むべし。

◎相 場 爻辭に「進退」とあり。變卦風天小畜ふうてんせうことなるより見て、相場一進一退して持合ふ象なり。

◎緣 談 爻辭に「進退」とあるは、決定に迷ひ居る象なることを示す。纏めんとせば、「利武人之貞」とある如く。勇氣と果斷とを以て進むべし。然し緣としては、此爻陰柔不中正にして變卦小畜となるより見て良縁ならず。

◎子 實 此爻陰柔不中正にして「進退」とあるは、氣力なく優柔不斷の兒女を持ち、變卦小畜となるより見て、不滿辛勞を招く象なり。宜しく「利武人之貞」とある如く、強硬なる養育法を實行すべし。旌娠此爻陰柔にして二陽に従ひ、長女の象異の主たるは女兒なり。

◎緣 運 爻辭に「進退」とあり、變卦小畜に夫婦和せざる象あるは、男女共に緣を定むるに當つて色々と迷ひ、結局不幸の緣を結ぶ象なり。「利武人之貞」とある如く、果斷を以て良縁を求むる心掛け肝要なり。

◎家庭運 此爻陰柔不中正を以て最下に居るは、卑賤の家に生れて才力勇氣を缺き、變卦小畜となる如く、不幸の象なり。宜しく「利武人之貞」とある如く、堅固なる意志と勇氣を養ひて、身を立て家を興す様心掛くべし。

◎壽命、病氣 此爻陰柔不中正にして最下に在るは、生れつき虚弱にして加ふるに攝生養生惡しき象にて、「進退」とあり。又變卦小畜となる如く、壽命上故障病難多く、病勢一進一退して長引く象なり。宜しく、「利武人之貞」とある如く、強固なる意志を奮起して攝生養生を嚴守すべし。然らば健康を得て壽を保ち病氣全快の望みあり。

◎待 人 爻辭に「進退」とあるは、待人來否に迷ひ居る象なり。「利武人之貞」とある如く、重ねて強く催促すべし。

◎走 人 爻辭に「進退」とある如く、爻意爻象より見て、走人家出先にて去就に迷ひ居る象なり。下巽は東南、變乾は西北、その方角を尋ぬべし。

◎失 物 此爻巽下に居り、變卦小畜となるは、何かの下に迷ひ込み居る象なり。方角走人に同じ。

◎旅立、爭事 爻辭に「利武人之貞」とあるは、何れも勇氣と果斷を以て進むを吉とす。然し「進退」とあるは、長引く象なればその覺悟を要す。

◎就職、試験 爻辭に「進退」とある如く、此爻一進一退の象あるは、就職決定せずして長引き、成績不同の象なり。宜しく「利武人之貞」とある如く、何れも功果を收むる爲には、強固なる意志を以て努力すべし。
◎開業、轉業、移轉 爻辭に「利武人之貞」とあるは、何れも勇氣と果斷とを以て進むを吉とする象なり。
◎天候 此爻一進一退の象あり。又變卦小畜となるは、天候ぐづつきて定らざる象なり。

九 一一 巽在牀下。用史巫紛若、吉无咎。

(爻辭讀方) 巽しんひて牀じやう下に在あり。史巫ししを用もちふること紛若ふんじやくたらば、吉すにして咎とが無し。

(象 義) ◎「巽」卦名の象。◎「牀」人の坐臥する所を云ふ。巽の形象より取る。巽を木となし、二陽の木上に横はり、一陰の木下に峙し、その形牀に似たるを以てなり。◎「史」卜筮を司る官なり。約象離を明察となす象より取る。◎「巫」稊ほ稊じやく即ちはらひを掌つかさどるものことなり。互體兌の象。又巽を清潔となし、史巫の象あり。◎「紛若」數多き義、重巽の象より取る。

(意 義) 巽順の時に處するもの、憂ひとすべき所は、巽に過ぎて卑屈に陥らざるにある。故に獨り初六に於いてのみならず、他の諸爻に於いても、亦均しく武人的果斷を貴ぶのであるが、今九二は巽の時に當りて、陰に居りて正を失ひ、上に應爻の援けなく、初六の陰柔に比親して居るのは、これも亦巽順に過ぎるものである。即ちこれを「巽在牀下」と云つたのであつて、九二が果斷剛決なる武人に従はずして、陰柔なる初六に比親するは、巽順に過ぎるものであると云ふ意味である。然し九二は剛中の徳を有して居るもの

であるから、その過巽卑屈なることは、三上兩爻の甚しきが如きものではない。故に卜筮によつてその吉凶を決斷し、稊稊によつて災害を拂ひ清めること再三再四なるが如く、誠心誠意を盡せば、過巽卑屈の咎を免れて吉を得ることが出来るものである。故にこれを「用史巫紛若、吉无咎」と云つたのである。要するに此爻、九二の象を以て、巽に處するの道を教へたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻過巽卑屈の象あるは、物事に處して勇氣を缺き、功利を失ふ憂ひあるものである。然し剛中の徳ありて、「用史巫紛若、吉无咎」とあれば、氣力を奮起し、誠意を盡して有力果剛なる目上の人に從ひて、事を計り物に進めば、變卦漸となる如く、能く自己の足らざる所を補ひて、物事功を遂げ、吉運を得るに至るものである。尙爻意より見て、目下の小人と親しみての災害不利、物事に倦くことなく忍耐して進むべき要、卜筮稊稊によりて災害を免るゝ象等がある。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「用史巫紛若、吉无咎」とある如く、爻意爻象より見て、誠實を盡し、果剛なる目上の力を借りて、忍耐努力せば、何れも困難は免れざるも、遂に功利を遂げて悦びを得べし。

◎相場 爻辭に「巽在牀下」とあるは、今相場安き象なるも、剛中を得て變卦漸となるより見て、先行き漸騰すべし。

◎縁 談 爻辭に「用史巫紛若、吉无咎」とあるより見て、誠意を盡し、有力なる目上の力を借りて運ばば纏るべく、縁としても初めは幾分故障あるも、末に至る程吉を得る縁なり。

◎子 寶 此爻過異の嫌ひあるは、稍氣力柔弱に失する兒女を得る象なるも、爻意に戒しむる如く、誠意を盡して養育せば、剛中の徳備るものなれば、「吉无咎」とある如く、兒女の成功を見て幸福を得べし。妊娠、此爻剛中を得、變體良を少男となすは、男兒なり。

◎縁 運 爻意に戒しむる如く、誠實を盡し、忍耐を守りて進まば、男女共に初めは縁運上故障辛勞を免れざるも、「吉无咎」とある如く、次第に吉祥幸福を得るに至るべし。

◎家庭運 爻辭に「巽在艮下」とあるは、微運の家に生れて困苦を見る象なるも、剛中の徳を備ふるものなれば、爻意に示す如く、誠意と忍耐を守りて進まば、「吉无咎」とあり、又變卦漸となるより見て、漸次身を立て家を興して幸福を得るに至るべし。

◎壽命、病氣 爻意爻象より見て、身を慎しみ行ひを正しくし、忍耐を第一として、攝生養生を守らば、健康長壽を得る望みありて、又病氣も全快すべし。

◎待 人 爻辭に「紛若、吉无咎」とあれば、根氣よく再三再四催促すべし。然らば終に來るべし。

◎走人、失物 爻辭に「巽在艮下」とあるは、走人何所か知人の所に潜伏し居り、失物何かの下になり居るか、何所かへ陥り居る象なり。爻意に示す如く、根氣よく探さば判明すべし。下巽は東南、變良は東北、その方角を尋ねべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「用史巫紛若、吉无咎」とある如く、爻意爻象より見て、旅立用意周到に心して出づれば吉にして、爭事剛決なる人に依頼して根氣よく進まば勝利を得べく、就職試験共に、又

根氣よく努力せば、良好なる結果を見ることを得べし。

◎開業、轉業、移轉 亦爻意爻象より見て、周到なる用意を以て進まば、「吉无咎」とある如く、何れも吉なり。

◎天 候 此爻剛中を得るは今天氣良き象なるも、陰柔不中正なる初六に比親するは、後不良となる象なり。

九 二 頻異。吝。

(爻辭讀方) 頻りに異ふ。吝なり。

(象 義) ◎「頻」數、連の義にて、しばくと云ふに同じ。重巽の象より取る。◎「吝」變坎の象。

(意 義) 此爻巽順の時に當り、過剛不中を以て下卦の極に居り、下巽終りて上巽に接するもので、即ち從ふことの頻りなるものである。故にこれを「頻異」と云つたのである。それ九三は元來過剛不中なるもので、その性質剛亢なるものであるのに、斯くの如く頻りに從ふは、本心から從ふものではなく、僞詐の心を以て從ふもので、これ阿諛佞媚の極なるもので、必ず醜辱を免れざることは言を俟たぬ所である。故にこれを「吝」と云つたのである。要するに此爻、過巽の極なるもので、その象を取つて、阿諛佞媚の徒を痛撃しその醜辱を招くべきことの必然なることを説き示し、これを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 爻辭に「頻異」とある如く、爻意爻象より見て、内心剛慢なるに拘らず、外面奸佞を以て人に接

するものにて、志行定まらず。「吝」とある如く、人より醜辱を受け、逆運不幸に陥る象である。宜しく志行を改め、身を慎しみて運氣の安泰を計るべきである。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「頤異」とあるは、誠意を缺きて好佞なることを示すもの、「吝」とある如く、人の信用を失ひて何れも功利を遂げ得ざる象なり。

◎相場 此爻剛を以て陽に居り、下巽の極に在るは、今相場強き象なるも、下巽、上巽に移るの際に居り變卦風水渙は解散の象なるは、先行き波瀾を示して結局下落する象なり。

◎縁談 爻辭に「頤異」とあるは、一つの縁談に専念せず。色々の縁談に氣迷ふ象にして、「吝」とある如く、結局纏らず。又縁としても爻意爻象より見て凶なり。

◎子實 此爻巽の時に當り、過剛不中を以て内外の際に居り、「頤異」とあるは、兒女の志行定まらざる象にて「吝」とある如く、人に容れられず。醜辱を招き、子供運不幸なることを示す。妊娠此爻剛正にして變體坎を中男となすは、男兒なり。

◎縁運 爻辭に「頤異」とあるは、男女共に屢縁の變る象にて、「吝」とある如く、不幸薄命の象なり。

◎家庭運 爻辭に「頤異。吝」とあるは、志行定まらずして人の信用を失ひ、嫌惡を受け、身を破り家を傾けて不幸に終る象なり。宜しく志行を正し、身を慎しみて、氣運の轉換を計る心掛け肝要なり。

◎壽命、病氣 爻意爻象より見て、「頤異。吝」とある如く、健康上故障變動多くして長壽を保ち難く、病勢變化烈しくして終に全快を得ざる象なり。

◎待人 爻辭に「頤異」とあるは、待人來る象なるも、變卦渙となり、此爻外佞媚にして内剛亢の象あるは、來るも期待反する象なれば、警戒を要す。

◎走人、失物 爻辭に「吝」とあり、變卦渙は解散の象なれば、走人失物共に判明し難き象なり。下巽は東南變坎は北、その方角を尋ね見るべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「吝」とある如く、爻意爻象より見て、旅立凶、爭事不利、就職不調、試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも不可なること説明の要なし。

◎天候 此爻剛正にして、變卦渙は憂患解散の象なれば、天氣良きか、不良の天候變じて良好に向ふ象なり。

六 四 悔亡。田獲三品。

(爻辭讀方) 悔亡。田して三品を獲。

(象 義) ◎「田」田獵のこと。約象離を網罟となすの象。又巽を禽獸となし、約象離を武事となし、互體兌を肅殺となすの象。◎「獲三品」獲ること多き義、重巽の象、巽を利三倍となすを以てなり。

(意 義) 此爻柔を以て陰に居り、過柔にして巽の主となり、且應爻の助けなくして勢ひ孤なるのみならず、承乘皆剛であるから凌迫の禍ひを免れぬものであつて、元より悔あるべきものであるが、幸にして正を

得て柔正の徳があり、上下二剛に親比してその剛武の援けを得るが故に、柔巽の悔を免るゝことが出来るものである。即ちこれを「悔亡」と云つたのである。斯くの如く六四は、柔正の徳を備へ、剛武の助けを得て柔巽の悔いを免れるものであつて、これ恰も獵して多數の獲物を得、田害を除くが如きものである。故にこれを「田獲三品」と云つたのである。而してこれを人事に喩ふれば、六四は君側の宰相であつて、陰柔にして才力稍乏しき恨みあるも、柔正の徳を備へ、上九五の君に親比してその寵を得、下剛賢の士に下りてその助けを受け、以て阿諛好佞の輩君家に群衆する巽の時に當つて、能くこれを退けて宰相の任を盡し、天下の治安を致し、功業を立つるが如きものである。要するに此文、六四が柔正の徳を以て能く巽の道を全うすることを讚美したのであるが、人も亦巽の道に於いて、此徳を重んずべきことを示して居るものである。

(占 斷)

◎運 勢 此文柔正の徳を備へ、上下二剛に親比し、その徳とその援けによりて、柔巽の悔を免れ、田して三品を獲るもの、即ち此文を得たる時、才力稍乏しく物事に處して勞苦を免れざる象あるも、順正の徳を備へ、上下の賢剛なる人に親しみてその助けを得、よく功を遂げ利を得て運氣の盛大を致す象である。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「田獲三品」とあるは、願望金談成就し、賣買大利を得る象なり。

◎相場 此文陰を以て柔に居り、過柔の象あるは相場安き象にて、變卦天風姤は一陰下に生じて五陽を犯す象なれば、先行き尙下るべし。

◎縁 談 爻辭に「悔亡。田獲三品」とあるは、初の多少の故障あるも、纏る象にて縁としても良縁なり。

り。尙上下二剛に親比し、その助けによりて悔亡ぶる象あれば、上下共に親近者の助力を乞ふべし。

◎子 實 此文柔を以て陰に居るは、心身弱き兒女を得る象なるも、正に居るは志行正しき象にて、「悔亡」とある如く、初めは子供に就きて苦勞を免れざるも、末には吉を得る象なり。又「田獲三品」とあるは子供多き象なり。妊娠此文柔正にして長女の象巽の主たるは、女兒なり。

◎縁 運 爻辭に「悔亡」とある如く、爻意爻象より見て、縁運上初めは稍故障苦勞あるも、志行柔正を得る爲に、後には幸福を得るに至る象なり。而して此文柔正を以て二剛に親比するは、女子は賢剛の男子を夫とし、男子は柔順貞淑の妻を得る象なり。

◎家庭運 此文宰相の位に在るは、富貴の家に生るゝ象なるも、過柔にして悔あるは、心志弱くして家を保つ爲に辛勞故障を免れざる象あることを示す。然し柔正にして二剛に親比し、悔亡びて田して三品を得るは志行正しく、よく上下の賢剛なる者に從ふ爲に、その徳と助けによりて、家運を全うして繁榮を得る象なり。

◎壽命、病氣 此文過柔にして悔あるは、體質虛弱にして健康上故障多く、病狀心痛を招く象あるも、柔正にして悔亡ぶる象あるは、攝生養生よき爲に、よく壽を保ち、病氣全快を得る象なり。

◎待人 此文柔正を以て上下二剛に親比するは、待人來る象にて、「田獲三品」とあるは幸便を獲す象なり。

◎走人、失物 爻辭に「田獲三品」とあるは、走人失物共に直に判明して悦びある象なり。上巽は東南、變乾は西北、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、争事、就職、試験 爻辭に「田獲三品」とあるは、旅立吉、争事勝利、就職成就、試験優秀の成績を得る象なり。

◎開業、轉業、移轉 亦爻辭に「田獲三品」とあるは、何れも進みて大吉なる象なり。

◎天 候 此爻重陰にして、變卦姤は一陰下に生じて五陽を消する象なるは、天氣不良なるか、これより不良に向ふ象なり。

九五 貞吉。悔亡。无不利。无初有終。先庚三日、後庚三日。吉。

(爻辭讀方) 貞にして吉なり。悔亡ぶ。利しからざること無し。初め無くして終り有り。庚に先だつこと三日、庚に後るゝこと三日。吉なり。

(象 義) ◎「悔亡」九五應爻なきは悔ある象にして、中正を得るは悔亡ぶる象なり。◎「无不利」二正を得、五中正を得る象。◎「无初有終」初六不正なるは初めなき象。五に至りて中正なるは有終の象なり。◎「庚」更改の義、互體兌金の象。◎「三日」三は異の生数の象、日は約象離の象。

(意 義) 九五が應爻の援けなきは悔ある所以であるが、剛健中正の徳を備へて居るから、能く此の悔を免れて吉を得るものである。故にこれを「貞吉。悔亡。无不利」と云つたのであるが、これを人事に喩へて見れば、九五は君主の位に在るものであるが、今異の時、阿諛佞媚の徒が朝廷に充滿し、君徳を汚さんとする有様で、然も下に應爻賢臣の輔佐するものなきは、是れ九五の君の悔ある所以であるが、九五の君は剛

健中正の徳を備ふる明君であるから、能くその明德を以て、佞媚の徒を遠ざけ除きて天下統治の大任を全うするものである。次に「无初有終」と云つたのは、悔亡ぶるの義を重ねて解説したもので、その意は、九五の君と雖、その初めに當つては、異從甘言の徒を喜びたる爲に、朝廷悉く阿諛佞媚の風が盛んになつたのであつて、即ち國家危殆の兆が現れるに至り、九五の君主の悔を致せる所以である。然るに九五の君は元來剛健中正の徳を備ふるものであるから、これを反省して奸佞の徒を艾除し、賢明の臣を擧用して此の弊を改め、政教風化の美を致して、天下の安泰を得るに至つたのである。是れ即ち初めなくして終りあるものである。次に「先庚三日、後庚三日。吉」と云つたのは、庚は十干の一つで、事義物理の變じ改まる義であるが、その庚に先だつこと三日は丁の日であつて、丁は丁寧の義で、即ち變革する前には丁寧慎重にすべきであること云ふことを先庚三日と云つたのであつて、又庚に後るゝこと三日は癸の日で、癸は揆度の義で、變じ改めた後は能くこれを揆り度りて全きを期すべきであること云ふことを後庚三日と云つたのである。今異の時滿朝異諛佞媚の風が盛んなるに當つて、これを變改革新するに非ざれば、天下の安泰を保つことが出来ないものであるが、これを實行するに當つては、須らく初めを慎しみ終りを度つて萬全を期すべきであつて、而して初めて吉を得るものである。是れ即ち「先庚三日、後庚三日。吉」と云へる義である。要するに此爻九五の剛健中正の徳を以て異の道を全うすることを讚美し、これを以て人君の剛正中徳を以て賢臣を擧用して異諛の弊風を革新し、奸佞の徒を退け、君道の全きを得るものを現したのであるが、唯に人君のみならず人の上に立つものゝ取つて以て範とすべき所である。

(占 斷)

◎運 勢 此爻剛健中正を以て君位に居るは、富貴にして運氣盛大の象なるも、爻意に示し戒しむる如く、その徳を失ひ、慎重の態度を缺く時は、周囲の阿諛佞奸あいつねいけんなるものに乗ぜられて、運氣を破り災害を招くに至る憂ひがあるから注意を要する。尙變卦巽となり、且爻意の示す所より見て、改革整理の必要、初め故障ありて後吉、目下の賢明なる者を用ゐての奏功等の象がある。

◎願望、金談、賣買 爻意に戒しむる如く、慎重と誠意の心掛けを以て進まば、「悔亡」とあり、又「无初有終」とある如く、何れも初めには故障困難を免れざるも、終に何れも功利を遂げ得る象なり。

◎相場 此爻剛健中正を以て君位の尊きに居るは、相場高き象なるも、變卦巽となるより見て、先行き暫く持合ふべし。

◎縁 談 爻意に示す如く、慎重誠實を以て進まば、初め多少の故障あるも結局纏るべし。又縁としては、「无初有終」とある如く、爻意爻象より見て、初めは多少の故障あるも末は吉の縁なり。

◎子 實 此爻剛健中正にして君位に居るは、才力備りて立身する兒女を待ち、幸福の象なり。然し「无初有終」とあれば初めには子供に就きて多少の苦勞を免れざる象にて、特に爻意に戒しむる如く、養育上慎重の態度大切なり。姪姪此爻剛を以て陽に居り、君位の象なるは男兒なり。

◎夫 運 此爻剛健中正にして君位に居るは、才力德行備り、大いに成功する夫に添ふ象なるも、「无初有終」とあるは、初めには多少の苦勞を免れざる象なり。

◎妻 運 此爻剛を以て陽に居るは、氣性强き女を妻とする象にて、又「无初有終」とあれば、初めは多少の故障苦勞を免れずして後に至りて幸福を得る象なり。

◎家庭運 此爻剛健中正にして君位に居るは、富貴の家に生れて才力備り、幸福の象なる今異従の時なるは阿諛佞奸あいつねいけんの徒周囲に満ち、その爲に身を過ち災害に陥る憂ひあることを示せば、爻意に戒しむる如く、剛健中正の徳を失はざる心掛け肝要なり。

◎壽命、病氣 此爻剛健中正を得るは、體質強健の象を示す。而して「无初有終」とあるは、健康上初めは幾分故障を招く象あるも、能く長壽を保つ象にて、病氣も初めに、懸念けんねんの症狀を示すも全快を得る象なり。然し爻意に戒しむる如く、攝生養生を怠らざること大切なり。

◎待 人 爻辭に「悔亡」とあり。又「无初有終」とあるは、待人稍遅るゝも終に來る象なり。

◎走人、失物 爻意爻象より見て、丁寧に探さば、「无初有終」とある如く、稍時日を要するも判明すべし。上巽は東南、變艮は東北、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事 爻意爻象より見て、慎重に進まば、旅立吉にして、爭事勝利を得べし。

◎就職、試験 爻辭に「无初有終」とあるは、就職稍故障ありて長引くも結局調ひ、試験案ずる程のことなく好成绩を挙げ得る象なり。然し爻意に戒しむる如く、何れも慎重誠實を以て努力すること肝要なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意より見て、何れも慎重の心掛けを失はざれば、進みて吉なり。

◎天 候 此爻陽を以て陽に居り、中正を得るは、天氣良好の象なり。然し變卦巽となるより見て、後悪化

すべし。

上九 巽在_ニ牀下_一。喪_ニ其資斧_一。貞凶。

(爻辭讀方) 巽_レ牀下_ニ在_リ。其_ノ資斧_ヲ喪_フ。貞_ニらば凶_{ナリ}。

(象 義) ◎「牀」巽の象。◎「資斧」資斧は齊斧の誤りなりとする説を取る。齊は整に同じく斧の利刃にして物を斷つことの均等なるを云ふ。斧は約象離の象。即ち資斧とは剛斷の義なり。◎「喪」上九不中正の象。

(意 義) 上九は卦の最上に在るものであるから、これを「在_ニ牀上_一」と云ふのが至當である様に思はれるのであるが、不中不正にして巽諛の極に居り、陰位に在りて六五の君に密侍するのは、これ即ち小人君側に諛り侍るの象で、亦過巽なるものであるから、これを「巽在_ニ牀下_一」と云つたのであつて、これを卦象から見れば、上巽を牀とし、下巽を従ふとする象を取り、爻象を以て見れば、上九は九五の君の上に在るものであるが、君上に位すると云ふことは理に於いてないことであるから、これを君の左右に侍り仕ふる所の佞媚者とするのである。さて上九は元來陽剛にして才力あるものであるが、不中不正なる爲に巽諛の惡風に感溺し己れの剛斷の性を失ひて、小人の鄙態に習ふに至つたものである。故にこれを「喪_ニ其資斧_一」と云つたのである。斯くの如く上九が、自己本然の徳たる陽剛の性を喪ふこととさへ、既に凶であるのに、況んやそれを固執して改むることを知らなかつたならば、その凶なることは言を俟たぬ所である。即ちこれを「貞凶」

と云つたのである。要するに此爻、上九の象を以て、剛徳を失ひ卑巽に流るゝものゝ、凶災耻辱を招くに至ることを説き示して、これを戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻不中正を以て卦極に居り、陽剛の徳を失ひて卑巽に流れ、資斧を失ひて凶を招くもの、即ち此爻を得たる時、志行亂れて運氣を破り、凶災に_レる象なれば、心を正しく持ち、身を慎しみて行ひ卑賤に流れざる様心掛け、氣運の安泰を計ることが肝要である。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「喪_ニ其資斧_一」とあるは、願望金談成就せず。賣買失敗損失を招く象なり。宜しく「貞凶」とある如く、現在の方針を固執せず。態度方針を一變して進むべし。

◎相 場 此爻陽剛を以て卦極の高きに居るは、相場今高き象なるも、これ以上進むべき所なく、爻辭に「喪_ニ其資斧_一」とある如く、剛徳を失ふ象あるは、先行き下落する象なり。

◎縁 談 爻意爻象より見て、纏らざる象なり。「貞凶」とあるは縁としても凶縁の象なれば、斷念して他に縁を求むべし。

◎子 實 爻辭に「喪_ニ其資斧_一。貞凶」とあるは、子供に死別するか、凶災不幸を招く象にて、子供運凶なり。妊娠此爻陽剛にして、變坎を中男となすは、男兒なり。

◎縁 運 爻意爻象より見て、男女共に縁運凶惡の象にて、「喪_ニ其資斧_一」とあるは死別の憂ひあることを示し、「貞凶」とあるは、凶縁を固執せず、縁を改むれば、變卦井は安靜の象なれば、幸福を得るに至ることを

示す。

◎家庭運 此爻陽剛を以て卦極の高きに居るは、富貴の家に生るゝ象なるも、不中正にして「喪其資斧」とあるは、志行を亂して身を亡し、家運を破るに至る象なれば、「貞凶」とある如く、志行を改め、家政の方針を變革して一身一家の安泰を計る心掛け肝要なり。

◎壽命、病氣 此爻不中正にして「喪其資斧」象あるは、攝生悪しき爲に短命に終り、不養生の爲に病氣危険に陥る象なり。宜しく「貞凶」とある如く、生活を一變し、養生法を改むべし。然らば變卦井となれば安靜の象を現すを以て短命の不幸を免れ、病氣全快を得る望みあり。

◎待 人 爻意爻象より見て、待人來らざる象なり。「貞凶」とあれば、現在の心持にて便など待つよりも態度を改めて自身より出向くを吉とす。

◎走人、失物 爻辭に「巽在牀下」とあるは、走人何所かに潜伏し、失物何かの下になるか、何所かへ陥り居る象なり。而して「喪其資斧」とあれば、走人容易に判明せず、失物出づる望みなき象なり。然し「貞凶」とあれば、方針を變じて探查し見るべし。上巽は東南、變坎は北、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻意爻象より見て、旅立凶、爭事、就職不調、試験不成績の象なり。

◎開 業 爻辭に「喪其資斧。貞凶」とあるは、開業の時機に非ざることを示すものなり。

◎轉業、移轉 爻辭に「貞凶」とあるは、現状を固執することの凶なることを示すものなれば、何れも轉ずるを吉とす。

◎天 候 此爻陽剛なるは、今天氣良き象なるも、その剛徳を失ふ象なるは、不良となる象なり。

兌 爲 澤

兌亨。利貞。

(卦辭讀方) 兌は亨る。貞に利し。

(象 義) ◎「兌」兌は悦ぶの義である。此卦上下共に、一陰の主爻が二陽剛の上に位して居る象である。それ易の道に於いては、陽を剛となし、尊とし、陰を弱となし、卑しとする。今卑賤微弱なる一陰が、陽剛尊貴なる二陽の上に上げられて居るのは、これ即ち大いに悦ぶものである。又人の悦ぶ時は口を開くものであるが、此卦兌口を重ねたるは即ち人の悦ぶ象である。又兌を澤とする。澤は萬物を潤してこれを悦ばすものである。即ち以上の象義より、此卦を兌と名づけたのである。而して此卦を巽の次に置いた譯は、序卦傳にも「巽者入也。入而後說之。故受之以兌」とある如く、人その入る所を得れば、悦ぶを人情とするからである。

(意 義) 凡そ物事は、悦びを以て進み行へば、功を遂げ、成就を見るものであり、又我れ悦びて人に接すれば、人も亦悦びて我れに與みし助けるものである。故に「兌亨」と云つたのであるが、これを「元亨」と云はない譯は、其道其事を心には悦んでも、未だこれを躬に行はざれば、必然の成功を期し難いからであるが、これを巽の「小亨」と云ふに比ぶれば、稍勝つて居るものであつて、巽も兌も同じく一陰二陽の卦であ

るけれども、異は己れを捨て、他に従ふものであり、兌は自ら悦んで衷心より進むものであるから、巽を「小亨」と云ひ、兌を「亨」と云つたのである。而して悦ぶの道にも正邪の二途があるから、正しきに就きて悦びを以て進めば、その身を修めて、以て天下國家にも及ぼすことが出来るが、邪悦を以て進めば、身を亡して天下國家をも失ふに至るものであるから、これを「利貞」と云つて戒しめたのである。要するに此卦、兌悦の道を説き、これに處するの道を教へ戒しめたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此卦兌悦を重ね。即ち此卦を得たる時、「兌亨」とある如く、物事大體順調に運び、悦びを得る運勢であるが、又兌を毀折となすを以て、物事の中折れを招く憂ひあれば、「利貞」と戒しめある如く、運氣に驕りて心を亂し、邪慾不正に流れざる様慎しみを守ることが肝要である。尙卦意卦象より見て、他と親和して運氣を開く象、喜慶事、口舌の災ひ等の象がある。

◎願望、金談、賣買 此卦兌悦の象にて、「兌亨」とあるは、願望金談成就し、賣買利を得る象なるも、兌は毀折の象ありて、調子に乗りて折角の運氣を破る憂ひあれば、「利貞」と戒しめある如く、何れも誠實を守りて運氣を全うする心掛け大切なり。

◎相場 此卦上下共に一陰二陽の上に在り、又兌を毀折となすは、相場挫折する象なり。

◎縁 談 爻辭に「兌亨」とあるは、纏る象なり。而して縁としては、兌悦親和の象なれば良縁なり。然し「利貞」と戒しめあれば、結婚後情に溺れて夫婦間の節義を亂さざる心掛け大切なり。

◎子 實 此卦兌悦親和の象にて、「兌亨」とあるは親子間和合を得て幸福の象なるも、「利貞」と戒しめあれば、親子間の禮節を亂さざる心掛け大切なり。姪姪此卦少女の象兌を重ねるは、女兒なり。

◎縁 運、家庭運 亦兌を和悦の象となし、卦辭に「兌亨」とあるは、夫婦間の和合を得て幸福の象にて、家庭運亦和樂幸福を得る象なるも、「利貞」と戒しめあれば、情に溺れて序ん失ひ、折角の幸福を破らざる心掛け肝要なり。

◎壽命、病氣 卦辭に「兌亨」とある如く、此卦和悦の象なるは、長壽の象にて、病氣も全快の悦びを得る象なるも、又兌に毀折の象あれば、「利貞」と戒しめあるを忘れて、攝生養生を缺く時は、折角の運氣を逆轉して、短命の不幸を招き、病氣恢復の望みを失ふに至る懼れあれば注意大切なり。

◎待人、走人、失物 此卦和親の象にて、卦辭に「兌亨」とあるは、待人來り、走人失物判明する象なり。兌を西となす。走人失物その方角を尋ねべし。

◎旅 立 卦辭に「兌亨」とあり。又此卦兌悦の象なるは、出て、吉なり。然し「利貞」とあれば、旅中萬事に慎しみを失はざる心掛け肝要なり。

◎争 事 此卦和悦の象にて、「利貞」と戒しめあるは争事卦意に反して凶なることを示すものなり。

◎就職、試験 卦辭に「兌亨」とあり、又此卦和悦の象なるは、就職成就し、試験好成绩を得て悦びを見る象なり。然し「利貞」と戒しめあれば、慢心油断して將來の運氣を破らざる心掛け大切なり。

◎開業、轉業、移轉 卦辭に「兌亨」とあれば、何れも進みて吉なるも、「利貞」と戒しめあれば、無理をして

進むは不可なり。

◎天 候 此卦一陰二陽の上に在り、又兌を毀折となすは、天氣不良なるか、悪化する象なり、

初九 和兌。吉。

(爻辭讀方) 和にして兌ぶ。吉なり。

(象 義) ◎「和兌」初九剛正を得て係應なきの象。

(意 義) 卦辭に「利貞」とある如く、兌の時に於いて戒しむべきは貞にある。今初九は剛を以て陽に居り、正を得たるものであるから、邪媚に流るゝことなく、又應爻九四も此爻九二も共に同剛で、比應する所なく、下位に居りて係應なきらのであるから、偏私することなきものである。これ即ち説ぶことと和順にして貞なるもので、兌悦の道止しきを得、その吉なること云ふ迄もないものである。故にこれを「和兌。吉」と云つたのである。その他の卦に於いては、剛を以て陽に居るものは、或は過剛の嫌ひがあるとなし、比親應與なきものは危虞ありとするものであるが、今兌の卦に於ては、貞なるを以て利しとするが故に、初九が剛正にして比應なきも、兌の道を得たるものとして、和にして兌び、吉を得るものとするのである。要するに此爻、兌悦の道、貞正和順にあることを説き示したのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻最下に居り、比親應與なきは、他の援けなく今微運の象なるも、剛正にして貞正和順の徳あ

るは、心志高潔にして偏私の失なく、才力を備ふるものなれば、「和兌。吉」とある如く、吉運に向ひ和悦を得るに至る象である。

◎願望、金談、賣買 爻辭に「和兌。吉」とある如く、爻意爻象より見て、心志進退節に中りて、何れも功利を遂げ得る象なり。

◎相 場 此爻剛正を以て最下に在るは、相場底意強きも四圍の情勢の爲に伸び悩む象なり。

◎縁 談 爻辭に「和兌。吉」とあるは、良縁にして纏る象なり。

◎子 實 此爻剛止にして悦道の貞を得、「和兌。吉」とあるは、才力を備へ、心志正しき兒女を得、親子間和合して幸福を得る象なり。妊娠此爻剛を以て陽に居るは男兒なり。

◎縁運、家庭運 爻辭に「和兌。吉」とあるは、夫婦間、家庭共に和合安泰を得て、縁運、家庭運何れも幸福の象なり。

◎壽命、病氣 此爻剛正なるは體質強健の象にして、「和兌。吉」とある如く、長壽を保ち、病氣全快する象なり。

◎待人、走人、失物 爻辭に「和兌。吉」とある如く、爻意爻象より見て、待人來り、走人失物判明して悦びを得る象なり。下兌は西、變坎は北、走人失物その方角を尋ねべし。

◎旅 立 出ても吉なること、爻意爻象より見て説明の要なし。

◎争 事 此爻「和兌。吉」とあるは、争ふは不利にして、穩かに和解する方却て有利なる象なり。

- ◎就職、試験 亦爻辭に「和兌。吉」とあるは、就職訓ひ、試験好成绩を得ること明かなる象なり。
- ◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れも進みて吉なり。
- ◎天候 此爻陽を以て正を得るは、天氣良好の象なり。

九 一 孚兌。吉悔亡。

(爻辭讀方) 孚ありて兌ぶ。吉にして悔亡ぶ。

(象 義) ◎「孚」九二剛中の象。又互體離の象。

(意 義) 九二が剛中の徳を備へて居るのは、悦の道に於いて孚あるものである。故にこれを「孚兌」と云つたのである。而して九二は陰に居りて正を得ず、又上九五と同剛にして相應せず、且此爻六三陰柔不正にして媚悦の小人である、故に本來悔あるべきものであるが、剛中にして孚あるものであるから、吉を得て悔亡ぶるものである、故にこれを「吉悔亡」と云つたのである。要するに此爻、九二の剛中にして悦道に孚あることを讚美したのであつて、人も亦悦の道に於いて、此徳を忘れざるべきことを示したのである。

(占 斷)

- ◎運 勢 此爻正を得ず、且上に應交なく、又六三の比は陰柔不正にして本來悔ある象なるは、運氣上辛勞艱難に遭遇する象あるも、剛中にして悦道に孚ある爲に、吉にして悔亡ぶる象あるは、誠實強硬にして能く此運氣を打開し、吉祥幸運を得るに至る象である。

- ◎願望、金談、賣買 此爻孚ありて能く悔を免れ、吉を得る象なるは、何れも初め多少の故障を免れざるも、誠實の心ある爲に、能くこれを排除して終に功利を遂ぐる象なり。

- ◎相場 此爻剛中にして孚あるは、相場手固き象にて、變卦隨となるより見て、先行き上りて後下る象なり。

- ◎縁 談 爻辭に「孚兌。吉悔亡」とあり、又變卦隨となるは、縁談初め多少の故障あるも、誠實を以て運ぶ爲に細り、又縁としても初め多少の故障を見るも、末は吉を得る縁なり。

- ◎子 實 此爻剛中にして孚あるは、誠實にして志强き兒女を得る象にて、「吉悔亡」とあるは、初め子供に就きて多少の故障苦勞あるも、末には幸福を得る象なり。姉姪此爻剛中を得、變體良を少男となすは、男兒なり。

- ◎縁運、家庭運 此爻悔あるものなるも剛中にして孚ある爲に、「吉悔亡」象あるは、縁運、家庭運共に、初め故障辛勞を免れざるも、誠實の心ある爲に、これを排除して後には吉祥幸福を得る象なり。

- ◎壽命、病氣 亦此爻悔あるものなるも、孚ありて悔を免れ、吉を得る象なれば、壽命上初めには健康障害を免れざるも、攝生よき爲に值康を恢復して長壽を保ち、病氣長引くも養生よき爲に全快を得る象なり。

- ◎待 人 此爻剛中にして孚あり。又變卦隨となるは、待人來る象なり。然し本來悔ある象なれば、稍長引くべし。

- ◎走人、失物 此爻悔を免れて吉を得るは、走人失物共に稍長引くも判明する象なり。下兌は西、變震は東

その方角を尋ねべし。

- ◎旅立 交意交象より見て、慎しみ忘れざれば出て、可なり。
- ◎争事 此交孚ある爲に、悔亡びて吉を得るもの、誠實の心を以て和解するを吉とす。
- ◎就職、試験 交意交象より見て、就職稍長引くも纏り、試験二三良好ならざる課目あるも、大體に於いて好成績を得る象なり。而して孚ある爲に悔亡びて吉を得るものなれば、何れも誠實と努力とを忘れざる心掛け肝要なり。
- ◎開業、轉業、移轉 亦交意交象より見て、無理に流れず、誠實を以て進むならば可なり。
- ◎天候 此交剛中を得るは、今天氣良き象なるも、本來陰位にして變卦隨となるより見て、後不良となり又間もなく良好に復すべし。

六三 來兌。凶。

(文辭讀方) 來りて兌ぶ。凶なり。

(象 義) ◎「來兌」他の我に來り同ずるを悦ぶ義なり。六三陰柔不中正にして兌口の主たる象。
 (意 義) 六三は兌悅の時に當り、陰柔にして不中正で、且兌口の主たるものである。これ巧言令色にして、佞媚の態度を以て他を誘ひ、その來りて我れに同ずるを悦ぶものである。故にこれを「來兌」と云つたのであるが、六三が斯くの如きは、悅道の正しきを失つたもので、その凶なることを俟たぬ所であるか

ら、これを「凶」と云つたのである。要するに此交、六三の悅道の正しきを失へることを痛撃し、その凶を招くべきことを示したのであるが、亦これを以て巧言令色の徒を戒しめたのである。

(占 斷)

- ◎運勢 此交陰柔下中正にして兌口の主たるは、此交を得たる人の、巧言令色にして誠實の心なきことを示すもので、交辭に「凶」とある如く、人に卑しめられ、凶災に陥るべきことを俟たぬ所である。宜しく悅道の本義に歸り、志行を改めて凶災を避くるやう心掛けるべきである。
- ◎願望、金談、賣買 交意交象に示す如く、巧言令色にして誠實の心なき人なり。何れも功利を透げ得ざるこゝと、交辭に「凶」とある如く明かなり。
- ◎相場 此交陰柔を以て毀折の象兌の主となり。變卦夬となるより見て、相場崩落する象なり。
- ◎縁談 交意交象より見て、誠實なき爲に纏らざる象にて、縁としても凶縁なり。
- ◎子實 此交陰柔不中正にして兌の主たるは、貞心なく、志行亂るゝ兒女を持ち、交辭に「凶」とある如く、不幸凶運の象なり。妊娠此交陰柔にして少々の象兌の主たるは、女兒なり。
- ◎縁運 此交陰柔不中正にして兌の主たるは、女子は才徳なく性質佞媚の夫に添ひ、男子は貞心を缺き淫奔なる女を妻として、「凶」とある如く、縁運不幸の象なり。
- ◎家庭運 此交陰柔不中正を以て、毀折の象兌の主となり、凶なるもの、才徳なく、墮弱にして志行を亂し身を破り家を傾け、不幸に陥る象なり。

◎壽命、病氣 此爻陰柔不中正を以て毀折の象兌の主たるは、體質虛弱にして然も不攝生不養生の象なれば「凶」とある如く、短命に終り、病氣恢復の望みなき象なり。

◎待人 此爻陰柔不中正にして誠實なく、爻辭に「凶」とあるは、待人來らざる象なり。

◎走人、失物 爻辭に「凶」とある如く、爻意爻象より見て、走人判明せざるか。身上に危険ある象にて、失物亦出てざる象なり。又此爻陰柔を以て二四の兩陽に密比するは、走人に色情關係ある象なり。

◎旅立、爭事、就職、試験 亦爻辭に「凶」とある如く、爻意爻象より見て、旅立凶、爭事不利、就職不調試験不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 亦爻意爻象より見て、何れも凶なること説明の要なし。

◎天候 此爻陰柔を以て陰卦兌の主たるは、天氣不良の象なり、然し變卦夬となるより見て後に良好に轉ずべし。

九四 商兌未寧。介疾有喜。

(爻辭讀方) 兌えんびを商はばりて未いまだ寧やすからず。介かゐとして疾やままば喜よろこび有り。

(象義) ◎「商」商は量るなり。九四、五三兩爻の何れに比するかを量り迷ふことを云ふ。約象巽を進退不果となすの象を取る。◎「未寧」不安の意、九四變すれば上卦坎となり、坎を勞卦となすより云ふ。◎「介」節操固く、截然さつぜんとして剛斷するの義にして、九四陽剛の象より取る。◎「疾」非を悟りて悔い疾むの

義、亦變坎の象。◎「喜」兌の象。

(意義) 九四は九五と六三との中間に居るものであるが、九五は同剛なるが故に親比し難く、六三は陰柔佞媚なるものであるから、密比し易きものである。而してその比するに於いて、義を以てすれば九五の剛健中正なるものに親比すべきであるが、情を以てすれば六三の巧言柔媚なるものに密比することを悦ぶものであつて、その何れに親比せんかに迷ひて心意決せず、胸中不安の念を抱き心身安寧を得ざるものである。故にこれを「商兌未寧」と云つたのである。九四たるもの、宜しく斯くの如き境地に處して、その本來の性たる陽剛の徳を發揮し、六三の陰邪佞媚なるものに親比することの非を悔い疾みて、節操を堅持し、截然さつぜんとして六三と斷ち、九五の中正なるものに親比せば、必ず喜びを得るに至るものである。故に「介疾有喜言」と云つて、六三と斷ちて九五と結ぶやう九四を諭し戒しめたのである。要するに此爻、九四の象を以つて、人の兌悅の道に處して、剛正を好まず、柔媚を喜び、義を失ひて情に溺るゝを弱點となすことを説き示し、義に従ひて情に溺れざる様これを戒しめたのである。

(占斷)

◎運勢 爻辭に「商兌未寧」とある如く、此爻九五と六三との間に居りて、その比する所を迷ひ、寧やすからざるもの、即ち此爻を得たる時、二途に迷ひて意決せず、心身安定を缺く象である。宜しく「介疾有喜」とある如く、堅固なる精神を以て斷然正理の存する所に従ひ、利慾情念に囚とらはれて不正に陥らざる心掛けが肝要である。然らば災過を免れて吉祥安泰を得るものである。尙爻意爻象より見て、身上の勸搖、不正邪惡

る者に迷されての災ひ、情慾に耽り、安逸を貪りての災害等の象がある。

◎願望、金談 此爻九五と六三との兩爻に比する所を迷ひ、安定を得ざるもの、即ち願望二鬼を追ひて成就し難く、金談これを求むる人に迷ひて運ばざる象なれば、「介疾有喜」とある如く、願望は成功安易に見ゆる者に不正なることに進まず。困難に見ゆるも正しき道を求めて進まば結局功を遂げて悦びを得べく、金談強固なる決心を以て、九五の如き有力なる目上の人に求むれば、至難なるが如く見えて却て功を奏すべし。

◎賣 買 此爻六三の柔媚と、九五の剛止とに比する所を迷ひ、寧からざる象あるは、賣買共に目先の利に迷ひて不正に流れ、永遠の利を失ふ憂ひあることを示せば、「介疾有喜」とある如く、目先の利に囚はれず、正しき心を以て永遠の利益を目的として進む心掛け大切なり。

◎相場 爻辭に「商兌未寧」とある如く、此爻陽剛九五と陰柔六三とに、比する所を迷ひて決し難き象あるは、相場強弱兩面の觀測行はれて氣迷ふ象なり。

◎縁談 爻意爻象より見て、「商兌未寧」とある如く、縁談二つありてこの取捨に迷ひ居る象なり 宜しく「介疾有喜」とある如く、現在の情勢に及び外觀的の美に迷はずして、先方の人格本位にて決定するを吉とす。

◎子 實 此爻その比する所に迷ひて安からざる象あるは、兒女の意志薄弱にして不幸に陥る憂ひあることを示す。宜しく「介疾有喜」とある如く、養育上強硬策を用ゆべし。然らば兒女の過ちを救ひて幸福を得るに至るべし。姪姪此爻陽剛にして變坎を中男となすは、男兒なり。

◎縁 運 爻辭に「商兌未寧」とある如く、爻意爻象より見て、男女共に縁を定むるに當りて外觀に従ひて凶縁を結び、不幸を招く憂ひあることを示せば、「介疾有喜」とある如く、人格的に強く正しき相手を選びて縁を定むる心掛け大切なり。

◎家庭運 此爻陽剛を以て宰相の位に居るは、富貴の家に生るゝ象なるも、「商兌未寧」とあるは、心志柔弱にして身を過ち、家運を傾けて不幸に陥る憂ひあることを示せば、「介疾有喜」とある如く、意志を強固に持ちて、運氣の安泰を計ること肝要なり。

◎壽命、病氣 此爻九五の剛正と、六三の陰柔とに比する所を迷ひ、安からざる象あるは、健康上障害多く病勢ぐづゝきて長引き不安を見る象なり。然し「介疾有喜」とあれば、強固なる意志を以て攝生養生を嚴守せば、健康を得て壽を保ち、病氣全快を得べし。

◎待人、走人、失物 此爻九五と六三との間にありて、その居就に迷ひ居る象なるは、待人來否に迷ひ居り、走人家出先にて落着く所を得ずして流浪し居り、失物何かの間に迷ひ込み居る象なり。「介疾有喜」とあれば待人強硬に催促せば來り、走人嚴密に探査せば判明すべし。上兌は西、變坎は北、その方角を尋ぬべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「介疾有喜」とあるは、旅立爭事就職共に、迷ひ定らず。強固なる意志を以て敢然として進まば、何れも功を遂げて喜びを得べく、試験は成績の如何の如きも念頭に置かず。努力勉強せば自然好成绩を得べし。尙受験後ならば、及落の界に立ち居る象なり。

◎開業、轉業、移轉 亦爻辭に「介疾有喜」とあれば、迷ひ居らずして決然として進むを吉とす。

◎天候 此爻九五の剛正と、六三の陰柔との間に在りて、去就に迷ひ居る象なるは、天候ぐづりきて定まらざる象なり。

九五 孚于剝、有厲。

(爻辭讀方) 剝に孚あらば、厲きこと有り。

(象義) ◎「孚」九五上六半坎の體を爲す象より取る。九五、上六の陰柔に密比してこれを誤信するの憂ひを云ふ。◎「剝」上兌を秋となす。上六その極に居るは秋の終りの象にて、晩秋の候、萬物剝落するものなるより取る。上六陰邪にして陽を剝するものなることを云ふ。

(意義) 九五は剛健中正の徳を備ふるものであるが、今兌悅の時に當りて上六の陰柔に密比するものである。然るに上六は陰柔不中にして兌の主となり、兌悅の極に在るもので、巧言便佞の小人である。故に九五剛健中正なりと雖、これに巽惑されて親愛するに至る憂ひがあるものである。若し九五にして斯くの如き過ちに陥らば、忽ちその邪毒を受けて剝盡の禍害を招くに至ることは必然であるから、これを「孚于剝、有厲」と云つて九五を戒しめたのである。それ剛健中正の徳を備ふる九五に於いてさへ、聖人は陰邪佞媚なる上六に惑溺さるゝ憂ひあることを説きてこれを戒しめて居るのである。况んや常人に於いては、巧言便佞の徒に惑されてその禍害に陥る憂ひあることは、當然のことである。宜しく此爻の説き戒しむる所を見て、切に戒慎すべきである。

(占斷)

◎運勢 此爻剛健中正を以て君位に居るは、運氣盛大の象なるも、上六の陰邪に惑されて危害に陥る憂ひありて、これを戒しむるは、巧言便佞なる小人に惑され、これを親愛して禍害を招き、凶運に陥る憂ひある事を示すのなれば、意志を強固に持ちて、此過ちを招かざるやう戒慎し、運氣の安泰を保つ様心掛けることが肝要である。尙爻意象より見て、利に迷ひ情慾に溺れての災ひ、危難事、詐謀に陥る憂ひ等があるから注意を要する。

◎願望・金談 爻意象より見て、進路を誤りて功を遂げ難き象なれば注意を要す。

◎賣買 此爻上六の陰邪に惑されて厲きことある象なるは、不正なる者に欺かれ、利慾に迷ひて失敗損失を招く憂ひあることを示せば、賣買共に細心の注意肝要なり。

◎相場 此爻剛健中正を以て君位の高きに居るは、今相場高き象なるも、上六の陰柔に密比し、變卦歸妹となるより見て、先行き下る象なり。

◎縁談 此爻上六の巧言便佞に惑されて、厲きことある象なるは、先方は仲介者の巧言令色に欺かれて、凶縁を結ぶ憂ひあることを示すものなれば、縁談中止するを吉とす。

◎子實 爻辭に「孚于剝、有厲」とある如く、爻意象より見て、愛情に溺れて兒女の身を過らしめ、不幸に陥る象なれば戒慎を要す。妊娠、此爻剛健中正を以て君位に在るは、男兒なり。

◎縁運 此爻上六の陰邪に惑溺されて、厲きことある象あり。又變卦歸妹となるは、男女共に情慾に溺れ

て不貞佞邪なる者と縁々結び、不幸に陥る象なれば戒慎を要す。

◎家庭運 此爻剛健中正を以て君位に居るは、富貴盛大の家に生るゝ象なるも、「孚于剝、有厲」とある如く、爻意爻象より見て、情慾に溺れて志行を亂し、巧言佞の小人を信愛して災ひを招き、身を破り家運を傾けて不幸に陥る象あれば戒慎を要す。

◎壽命、病氣 此爻剛健中正なるは、生來強健の象なるも、上六の陰邪に惑されて厲きことある象なるは、不攝生に流れ情慾に耽りて健康を損じ、短命に終る憂ひあることを示し、又不養生の爲に病氣危険に陥る象なれば、身を慎しみてこれを防ぐ心掛け肝要なり。

◎待 人 此爻上六の陰邪に密比して厲きことあるは、待人來るも却て身の災ひとなる象なり。

◎走 人 此爻上六の陰邪と密比して厲きことある象なるは、不正なる色情關係にて家出したる象にて、身上に危険の憂ひある象なり。上兌は西、變震は東、その方角を尋ねべし。

◎失 物 爻辭に「有厲」とあり。又變卦歸妹となるより見て、出て難し。方角走人と同方角を尋ね見るべし。

◎旅立、爭事、就職、試験 爻辭に「孚于剝、有厲」とあり。又變卦歸妹となるより見て、旅立凶を見、爭事正理に反して不利を招き、就職依頼する人を過りて調はず。試験勉強を缺きて不成績を招く象なり。

◎開業、轉業、移轉 亦爻辭に「有厲」とあり。變卦歸妹となるより見て、何れも進むは凶なり。

◎天 候 此爻剛健中正を得るは、今天氣良き象なるも、上六の陰柔に密比し、變卦歸妹となるより見て、

不良に向ふべし。

上六 引兌。

(爻辭讀方) 引いて兌ぶ。

(意 義) 此爻陰柔を以て兌の極に居り、且成卦の主となつて居るものである。即ち悦ぶこの極なるもので己れ悦びて亦人をその悦びに引き入れるものである。故にこれを「引兌」と云つたのであるが、その吉凶の辭を係げざる所以は、その悦ぶことの正邪に由つて、吉凶も亦異なるが故である。然し上六が陰柔にして、その悦ぶことの正邪を辨ずること能はざるは、象傳にも「未兌」とある如く、悦道に於いて光大を得ざるもので、君子の取らざる所である。

(占 斷)

◎運 勢 此爻陰柔を以て兌の極に居り、又成卦の主にして、「引兌」象あるもの、即ち此爻を得たる時、諸事情に走りて歡樂し、理に由つて動く所なく、物事の正邪を明かにする力なきものにて、身を過ち、運氣を破るに至る憂ひあれば、情慾を慎しむ、理性を忘れざる機心掛け、運氣の安泰を計ることが肝要である。

◎願望、金談 此爻情に由つて動き、理を忘るゝもの、願望金談成就し難し。

◎賣 買 爻意爻象より見て、賣買共に計數を忘れ、利益のみを夢想して悦び、結局得る所なき象なり。

◎相 場 此爻陰を以柔にて居り、毀折の象兌の主たるは、相場安く、先行も尙下る象なり。

◎縁談 此爻吉凶如何は、その悦ぶことの正邪如何にあるもの、縁談の成否、自己の志行の正非如何にあり。又縁としても、自己の結婚後の心事態度如何により、幸、不幸何れにもなる象なり。

◎子寶 此爻陰柔を以て兌の主となり。「引兌」とあるは、兒女の性質感情的にて、意志薄弱なることを示す。幸不幸は養育法の如何にあり。姪姪此爻柔正を以て、陰卦兌の主たるは、女兒なり。

◎縁運 爻辭に「引兌」とある如く、爻意爻象より見て、男女共に多情にして、縁運不幸を招く象なれば戒慎を要す。

◎家庭運 此爻悦の極なるもの、生來は家庭運幸福の象なるも、墮弱にして悦樂に耽り、身を亡し、家運を傾けて不幸に陥る憂ひあることを示す。意志を強固に持ちて身を慎しみ、一身一家の安泰を計る心掛け肝要なり。

◎壽命 此爻陰を以て柔に居るは、體質虚弱の象にて「引兌」とあるは遊墮悦樂に耽りて不攝生に流るゝことを示し、毀折の象兌の主たるは、健康を損じて短命に終る憂ひあることを示す。切に戒慎すべし。

◎病氣 爻意爻象より見て、不養生の爲に全快を得ざる象あることを示す。養生を嚴守す。

◎待人、走人、失物 爻辭に「引兌」とあるは待人來り、走人歸來し、失物出づる象なり、上兌は西、變體乾は西北、その方角を尋ねべし。

◎旅立、爭事 此爻吉凶の如何はその悦ぶことの正邪如何にあるも、旅立の目的正しからば出て、吉にして、爭事正理に基づくものならば、勝利を得べし。若し然らざれば何れも凶なり。

◎就職、試験 爻意爻象より見て、遊惰の人なることを示す。即ち「引兌」とある如く、樂觀せるもの期待に反し、就職調はず、試験不成績を見る象なり。

◎開業、轉業、移轉 爻意爻象より見て、何れもその進むこと理正しからば吉なるも、正しきを失し、山氣又は無理の點等あらば凶なり。

◎天候 此爻陳正にして、毀折の象兌の主たるは、天候悪しきか、悪化する象なり。

䷛ 風水渙 渙亨。王假有廟。利涉大川。利貞。

(卦辭讀方) 渙は亨る。王有廟に假る。大川を渉るに利し。貞に利し。

(象義) ◎「渙」渙とは離散消解の意味である。此卦坎を下にし巽を上にする。坎を水となし巽を風となす。即ち風水上行く象で、風の水上を行く時は、必ず水を吹き散らすもので、渙の象がある。又坎を險となし巽を従となし、内卦を我れとなし、外卦を彼となす。これ我れに險みありて彼が従ふ象で、即ち我れの險みを彼れが散ずる義で、亦渙の象である。又坎を冬となし、氷となし、巽を春となし、風となす。即ち嚴寒の氷が春風に吹かれて温散解消する象である。即ち以上の象義より卦を渙と名づけたのである。而して此卦を兌の次に置いた譯は、序卦傳にも「說而後散之。故受之以渙」とある如く、人が悦べば苦難を散ずるに至るものであるからである。◎「王」九五の象。◎「有廟」大廟と云ふが如く、祖先の靈を祭る所を